

平成30年度

事業報告書

社会福祉法人 北星会

【事業概要】

社会福祉法人北星会の状況

平成30年度は、「医療」と「介護」の連携実現のために、各事業所間の横のつながりを重視し、法人一体となった事業の推進をおこなってきました。

また、法人本部体制を再構築し、施設長会議をはじめ、施設間の担当部門会議、各種研修会・勉強会などを実施することで、法人の信頼性向上やサービスの質の向上に努め、地域の方から選ばれ、職員が充実して働ける法人を目指してきました。

また、深刻化する福祉人材不足を解消するため、地域の就職説明会への出展はもとより、大学・専門学校・高校などへの求人活動、SNSによる情報発信、インターンシップやリクルートチームによる活動など、幅広い求人展開を実施しました。直ぐには結果に結びついていないものの、今後も学生・学校との繋がりを築き、安定した人材の確保に努めていきたいと考えております。

事業運営については、特養天橋園休止・廃止とその後の天橋園群の改修計画、与謝の園の移転・建替計画について、府・市・町との協議、理事会・評議員会での審議等を重ね、計画を進めています。

平成30年度 社会福祉法人北星会

法人本部 事業報告書

【年度統括】

平成30年度は、前年度から取り組んできた法人本部機能の強化を更に推し進め、本部職員の増員と本部の組織体制の再構築を行いました。

法人運営においては、評議員会・理事会を基本とするガバナンス強化、人事・雇用・賃金・労務等において、より良い職場環境の実現に取り組むと共に、天橋園群の改修計画及び与謝の園移転建替計画について、行政機関・評議員会・理事会において具体化を進めてきました。

【事業報告】

概況

本部機能の強化を目的に、法人内各施設から4名が法人本部へ異動、本部事務局長を中心に6名の本部職員でスタートしました。

理事長をはじめ各理事および施設長との密なる連絡体制の構築と共に、法人本部に総務課・事業課・財務課を創設、それぞれの課において業務を行うことで、法人の様々な課題に迅速かつ具体的に取り組むことができました。

また、月2回の施設長会議では、各施設と法人本部の情報共有を図り、各施設の運営状況、人事・雇用・賃金・労務、職員育成などにおける課題に取り組んできました。

特養天橋園休止・廃止に伴う天橋園群改修、与謝の園移転建替については、各行政機関と具体的協議を行いました。

総務課

平成30年度は、各拠点単位で行っていた人事・労務・給与業務を法人本部で一元化し、人材確保に向けた各種就職説明会の出展・広報等のリクルート活動を進めてきました。

また、主に各事業所の利用者負担金自動振替に使用する伝送サービスを、より便利なインターネット経由でできるように法人一括で契約し、順次変更作業を進めました。

1. 人事・採用・労務・給与関係

- ① 人事・労務・給与業務を法人本部で一元化するための勤怠管理システムの業者を選定し、各施設・事業所の勤怠状況を把握することで、スムーズに導入できるように努めました。また、社会保険・雇用保険の法人一括適用により、法人本部で全体の労務管理を行える体制作りを進めました。

- ② 勤怠管理システム（クロノス）の導入に伴い、年次有給休暇や時間外勤務の本部への連絡体制を構築し、システムを活用して勤怠情報を集計し、給与計算処理の効率化を図りました。
- ③ 就職情報サイトへの新規の掲載や京都市内での開催会場への出展を含めた就職フェアへの参加、見学、実習及びインターンシップの受け入れにより、職員採用に繋がるように取り組みました。

2. 広報活動の充実

- ① 広報誌「きらめき」を見やすいデザインに変更し、地域の方や求職者に法人の魅力が伝わるように工夫し、法人の取り組みについて広く知ってもらえるように努めました。
- ② 法人が求める人材を獲得するために、採用のための広報活動（新しいホームページの作成を含む管理・運営、フェイスブック等の SNS を活用した求人情報の PR 等）を行いました。

3. 規則規程関係の整備

- ① 職員が安心して業務を行える環境整備のための、給与規程、就業規則及び各種管理規程の改定決議を受け、必要な整備を行いました。
 - ・就業規則の一部改定（休職の条件整備、リフレッシュ休暇）
 - ・給与規程の一部改定（休職期間中の給与、夜間の待機手当支給要件、前歴換算）
 - ・育児・介護休業等に関する規則の一部改定（休業期間延長）
 - ・名誉理事長・名誉理事・特別顧問推戴規程の制定
平成 31 年 1 月 23 日 吉岡均二先生を名誉理事長に推戴し記念講演会を開催する。
 - ・私有車の業務使用に関する管理規程の制定
 - ・会議及び委員会設置規程の制定
 - ・京都府社会福祉事業企業年金基金にかかる取扱規程の一部改定（厚生年金適用事業所の法人一括化）
 - ・定款の変更（第二種社会福祉事業の追加）
 - ・役員等報酬規程の一部改定（非常勤役員等の報酬）
 - ・無期契約転換職員就業規則の制定
 - ・経理規程の一部改定（拠点区分の追加・削除）

4. 消耗品等一括購入等効率的な費用管理

- ① 各施設での物品購入にかかるコストを下げるために、各施設の物品購入先及び仕入れ価格の比較表を作成し、検討のための基礎資料を作成しました。

5. 金融機関のデータ伝送サービスの環境整備

- ① 拠点における各金融機関のデータ伝送サービスを、より便利なインターネットでの使用ができる環境を整備しました。主に各事業所の利用者負担金自動振替に使用する

伝送サービス（京都銀行・北都信用金庫・京都農協）を、法人一括で契約し、順次変更作業をすすめました。

6. 吉岡均二先生を囲む会開催

- ① 日時：平成 31 年 1 月 23 日（水）19:00～20:30
- 場所：宮津市福祉・教育総合プラザ第 1 コミュニティールーム
- 内容：名誉理事長推戴・記念講演「法人創立時の想い」
- 参加者：61 名

事業課

平成 30 年度事業課では、以下の事業を行ってきました。

1. 天橋園群建替え事業
2. 与謝の園移設・建替え事業
3. 北星会法人研修事業
4. Recruit（採用）活動事業
5. 介護予防・日常生活支援総合事業
6. 北星会サービス会議事業

事業報告

1. 天橋園群建替え事業

平成 29 年度 10 月より特養の入所者 30 名を法人内施設、他法人特養へ移設していただき、平成 30 年 5 月末ですべての入所者の移設が完了いたしました。6 月より事業を休止し、京都府、宮津市と天橋園廃止に向けた手続きをすすめると同時に改修計画の作成を行っております。

2. 与謝の園移設・建替え事業

与謝野町と移設・建替えに係わる協議・検討をすすめております。

3. 北星会法人研修事業

平成 30 年 8 月 7 日にリヴドゥコーポレーション福祉ビジネス研究所客員研究員 白鷗大学教育学部教授 川瀬善美教授を招き、午前中に一般職員（初任者～5 年未満）対象にリスクマネジメント研修を行いました。午後からは、主任・副主任対象に介護施設の業務改善とコストマネジメント研修を行いました。

さらに、平成 30 年度京都府介護支援専門員実務者研修受講試験対策講座を 7 回、模擬試験を 1 回開催いたしました。結果は残念ながら講座受講者の合格者はいませんでした。

4. Recruit（採用）活動事業

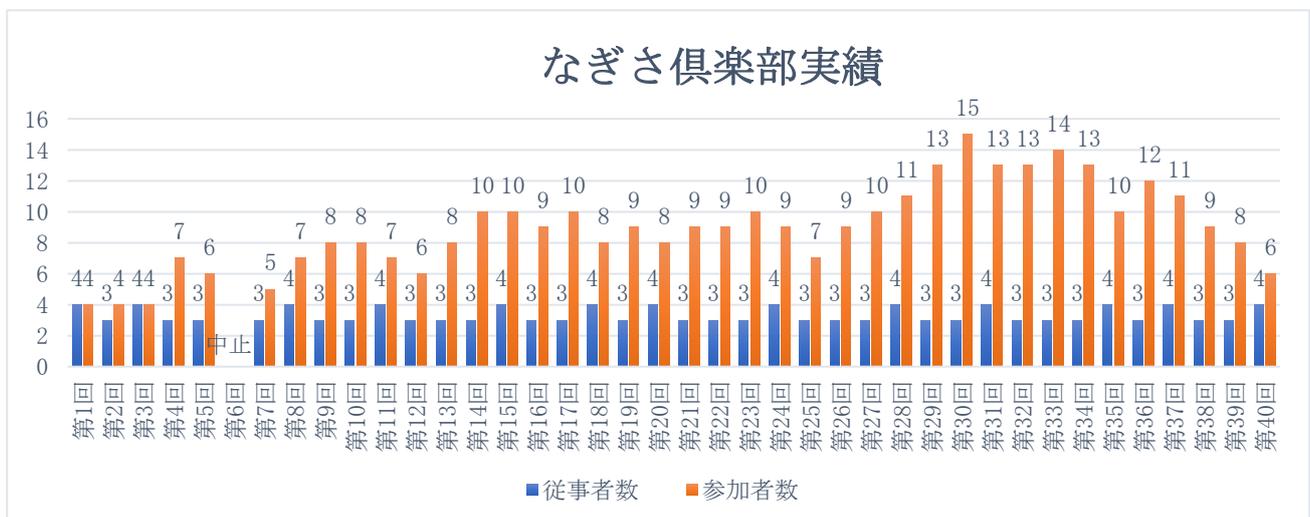
平成 30 年 10 月に北星会 Recruit チームを発足致しました。発足の主旨として、法人拠点における人材不足解消、職員採用活動の強化、働きやすい職場づくりなど職場環境を整える事をあげております。平成 31 年 3 月 3 日には、Recruit チームで企画し FUKUSHI 就職フェアへ出展しました。

5. 介護予防・日常生活支援総合事業

昨年度から実施場所を保健センターからなぎさ苑に変わり、なぎさ苑で送迎を実施し、実施も土曜日となりました。

なぎさ倶楽部利用実績

定員は、午前 15 名、午後 15 名で行いましたが、午前中のみで、午後の利用者はありませんでした。



6. 北星会サービス会議事業

平成 30 年度から北星会の各サービス事業の担当者が定期的に会議をもち、共通の課題について意見交換を行い、北星会の横のつながりを強化する目的で連絡会議を開催しました。

会議実績

会 議 名	回数	内 容
北星会通所サービス連絡会議	3 回	通所サービスの共通課題に関する情報交換、通所サービス共通パンフレットの作成等
北星会相談員連絡会議	2 回	各施設の近況報告（入所率、入所状況など）
北星会訪問介護連絡会議	2 回	各事業所の状況、訪問介護のイメージアップについて、保険外サービスについて
北星会栄養・調理部門連絡会議	1 回	各施設の状況、意見交換

財務課

平成30年度は、法人本部業務の再構築を行う中、給与・賞与の支給や社会保険・労働保険等の手続きについて法人本部で一元化しました。そのため給与・保険料等多額の資金を管理するための基盤づくりに取り組んできました。さらに、各施設と連携しながら収支状況の速やかな把握に努め、施設長会議等法人幹部への情報提供等を行いました。

また、各施設の会計処理手順を統一するための準備を行い、今後、マニュアル等一定の手順書の作成に取り掛かりたいと考えております。

1. 法人全体の予算・決算管理

- ・平成29年度決算の精査及び平成30年度予算並びに補正予算の提案等行いました。
- ・施設毎の会計処理手順について現状把握し、統一した会計処理方法の作成に着手しました。
- ・給与・賞与支給や社会保険・労働保険業務を本部で統合する中、必要な資金の一括管理を行うための各種手続きを行いました。

2. 経営分析

- ・法人の資産・負債・純資産額を把握し、社会福祉充実算残額の算出と共に、法人の経営状況の把握に努めました。
- ・各拠点の収入状況および人件費・事業費・事務費を把握し、収支状況の試算と退職金制度統一を想定した人件費を試算しました。

3. 情報開示

- ・法人ホームページ及び財務諸表等電子開示システムを通じて、平成29年度決算の状況を開示しました。
- ・財務諸表等電子開示システムを通じて、平成29年度社会福祉充実残額および社会福祉充実計画を開示しました。

法人本部関係業務実績

年	月	日	業 務 事 項
平成30年	4月	2日	学卒者入職
		3日	北星会施設長会議
		9日	宮津市介護配食契約内容確認
		10日	グループホーム天橋の家 運営推進会議
		〃	与謝の園 介護事故対応協議
		12日	職員代表者昇給説明会
		13日	宮津市企業人権教育推進協議会役員会

	17日	北星会施設長会議
	30日	天橋の郷職員との面談開始
5月	1日	北星会施設長会議
	16日	北星会施設長会議
	18日	宮津市企業人権教育推進協議会総会
	24日	北星会内部監査（与謝の園・なぎさ苑）
	25日	北星会内部監査（天橋の郷・本部・天橋園）
	29日	北星会施設長会議
	〃	福祉の就職説明会（ハローワーク宮津）
	〃	宮津市施設長会議
	30日	宮津市人権研修
	31日	京都府と特養天橋園休止協議開始
6月	1日	法人本部体制変更
	12日	北星会施設長会議
	6日	北星会第1回理事会
	7日	宮津市家庭介護教室事業受託協議
	12日	ハウゼ天橋通所介護事業所 運営推進会議
	〃	グループホーム天橋の家 運営推進会議
	14日	北星会法人本部会議
	19日	宮津市企業人権教育推進協議会役員会
	26日	北星会施設長会議
	26日	北星会第1回評議員会
	28日	北星会法人本部会議
7月	2日	与謝地方人権教育研究会運営委員会
	7日	平成30年7月豪雨対策本部設置
	11日	北星会施設長会議
	12日	北星会合同通所サービス連絡会議
	13日	北星会法人本部会議
	17日	宮津市障害者自立支援協議会
	18日	福祉の合同就職説明会（野田川わーくぱる）
	19日	与謝野町 野田川こども園意向書提出
	24日	栗田小学校区学童事業協議
	25日	北星会施設長会議
	〃	北星会合同訪問介護事業所連絡会議
	27日	北星会法人本部会議
8月	2日	宮津市人権教育推進委員会
	6日	与謝の園職員との面談開始
	7日	グループホーム天橋の家 運営推進会議
	〃	法人合同研修

	8日	北星会施設長会議
	9日	北星会合同通所サービス連絡会議
	10日	北星会法人本部会議
	16日	天橋の郷業務運営会議
	19日	与謝地域人権教育研究大会
	21日	北星会施設長会議
	〃	与謝野町 野田川こども園ヒアリング
	22日	与謝野町 こども園、特養、障害者施設意見交換会
	24日	北星会法人本部会議
9月	6日	北星会施設相談員連絡会議
	11日	北星会施設長会議
	14日	北星会法人本部会議
	〃	与謝の園入所検討会議
	17日	天橋の郷業務運営会議
	18日	自動車保険入札
	24日	北星会施設長会議
	26日	北星会法人本部会議
10月	9日	北星会リクルートチーム会議
	〃	グループホーム天橋の家 運営推進会議
	11日	北星会合同訪問介護サービス連絡会議
	〃	宮津市企業人権教育推進協議会視察研修
	12日	宮津市高齢者虐待防止委員会
	13日	京都ジョブ博・ふるさと就職フェア in 丹後 (アグリセンター大宮)
	15日	北星会施設長会議
	16日	宮津市栗田小学校区学童保育協議
	〃	天橋の郷業務運営会議
	17日	北星会法人本部会議
	24日	宮津市人権研修
	30日	北星会施設長会議
11月	2日	北星会法人本部会議
	5日	宮津市企業人権教育推進協議会役員会
	6日	与謝野町 施設指定管理ヒアリング
	13日	北星会施設長会議
	14日	福祉の職場見学・体験会 (天橋の郷)
	〃	宮津市人権市民の集い
	〃	北星会法人本部会議
	15日	天橋の郷業務運営会議
	18日	北星会合同通所サービス連絡会議
	20日	宮津市企業人権教育推進協議会研修会

	22日	宮津市地域福祉計画推進委員会	
	26日	北星会施設長会議	
	28日	北星会法人本部会議	
	〃	宮津市施設長会議	
	29日	宮津市保健福祉計画推進委員会	
12月	3日	障害者研修	
	4日	北星会施設長会議	
	5日	北星会リクルートチーム会議	
	6日	北星会施設相談員連絡会議	
	〃	北星会法人本部会議	
	11日	北星会施設長会議	
	〃	ハウゼ天橋通所介護事業所 運営推進会議	
	〃	グループホーム天橋の家 運営推進会議	
	12日	北星会第2回理事会	
	13日	京都府 与謝の園実地指導	
	〃	宮津市企業人権教育推進協議会役員会	
	14日	北星会法人本部会議	
	17日	天橋の郷業務運営会議	
	19日	北星会栄養・調理部門合同会議	
	20日	なぎさ苑業務運営会議	
	25日	北星会施設長会議	
	〃	北星会第2回評議員会	
	27日	苦情解決第三者委員委嘱	
	28日	北星会法人本部会議	
平成31年	1月	4日	宮津市賀詞交歓会
		9日	福祉即戦力人材育成科合同事業所説明会（中丹勤労者福祉会館）
		〃	宮津市 天橋園改修に係る補正予算協議
		10日	北星会合同訪問介護サービス連絡会議
		15日	北星会施設長会議
		16日	北星会第3回理事会
		〃	京都府 天橋園財産処分、補助金協議
		17日	宮津市保健福祉計画推進委員会
		〃	宮津市企業人権教育推進協議会人権標語表彰式
		〃	天橋の郷業務運営会議
		18日	北星会法人本部会議
		23日	吉岡均二先生を囲む会（ミッブルコミュニテイルーム）
		〃	海洋高校 法人及び職業説明会
		24日	北星会評議員選任・解任委員会
		29日	北星会施設長会議

	30日	法人研修（なぎさ苑）
	31日	北星会法人本部会議
2月	1日	商工会議所新春経済講演会
	4日	介護職員就業説明会
	6日	北星会リクルートチーム会議
	8日	天橋園群計画提案の理事会書面決議
	12日	グループホーム天橋の家 運営推進会議
	12日	北星会施設長会議
	〃	北星会第4回理事会
	14日	福祉の職場見学・体験会（天橋の郷）
	15日	北星会法人本部会議
	18日	宮津市 男女共同参画会議
	19日	天橋の郷業務運営会議
	〃	宮津市人権教育啓発推進委員会
	〃	天橋園群計画提案の評議員会書面決議
	20日	宮津市施設長会議
	25日	退職金制度変更職員説明会
	26日	北星会施設長会議
	〃	与謝野町職員、明石区長面談
	28日	北星会法人本部会議
3月	1日	お気軽サミット I n 宮津
	3日	FUKUSHI 就職フェア（みやこめっせ）
	6日	京都府 なぎさ苑実地指導
	7日	福祉の就職説明会（ハローワーク宮津）
	12日	北星会施設長会議
	14日	北星会法人本部会議
	〃	宮津市障害者自立支援協議会
	15日	裁判員制度説明会
	18日	天橋の郷業務運営会議
	22日	なぎさ苑ナースコールシステム入札会
	27日	北星会施設長会議
	28日	北星会法人本部会議
	〃	与謝の園感染対策会議
	29日	北星会第3回評議員会

評議員会開催状況

開催年月日	議 題
平成 30 年 6 月 26 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 29 年度 社会福祉法人北星会 事業報告 (案) について 2. 平成 29 年度 社会福祉法人北星会 決算報告 (案) について 3. 社会福祉法人北星会 諸規程の改定 (案) について
平成 30 年 12 月 25 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 30 年度社会福祉法人北星第 1 次補正予算 (案) について
平成 31 年 3 月 29 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 30 年度 社会福祉法人北星会第 2 次資金収支補正予算 (案) について 2. 平成 31 年度 社会福祉法人北星会事業計画 (案) について 3. 平成 31 年度 社会福祉法人北星会資金収支予算 (案) について 4. 社会福祉法人北星会定款の変更 (案) について 5. 社会福祉法人北星会役員等報酬規程の一部改定 (案) について

理事会開催状況

開催年月日	議 題
平成 30 年 6 月 6 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 29 年度 社会福祉法人北星会事業報告 (案) について 2. 平成 29 年度 社会福祉法人北星会決算報告 (案) について 3. 平成 30 年度 社会福祉法人北星会 諸規定の改定 (案) について
平成 30 年 12 月 12 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 30 年度社会福祉法人北星第 1 次補正予算 (案) について 2. 社会福祉法人北星会諸規程の制定及び改定について 3. 社会福祉法人北星会評議員選任と解任の提案について 4. 社会福祉法人北星会職員退職金制度の一部見直しについて 5. はまなす苑居宅支援事業所資産の移管引継ぎについて
平成 31 年 1 月 16 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉法人北星会 特別養護老人ホーム天橋の郷施設長選任について 2. 社会福祉法人北星会 法人本部事務局長の選任について
平成 31 年 3 月 12 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 30 年度 社会福祉法人北星会第 2 次資金収支補正予算 (案) について 2. 平成 31 年度 社会福祉法人北星会事業計画 (案) について 3. 平成 31 年度 社会福祉法人北星会事収支予算 (案) について 4. 社会福祉法人北星会定款の変更 (案) について 5. 社会福祉法人北星会諸規程の制定及び改定 (案) について

平成 30 年度 社会福祉法人北星会

天橋園 事業報告書

【年度統括】

特別養護老人ホーム天橋園は宮津市・与謝野町及び京都府と協議しながら事業休止に向けて、平成 29 年 7 月より新たな欠員が生じても補充せず、現在利用されている方・ご家族様に特養天橋園の状況説明と同一法人の特養(与謝の園と天橋の郷)への転居をお願いしてきました。また、他法人の特養への転居希望が本人やご家族様にあれば天橋園の職員も共に希望先の特養にお願いに行き、昨年度末(平成 30 年 3 月末日)では 22 名(死亡退園 6 名を含む)の方に転居いただく事が出来ました。(利用者 30 名の転居状況の一覧は後に記載しています)

引き続き平成 30 年 4 月以降、8 名の利用者の方には順次転居いただき、平成 30 年 5 月末には全ての利用者の転居が完了する事が出来ました。

職員についても特別養護老人ホーム天橋園利用者の減員に伴い介護職員を中心に異動し、平成 30 年 6 月には介護・看護・調理職員が同一法人の施設に異動しました。(職員の異動等の状況一覧は後に記載しています)

在宅の各事業所の平成 30 年度事業実績については、全ての事業所で昨年度の利用実績を上回ることができたのは、職員一人一人が利用実績の向上を目標に定め、職員間で確認しながら業務に従事した事に加え 30 年度は積雪の無い天候が通所介護事業の良い実績結果に繋がったと思われます。

特別養護老人ホームの事業休止後、天橋園の各事業は地域包括システム推進の一翼を担い、地域の方に喜ばれる事業を立地条件に恵まれたこの場所で行うには、私たちに何が必要かを地域の声に耳を傾け、職員みんなで引き続き検討する事が求められています。

【事業報告】

1. 特別養護老人ホーム

①入居利用者の状況

(ア)稼働率(入居定員:30名) (30年度は平成30年5月末までの2ヶ月間)

年度 \ 区分	営業日数	延入居数	空きベッド数	平均入居数/日	稼働率
29年度	365	8,659	2,291	23.7	79.1%
30年度	61	283	1,547	4.6	15.5%

(イ)入退居者数 (30年度は平成30年5月末までの2ヶ月間)

年度 \ 区分	新規入居者	待機者	施設看取り	施設外死亡	施設移転	帰宅
29年度	4	21	9	0	16	0
30年度	0	0	0	0	8	0

(ウ) 地区別 新規入居者の状況 (30年度は省略)

年度	地域	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
29年度		8	0	0	0

(エ) 年齢・性別 入居状況 (30年度は省略する)

区分	60~64		65~69		70~79		80~89		90~99		100以上		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
29年度	0	0	1	0	0	1	0	3	0	3	0	0	1	7
平均年齢	29年度		男性		69.0		女性		87.7		合計		85.4	

(オ) 入居期間別 入居状況 (特養) (30年度は平成30年5月末までの2ヶ月間)

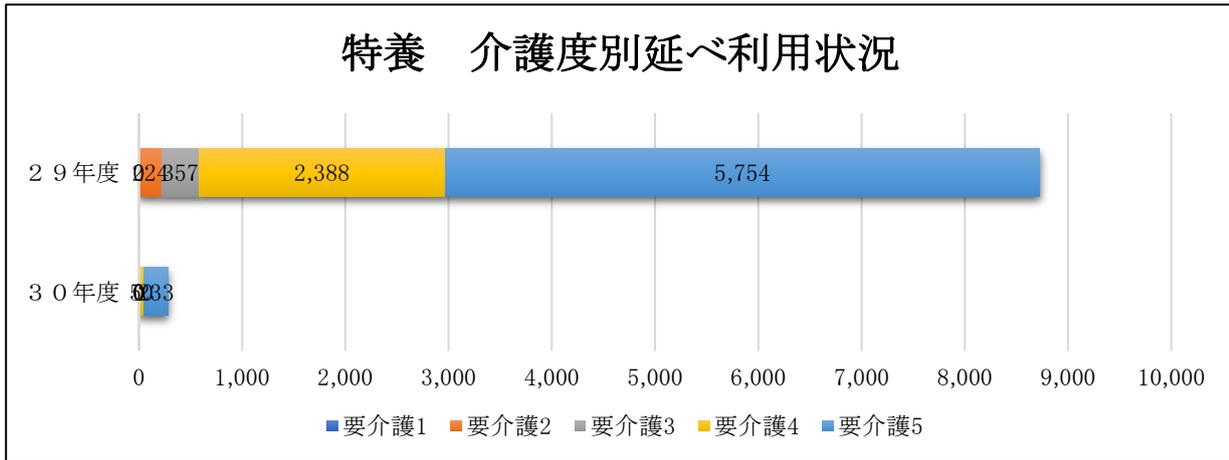
区分	6か月未満		6か月以上 12か月未満		12か月以上 24か月未満		24か月以上 36か月未満		36か月以上		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
29年度	0	0	0	2	1	2	0	0	0	3	1	7	8
30年度	0	0	0	1	1	3	0	0	0	3	1	7	8
平均入居期間	29年度				32.0か月								
	30年度				34.0か月								

(カ) 介護度別 入居状況 (30年度は省略)

区分	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
29年度	0	0	0	0	0	0	0	2	1	5	1	7
平均要介護度	29年度				4.8							

(キ) 介護度別 延入居状況 (30年度は平成30年5月末までの2ヶ月間)

区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
29年度	0	224	357	2,409	5,669	8,659
30年度	0	0	0	50	233	283



2. 介護部

5月末までに新たな生活の場となる施設に変わられるまで、体調を崩されることのないように健康管理に心掛け、共に過ごす時間が思い出となるように心掛けました。

3. 看護部

利用者の他施設への転居に伴い、ご家族様の不安軽減と利用者の状態安定に努め、転居先施設での環境の変化が最小限にとどまる様に病歴・生活情報等詳細な内容の情報提供に取り組みました。

4. 相談部

特養の事業休止を平成30年5月末と計画し、ご家族様とも相談しながら進めました。

(ア) 相談件数 (30年度は平成30年5月末までの2ヶ月間)

区分 年度	入所相談	在苑者相談	面接(本人)	退所相談	その他	合計
29年度	3	0	6	29	0	38
30年度	0	0	0	8	0	8

(イ) 待機者数 (地区別) (30年度は省略)

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合計
29年度	12	2	0	7	21

(ウ) 待機者数 (介護度別) (30年度は省略)

介護度 年度	要支援・他	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
29年度	1	0	1	9	7	3	21

(エ) 退去状況

(30年度は平成30年5月末までの2ヶ月間)

年度 区分	退去先	自宅 家族宅	他の介護老 福祉施設	ケアハウス グループホーム	介護老人 保健施設	医療機関 (入院)	看取りに よる死亡	その他	合 計
	29 年度	人数	0	15	0	1	0	9	0
	比率	0	60%	0	4%	0	36%	0	
30 年度	人数	0	5	0	3	0	0	0	8
	比率	0	62.5%	0	37.5%	0	0	0	

(オ) 特別養護老人ホーム 天橋園 事業休止に伴う入所者の転居状況等について

No.	状 況	同意月日	転居先	転居月日	要介護度	性 別	年 齢	医療 行為	天橋園入所年月日
1	転居済	11月20日	天橋の郷	平成30年5月25日	5	女	88	経鼻	平成28年12月9日
2	転居済	11月7日	天橋の郷	平成30年4月16日	5	女	91		平成25年6月24日
3	転居済	10月11日	天橋の郷	平成30年4月13日	5	女	90		平成29年4月12日
4	転居済	12月29日	天橋の郷	平成30年3月23日	3	女	89		平成9年1月1日
5	転居済	10月10日	天橋の郷	平成30年3月5日	4	女	98		平成25年5月15日
6	転居済	11月26日	天橋の郷	平成30年2月23日	5	男	84		平成26年7月23日
7	転居済	9月19日	天橋の郷	平成29年12月22日	5	女	89		平成23年3月14日
8	転居済	9月15日	天橋の郷	平成29年12月19日	5	女	85		平成25年1月12日
9	転居済	10月3日	天橋の郷	平成29年10月20日	4	女	88		平成27年11月3日
10	転居済	12月7日	与謝の園	平成30年5月9日	5	男	69		平成28年10月27日
11	転居済	11月30日	与謝の園	平成30年5月2日	5	女	90		平成24年2月28日
12	転居済	12月6日	与謝の園	平成30年3月12日	4	女	89		平成27年11月24日
13	転居済	10月8日	与謝の園	平成30年1月31日	4	女	94		平成24年11月14日
14	転居済	10月28日	与謝の園	平成30年1月17日	5	女	94		平成25年5月24日
15	転居済	10月25日	与謝の園	平成29年12月12日	5	女	92		平成26年7月7日
16	転居済	9月24日	与謝の園	平成29年11月13日	4	男	76		平成29年6月14日
17	転居済	10月11日	なぎさ苑	平成30年5月16日	5	女	86	胃瘻	平成29年2月10日
18	待機入所	なぎさ苑	天橋の郷	平成30年5月15日	4	女	73		平成29年4月5日

19	待機入所	なぎさ苑	天橋の郷	平成 30 年 5 月 7 日	4	女	98		平成 25 年 5 月 1 日
20	転居済	11 月 1 日	なぎさ苑	平成 29 年 11 月 10 日	2	女	90		平成 26 年 9 月 10 日
21	転居済	9 月 26 日	夕凧の里	平成 30 年 3 月 8 日	5	女	90		平成 25 年 6 月 3 日
22	転居済	10 月 2 日	夕凧の里	平成 30 年 2 月 5 日	5	女	83		平成 28 年 2 月 3 日
23	転居済	9 月 26 日	夕凧の里	平成 29 年 12 月 22 日	5	男	84		平成 26 年 5 月 19 日
24	転居済	11 月 14 日	夕凧の里	平成 29 年 12 月 16 日	5	女	96		平成 29 年 4 月 21 日
25	死亡			平成 29 年 12 月 20 日	5	女	97		平成 21 年 12 月 16 日
26	死亡			平成 29 年 12 月 12 日	5	男	88		平成 24 年 10 月 18 日
27	死亡			平成 29 年 11 月 28 日	4	女	88		平成 25 年 7 月 1 日
28	死亡			平成 29 年 9 月 20 日	4	女	90		平成 20 年 8 月 4 日
29	死亡			平成 29 年 9 月 6 日	5	女	88		平成 22 年 1 月 29 日
30	死亡			平成 29 年 7 月 22 日	5	男	79		平成 23 年 3 月 9 日

5. 給食部

特養事業休止後、通所介護事業を利用される方への昼食提供に支障が出ないように、なぎさ苑にて調理された昼食を天橋園まで運び、天橋園にて盛り付け配膳する手順の確認、試行実施に取り組み、6月1日以降実施してきました。

6. 短期入所

長期利用者が各施設に順次転居される中、緊急的に短期入所の利用を希望される方を中心に受け入れ、5月末には長期入所休止に伴い短期入所につきましても休止とさせていただきます。

①利用者の状況

(ア)稼働率(定員:空床型) (30年度は平成30年5月末までの2ヶ月間)

年度	区分	営業床数	延入居数	稼働率
29年度		2,227	228	9.7%
30年度		1,547	48	3.1%

(イ) 契約数 (30年度は平成30年5月末までの2ヶ月間)

年度	区分	新規入所者	待機者
29年度		12	0
30年度		6	0

(ウ) 地区別 入所状況 (30年度は平成30年5月末までの2ヶ月間)

年度	地域	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
29年度		11	1	0	0
30年度		6	0	0	0

(エ) 介護度別 入所状況 (30年度は平成30年5月末までの2ヶ月間)

年度	介護度 性別	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
29年度		0	4	1	3	0	1	1	1	0	0	2	9
30年度		1	2	0	1	0	1	1	0	0	0	2	4
平均要介護度		29年度				2.1							
		30年度				2.0							

(オ) 介護度別 延入所状況 (30年度は平成30年5月末までの2ヶ月間)

年度	介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
29年度		91	26	32	67	0	228
30年度		20	4	13	11	0	48

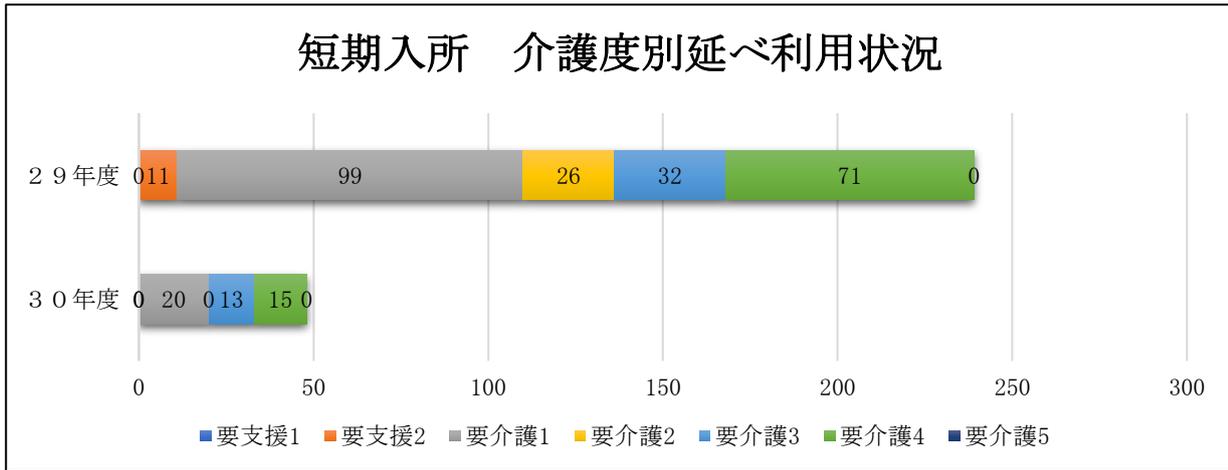
(カ) 要支援度別 入所状況 (30年度は平成30年5月末までの2ヶ月間)

年度	介護度	要支援1	要支援2
29年度		0	1
30年度		0	0

(キ) 要支援度別 延入所状況 (30年度は平成30年5月末までの2ヶ月間)

年度	介護度	要支援1	要支援2
29年度		0	12
30年度		0	0

短期入所 介護度別延べ利用状況



7. 通所 (天橋園通所介護事業所)

平成30年度は年間を通してご利用者数も安定し、稼働率の上昇につながりました。

ここ数年低迷を続けていた稼働率ですが、平成29年度より送迎地域を広げたことも含め、少しずつ新規のご利用者が増加・定着したことや、例年冬期に増加する介護老人保健施設への長期入所がごく少数であったこと等もあり、利用者数の増加につながったと思われます。

- ・他の通所介護事業所が要支援者の利用者の受け入れを中止されていたこともあり、8月頃より要支援者のご利用者が急激に増加しました。
- ・台風の影響により7月7日と9月4日を休業とした為、開所日数が2日少なくなり、ご利用者の皆様にご迷惑をおかけしました。
- ・9月に毎日ご利用していただいていた認知症加算対象者のご利用者が特別養護老人ホームに長期入所された為、平成27年度より算定していた認知症加算が次年度より算定不可となってしまいました。
- ・初めての取組として「介護の日」にちなみ「デイサービス家族参観日」を実施し、少人数ではありましたが来所していただいたご家族には「デイサービスの利用中の様子を見ることができてよかった。」「皆様方と笑顔で楽しそうにしていたので安心した。」「職員さんとたくさん話せてよかった。」等沢山の貴重なご意見をいただきました。今後も職員間で相談し継続していくことを考えます。

次年度も、ご利用者の皆様に少しでも多く笑顔で過ごしていただけるよう職員一同努力し、職員間はもちろん他の機関とも連携良く業務にあたりたいと考えています。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率 (要介護者及び要支援者)

年度	区分	利用定員/日	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
29年度		25	310	6,026	77.8	1.8
30年度		25	307	6,469	84.3	1.7

(イ) 介護度別利用状況

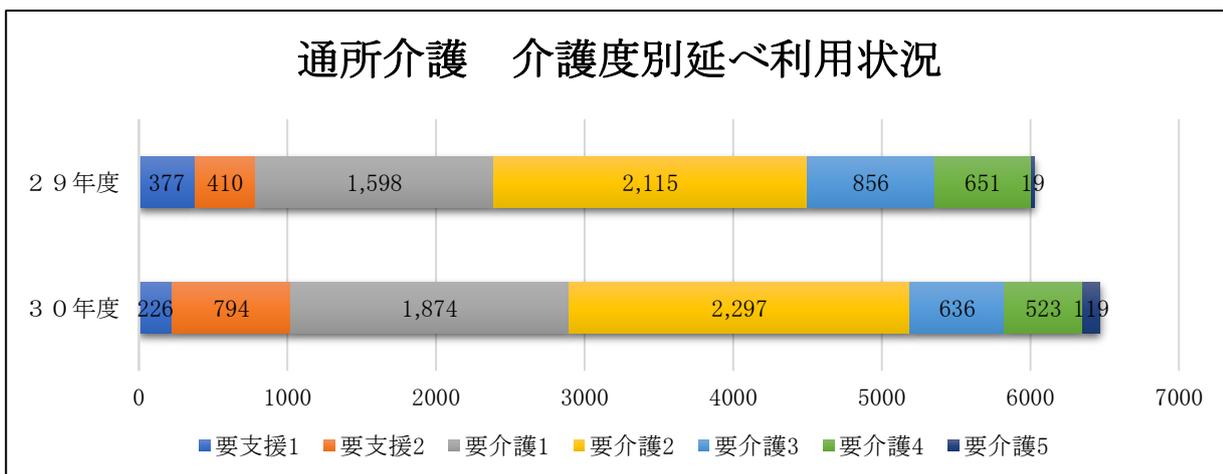
介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	小計
29年度	1,598	2,115	856	651	19	5,239
30年度	1,874	2,297	636	523	119	5,449

(ウ) 介護度別利用状況 介護予防

介護度 年度	要支援1	要支援2	小計
29年度	377	410	787
30年度	226	794	1,020

(エ) 加算の状況

加算項目 年度	機能訓練Ⅱ	入浴	認知症	体制Ⅰ1	処遇改善Ⅰ
29年度	3,913	4,666	1,398	5,692	705
30年度	4,741	4,931	930	5,450	741



8. 認知症対応型通所介護 (ハウゼ天橋通所介護事業所)

認知症高齢者に対する地域のニーズに少しでも応えられる様に、ご利用者の認知症の緩和とご家族の介護負担の軽減に努めました。

ご利用者に対し利用時間を工夫し、『買い物支援サービス』や『屋外活動支援サービス』また利用時間の延長などを提供する事により、特養のショートステイ等の他のサービス利用を抑えたこと、又、冬場に介護老人保健施設等への利用が少なかったことや感染症の発症者が少なかったことにより、初めて1日の利用者人数の平均が11人を超える実績となりました。

今後も在宅での暮らしを希望される方を支援し、ご利用者の確保と個別サービスに取り組みながら、算定可能な加算は積極的に取り入れていきます。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
29年度	12	256	2,478	80.7%	2.78
30年度	12	256	2,824	91.9%	3.04

(イ) 要介護度別 延べ利用者の状況

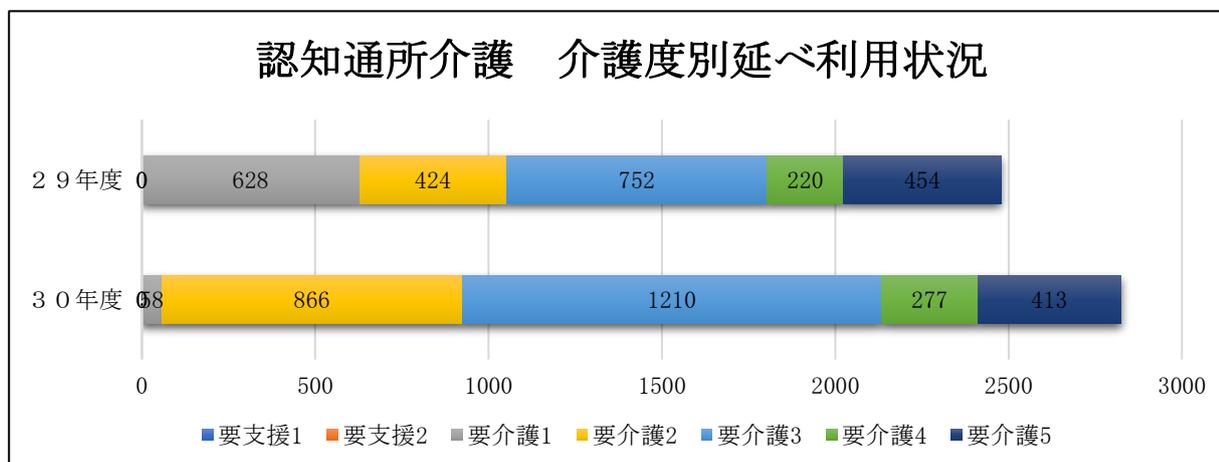
介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
29年度	628	424	752	220	454	2,478
30年度	58	866	1210	277	413	2,824

(ウ) 介護度別利用状況 介護予防

介護度 年度	要支援1	要支援2
29年度	0	0
30年度	0	0

(エ) 加算の状況

加算項目 年度	入浴	体制Ⅱ	体制Ⅰ2	体制Ⅰ1	処遇改善	機能訓練
29年度	2,181	0	190	2,288	271	0
30年度	2,512	0	0	2,824	275	453



9. 訪問介護（天橋訪問介護事業所）

「あなたの笑顔のために、住み慣れた^{ところ}場所へやさしい心をお届けします」

ご利用者が住み慣れた場所で一日でも長く笑顔で過ごして頂ける様に、ご家族、ケアマネ、他事業所と連携を取りながら訪問介護を行ってきました。

平成30年度は事業所全体の訪問時間も増加し、特に身体介護の訪問時間が年間で955時間も増加しています。これは、生活援助で訪問させて頂いていたご利用者がADLの低下で身体的な援助が必要になることが増えたことと、医療機関からの退院後、自

宅で最期を迎えるために、身体的な援助の訪問依頼が増えたことが要因と思われます。

また、7月・9月には台風被害に伴う訪問の変更がありました。ケアマネ、ご家族との連携により、時間や日にちの変更で必要な援助には対応させて頂くことが出来ました。

新規の訪問依頼には可能な範囲で迅速に対応できるよう努めました。非常勤ヘルパーの高齢化と退職による人員不足で依頼に応じる事が出来ない時もありました。特に栗田・由良方面の非常勤ヘルパー不足は引き続き深刻な状況です。

毎月の定例会議では例年同様に必要な情報の伝達と勉強会を行いました。ヘルパーとしての専門性と質の向上だけでなく、ヘルパー同士の情報の共有や意見交流の場にもなっています。

北部医療センターにレスパイト入院（介護者の休養等を目的とした入院）されたALSのご利用者には前年度同様の重度心身障害児（者）ショートステイ受入体制整備事業による訪問を行いました。入院日数が前年度よりも2日増えたことにより、訪問回数も3回増えましたが、在宅時と同様のサービスを提供することが出来ました。地域包括ケアシステムを推進する中で、今後も訪問介護のニーズも役割も更に重要となっていくことを認識し、次年度も努めていきたいと考えています。

①介護度別利用状況及び実働時間

	年度	介護予防サービス		介護サービス					障害者 支援	合 計
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
契約人数(人)	29年度	11	22	37	39	20	11	13	1	154
	30年度	13	20	36	44	32	16	16	1	178
介護予防(h)	29年度	2,099時間 00分								15%
	30年度	1,895時間 30分								14%
身体介護(h)	29年度	3,694時間 15分								28%
	30年度	4,649時間 00分								33%
生活援助(h)	29年度	5,712時間 30分								43%
	30年度	5,437時間 15分								39%
身体生活(h)	29年度	1,915時間 30分								14%
	30年度	2,000時間 分								14%
合 計	29年度	13,421時間 15分								100%
	30年度	13,981時間 45分								100%



10. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム天橋の家）

平成30年度においては、転倒などの事故等も少なく、また骨折事故により退居された利用者様が介護老人保健施設でリハビリをされ、天橋の家に再入居の運びとなった事例も2件あり、馴染みのある生活環境で生活して頂ける事が出来たと思います。

しかし、年末年始と地域でインフルエンザが流行し、当事業所内でもご利用者様2名の感染がありました。近年は毎年と言ってよい程、季節を問わず感染流行する傾向にあります。当事業所のご利用者様が認知症であるがゆえに、ご自身の病状を理解できにくく、感染拡大に繋がることも大いに考えられる為、日頃より感染予防に努めていきたいと考えています。

①入居者の状況

(ア)稼働率（定員：9名）

年度 \ 区分	営業日数	延入居数	平均入居数/日	稼働率
29年度	365	3,175	8.7	96.7%
30年度	365	3,254	8.9	99.1%

(イ)契約数

年度 \ 区分	新規入居者	待機者
29年度	6	14
30年度	4	18

(ウ)地区別 入居状況

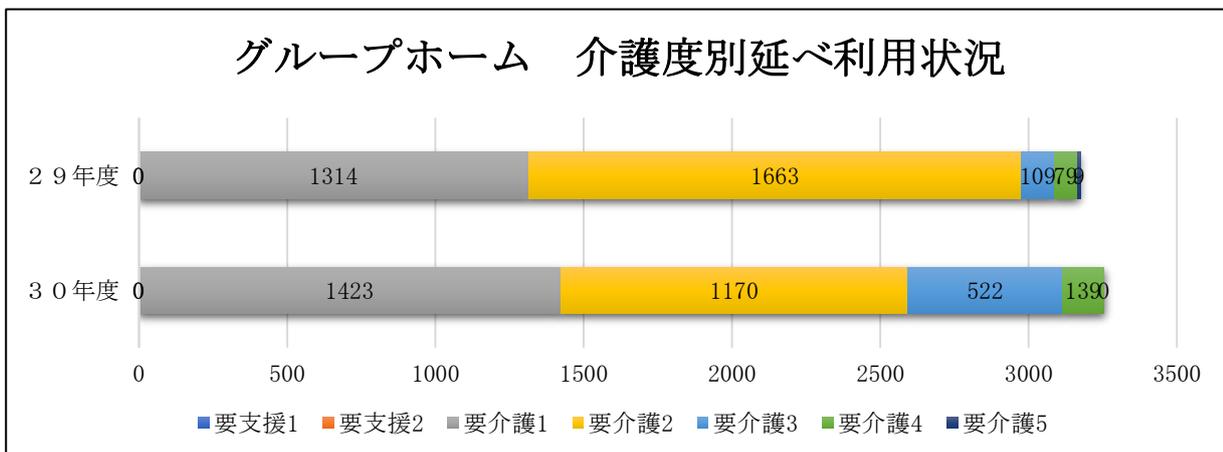
年度 \ 地域	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
29年度	9	0	0	0
30年度	4	0	0	0

(エ) 要介護度別 入居者の状況 (各年度 3月現在)

年度	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
29年度	0	4	0	4	0	0	0	1	0	0	0	9
30年度	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	4
平均要介護度	29年度				1.8							
	30年度				2.0							

(オ) 要介護度別 (延入居者の状況)

年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
29年度	1,226	1,752	109	79	9	3,175
30年度	1,423	1,170	522	139	0	3,254



11. 居宅介護支援 (天橋園居宅介護支援事業所)

地域にある身近な介護の相談窓口として、在宅生活を希望されるご利用者の自宅や入院先の病院、施設に訪問させていただき、お身体の状態や生活されている環境を確認し、ご家族の要望もお聞きしながら主治医をはじめ、医療・保健・福祉の関係機関と常に連携し、ご本人の自立支援につながるように、共に考え支援してきました。

ケアプラン作成や管理につきましては、医療ニーズの高い方や家族の介護力不足等々から長期的な支援ができない状況もありましたが、新規ご利用者を積極的に受け入れるように努力し、実績件数は月平均、約185件となり昨年度の約180件を上回りました。

事業としましては、毎年、他部署と協力しているオレンジカフェへの取り組みの継続と、介護の日にオープンデイを初めて開催し、地域の方に最新福祉機器、健康器具、排泄用品や介護食品などの展示や体験などをさせていただき事ができ、「身近なことであり大変参考になった」との感想をいただきました。今後も地域の方への情報発信や提供を続け、地域の方とのつながりを大切にしていきたいと考えております。

また、今年度は、医療報酬と介護報酬の同時改正の年度となり、地域包括ケアシステムの構築に向けて、重度の要介護高齢者等が在宅での生活が継続できるように、ケアマネジャーの医療との連携がさらに強化されました。

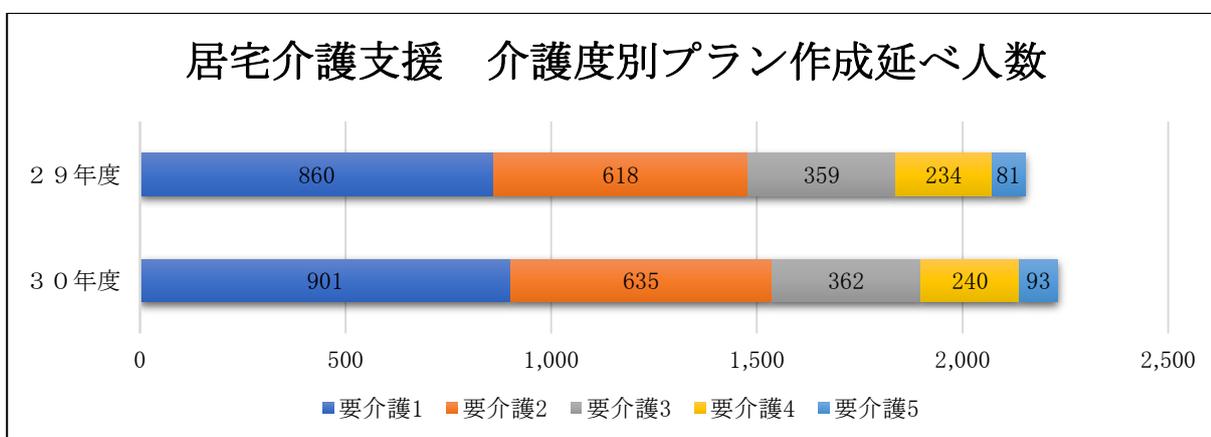
医療ニーズの高い方も安心して暮らす事ができる地域となるように、今後も地域との交流を積極的に持ち、研修会や地域ケア会議に参加し、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、主治医や関係機関との連携を持ちながら、迅速に、親切丁寧な相談援助に今後も務めて参ります。

(ア) 内容別相談件数

年度	内容	介護保険その他 福祉サービス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待	その他	合計
		29年度	実数 297	9	0	127
	延数	11,377	87	0	5,160	16,624
30年度	実数	267	12	3	83	365
	延数	11,526	45	21	5,007	16,599

(イ) ケアプラン作成管理件数

	作成管理延人数	作成管理実件数
29年度	2,152	231
30年度	2,231	290



1 2. 診療所

利用者の他施設への転居に伴い、転居先施設での環境の変化が最小限にとどまる様に病歴・生活情報等詳細な内容の診療情報提供に取り組みました。

【入居者の診療状況及び健康診断等実施状況】

① 診療状況

(ア) 天橋園

科目		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
年度									
29年度	実数	33	0	0	0	0	0	0	0
	延数	913	0	0	0	0	0	0	0
30年度	実数	7	0	0	0	0	0	0	0
	延数	29	0	0	0	0	0	0	0

(イ) 他の医療機関 通院

科目		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
年度									
29年度	実数	3	4	2	1	1	14	0	6
	延数	30	23	4	2	2	106	0	15
30年度	実数	1	0	0	0	0	1	0	0
	延数	2	0	0	0	0	10	0	0

(ウ) 他の医療機関 入院

科目		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
年度									
29年度	実数	4	0	0	0	0	0	0	0
	延数	48	0	0	0	0	0	0	0
30年度	実数	0	0	0	0	0	0	0	0
	延数	0	0	0	0	0	0	0	0

②健康診断等の実施状況（実施日時）

年度	対象人数	胸部集団検診	検尿検査	検尿検査
29年度	33	平成 29 年 10 月 31 日	平成 29 年 4 月～前期	平成 29 年 10 月～後期
30年度	8	転居先の施設にて受診	転居先の施設にて実施	転居先の施設にて実施

13. 事務

特養事業休止に伴い、特養会計で負担していた諸費用について見直しを行い、他の事業所会計で按分負担等するように行いました。また、異動する職員の事務手続きについても計画的進め、スムーズに遂行できるように取り組みました。

【おむつ等販売】

年度	項目	販売数（パック）
29年度		1,366
30年度		1,271

【職員研修参加状況】

①施設内研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
高齢者虐待防止トレーナー養成 基礎研修 伝達研修会	46	府老協主催の研修会を基に、施設内での高齢者虐待防止・不適切ケア、身体拘束について理解を深める
成年後見制度等に関する出前講座	36	成年後見センターリーガルサポート京都支部より講師を招き、成年後見制度の理解を深める
感染症予防研修(実地訓練) GH天橋の家にて2回開催。	7	夜間帯に急な嘔吐があった場合の嘔吐物の適切な処理方法について、実地訓練を通して学ぶ。

②施設外研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
身体拘束廃止職員研修 (法人内研修)	3	身体拘束・不適切ケアをどう廃止するかを考え、理解を深める
喀痰吸引等京都府指導者養成研修指導看護師養成研修	1	喀痰吸引等京都府指導者養成研修での指導者を養成
京都府介護支援専門員実務経験者更新研修【課程Ⅰ】	2	介護支援専門員資格継続の更新研修
京都府介護支援専門員実務経験者更新研修【課程Ⅱ】	1	介護支援専門員資格継続の更新研修
介護職員等による喀痰吸引等研修 (第3号研修)	2	在宅サービス利用者へ向けた、喀痰吸引等決められた医療行為を行うための研修
防災業務関係者研修	1	原子力災害についての理解と対応
若年性認知症支援研修会	1	若年性認知症対策の推進
京都府認知症介護実践リーダー研修	1	認知症介護にあたるチームケアにおいてチームマネジメント能力を修得
介護サービス情報の公表対応研修	1	情報の公表に関する項目の理解を深める
安全運転管理者講習	1	安全運転管理についての知識
宮津市企業人権推進協議会研修	2	仕事と生活の調和について
年末調整講習会	1	年末調整事務手続き研修
宮津市生活支援サービス研究会	1	各地区の福祉懇談会の実施状況
虐待の防止と施設・事業所職員の心のケアを考える研修会	1	身体拘束に対する正しい理解と施設職員の心のケアを考える
宮津市高齢者等虐待防止ネットワーク会議	1	施設事業者による高齢者虐待の予防の対応
在宅サービス関係者と北部医療センター連携会議	2	地域包括ケアにおける在宅サービスと地域医療との情報を密にし連携を図る
企業内人権啓発推進員研修会	1	企業内の公正な雇用及び人権啓発の理解

【介護実習等受入状況】

月	学校・事業所名	月	学校・事業所名
8・9	京都暁星高等学校	10	京都府立看護学校

【ボランティア活動状況】

ボランティア名	活動内容	回数/年	延参加数
玉穂会様	民謡	10回	60名
野菊会様	園内清掃	10回	30名
天理教婦人部様	園内・屋外清掃	10回	15名
オールディーズ様	懐メロ	11回	22名

【各種会議開催状況】

会 議 名	開催回数/年
行事計画主任会議	12回
業務運営会議	12回
安全衛生委員会	12回
地域ケア会議	8回
身体拘束ゼロ推進会議（GH会議内）	10回
職員会議	1回

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9月13日	56人	年1回
腰痛健診	9月13日・2月18日	34人・32人	半年に1回
深夜業務従事者健診	2月18日	7人	年1回
ストレスチェック	11月	38人	年1回

特養天橋園 事業休止に伴う職員異動等について （非常勤職員も含む）

No.	事業所	雇用形態	職 種	住所	主な通勤手段	異動・退職 (年 月 日)	異 動 先
1	特養	職員	介護員	京丹後市	車	平成30年2月1日	与謝の園
2	特養	職員	介護員	京丹後市	車	平成30年6月1日	与謝の園
3	特養	職員	介護員	宮津市	車	平成30年6月1日	与謝の園
4	特養	職員	介護員	宮津市	車	平成30年6月1日	与謝の園
5	特養	職員	看護員	宮津市	車	平成30年6月1日	与謝の園

6	特養	非常勤職員	調理員	与謝野町	車	平成30年6月1日	与謝の園
7	特養	常勤臨時職員	介護員	宮津市	車	平成29年12月1日	なぎさ苑
8	特養	職員	介護員	宮津市	自転車	平成30年1月1日	なぎさ苑
9	特養	職員	調理員	与謝野町	車	平成30年5月1日	なぎさ苑
10	デイ	職員	調理員	宮津市	車	平成30年5月16日	なぎさ苑
11	特養	職員	介護員	宮津市	徒歩	平成30年6月1日	なぎさ苑
12	特養	職員	介護員	宮津市	徒歩	平成30年6月1日	なぎさ苑
13	特養	職員	介護員	宮津市	自転車	平成30年6月1日	なぎさ苑
14	特養	職員	管理栄養士	与謝野町	車	平成30年6月1日	なぎさ苑
15	特養	職員	調理員	与謝野町	車	平成30年6月1日	なぎさ苑
16	特養	職員	介護員	伊根町	車	平成30年6月1日	なぎさ苑通所リハ
17	特養	非常勤職員	調理員	宮津市	徒歩	平成30年6月1日	なぎさ苑（勤務地は 天橋園）
18	特養	職員	介護員	宮津市	車	平成30年2月1日	天橋の郷
19	GH 天橋 の家	職員	介護員	宮津市	車	平成30年6月1日	天橋の郷
20	特養	職員	介護員	宮津市	車	平成29年12月1日	天橋訪問介護
21	特養	職員	介護員	宮津市	徒歩	平成30年6月1日	GH天橋の家
22	特養	非常勤職員	介護員	宮津市	自転車	平成30年6月1日	GH天橋の家
23	特養	職員	相談員 兼ケアマネ	与謝野町	車	平成30年6月1日	GH天橋の家
24	特養	職員	看護員	宮津市	車	平成30年6月1日	天橋園 デイ
25	特養	職員	介護員	宮津市	車	平成30年6月1日	本部 天橋園
26	特養	非常勤職員	清掃員	宮津市	徒歩	平成30年6月1日	本部 天橋園
27	ハウゼ 天橋	非常勤職員	調理員	宮津市	自転車	平成30年1月31日	退職
28	特養	非常勤職員	介護員	宮津市	車	平成30年2月28日	退職
29	特養	非常勤職員	介護員	宮津市	車	平成30年3月31日	退職
30	特養	非常勤職員	調理員	宮津市	車	平成30年5月31日	退職

平成 30 年度 社会福祉法人北星会

与謝の園 事業報告書

【年度統括】

与謝野町の高齢者比率は 35%以上となっており、高齢化による生産年齢人口の減少は介護現場における慢性的な人材不足に繋がっています。与謝の園では老朽化が進み厳しい施設経営・施設運営を強いられる状況が続くなか、職員一人ひとりの地道な経営努力と効率的な事業運営に努めました。

与謝の園の建て替えを控え、老朽化した施設環境の中でも利用者一人ひとりの「その人らしい生活（暮らし）」を支援できるよう努めました。

平成 30 年度は人材育成を目的とし内部研修に多くの職員が出席できるよう研修時間や日程を選択できるように工夫しました。その結果、多くの職員の参加できるようになり職員のスキルアップに繋がりました。今後も園内研修の在り方、内容の見直しを進め人材確保と人材育成、サービスの質の向上に努めます。

与謝の園では、地域のニーズに対応することを目標に掲げ、重度の利用者の受け入れをしました。そのため居宅サービスはやや不安定ではありましたが、高齢になっても住み慣れた地域で自立した生活が送れるように医療、介護、福祉サービスを提供することにより、地域住民のニーズに応えることができました。

また、桑飼シルクカフェを明石、温江、香河の三地区の方に月 1 回利用していただけるように実施しました。毎月楽しみに参加していただき 1 回の利用は 15 名～20 名の方に参加いただいています。カフェの参加者からデイサービス等の利用につながったケースも昨年より増加しました。これからも医療と介護と福祉とのつながりをもちつつ、相談支援の機能を果たしていきます。

【事業報告】

1. 特別養護老人ホーム

①入居利用者の状況

(ア)稼働率（入居定員：80名）

年度	区分	営業日数	延入居数	空きベッド数	平均入居数/日	稼働率
29年度		365	28,420	780	77.86	97.33%
30年度		365	28,576	624	78.29	97.86%

(イ)入退居者数（3月31日時点）

年度	区分	新規入居者	待機者	施設看取り	施設外死亡	施設移転	帰宅
29年度		18	80	3	7	1	0
30年度		22	91	11	8	1	0

(ウ) 地区別 入居状況 (3月31日時点)

年度	地域	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
29年度		5	69	3	0
30年度		4	72	3	0

(エ) 年齢・性別 入居状況 (3月31日時点)

区分	60～64		65～69		70～79		80～89		90～99		100以上		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
29年度	0	0	0	0	4	4	2	20	2	39	0	6	8	69	77
30年度	0	0	0	0	4	3	3	16	2	41	0	10	9	70	79
平均年齢	29年度		男性		82.8歳		女性		91.3歳		合計		90.3歳		
	30年度		男性		88.6歳		女性		92.0歳		合計		91.3歳		

(オ) 入居期間別 入居状況

区分	6か月未満		6か月以上 1年未満		1年以上 3年未満		3年以上 10年未満		10年以上		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
29年度	3	5	2	5	1	22	2	27	0	10	8	69	77
30年度	1	6	1	13	5	21	2	23	0	7	9	70	79
平均入居期間	29年度		4年4か月		30年度		3年9か月						
	30年度		3年9か月										

(カ) 入居期間別 延入居状況 (特養)

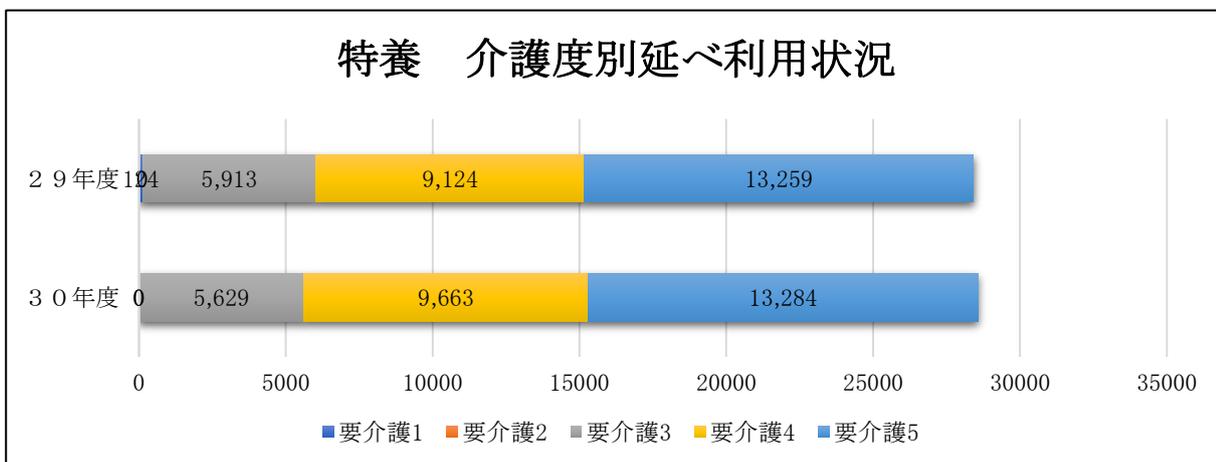
年度	6か月未満		6か月以上1年未満		1年以上3年未満		合計
	男	女	男	女	男	女	
29年度	3	6	3	8	1	26	93
30年度	2	11	1	12	5	26	
年度	3年以上10年未満		10年以上		計		合計
	男	女	男	女	男	女	
29年度	4	29	1	12	12	81	93
30年度	2	27	0	14	10	90	100

(キ) 介護度別 入居状況 (3月31日時点)

区分	介護度 1		介護度 2		介護度 3		介護度 4		介護度 5		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
29年度	0	0	0	0	0	13	3	28	4	29	7	70
30年度	0	0	0	0	0	16	6	24	3	30	9	70
平均要介護度	29年度				4.25							
	30年度				4.20							

(ク) 介護度別 延入居状況

区分	介護度 1	介護度 2	介護度 3	介護度 4	介護度 5	合計
29年度	124	0	5,913	9,124	13,259	28,420
30年度	0	0	5,629	9,663	13,284	28,576



2. 介護部

平成30年度は、利用者の尊厳保持と自立支援を念頭の置き、他部署への連携を積極的に働きかけ利用者一人一人が「その人らしい生活」をおくれる様な個別ケアの実践・また生活の質の向上に努めました。

- ①各ユニットでは、ユニットごとの具体的な目標を挙げ、ユニット会議時や職員同士の意見交換をもとに、利用者の状態把握を行い、一人一人の利用者に寄り添ったケアが実践できるように情報の共有化に努めました。また、ユニット目標を達成するためにはどうすれば取り組めるか、取り組めているのかなどの検討や評価もその都度行いました。
- ②利用者との関わりの中で、入浴・排泄・食事形態・口腔ケア、ポジショニング、シーティングの見直しをはじめ、利用者の意向に添った余暇活動（レクリエーション活動、外出レク等）について充実を図り「その人らしい生活」の支援に努めました。
- ③担当者会議・面会時・月々の誕生会や与謝の園祭り等の行事の際には、家族に利用者の様子を報告・連絡・相談するなど家族との信頼関係の構築に努めました。

- ④サービスの質の向上のため、各種委員会活動、部会活動をはじめ、委員会主催の施設内研修、外部への施設外研修の参加し、また、ユニット会議時には、「加算とは何か」「施設内看取りについて」「ユニットケア」「不適切ケア」について介護員同士で話し合う機会を作りました。利用者に向けて排便についての勉強会の開催や排便体操を一緒に行うなど、職員の知識・意識を高める事に努めました。
- ⑤業務の見直しを行い、夜勤の申し送りについての体制・記録に関する意識改革（記録の大切さ、重要性）に努めました。

現在、利用者の重度化、高齢化そして認知症の重度化が進行し、利用者・家族のニーズも多様化している中、リスクへの対応・情報の共有化・きめ細やかな個々に合わせた対応がますます重要となっています。2019年度は、利用者一人ひとりが「自分らしさを出せるような」、また「生活を送れるような」、生活の質の向上に努めるとともに、職員のプロ意識を高めるためにより一層の意識改革、専門的知識の向上に努めたいと思います。

3. 看護部

与謝の園診療所

利用者の重度化が進み、医療的処置を必要とするかたが増えてきているなか、利用者・家族のニーズが多様化してきています。各々のニーズに添った看護の提供を心掛けました。今後もますますニーズが多様化していくことが予想されます。特に、施設での看取りを希望されるかたが増えていくと思われまますので、重要な課題として取り組んでいきます。

- ①疾病の予防・異常の早期発見・早期対応に努め、家族と密に情報提供を行い信頼関係の構築に努めました。
- ②年度後半からは看護職員が増えたことにより担当制を敷き、さらに密に関わることが可能となりました。職員間の連携については、情報の共有化を心掛け、喀痰吸引を始めとする医療的ケア、褥瘡対策に取り組みました。
- ③看取りについては、研修を開催する予定でしたが、園内のインフルエンザ蔓延により、止む無く延期としました。
- ④感染症対策において、インフルエンザが職員・利用者へと拡大しその予防対策について大いに反省するところとなりましたが、過去の教訓を活かし、早期に対策会議を開き対応策を実施した結果、重症者を出すことなく終息に至りました。
- ⑤リハビリ等、心身機能の維持・向上について、個別ケアに時間を割くことができませんでした。来年度への課題とします。

【入居者の診療状況及び健康診断等実施状況】

①診療状況

(ア) 与謝の園

科目		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
年度									
29年度	実数	95	0	0	0	0	0	0	0
	延数	3250	0	0	0	0	0	0	0
30年度	実数	102	0	0	0	0	0	0	0
	延数	3839	0	0	0	0	0	0	0

(イ) 他の医療機関 通院

科目		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
年度									
29年度	実数	23	12	5	2	1	5	8	4
	延数	39	26	11	3	1	14	46	7
30年度	実数	21	9	5	2	1	5	9	4
	延数	25	22	10	11	1	29	47	6

(ウ) 他の医療機関 入院

科目		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
年度									
29年度	実数	12	1	0	0	1	1	0	0
	延数	214	23	0	0	19	64	0	0
30年度	実数	13	2	0	0	1	0	0	1
	延数	159	31	0	0	5	0	0	9

②健康診断等の実施状況（実施日時）

年度	対象人数	胸部集団検診	検尿検査	血液検査	歯科健診
29年度	75	平成29年10月30日	平成30年2月1日	平成29年5月31日	平成29年10月24日
				平成29年12月11日	
30年度	80	平成30年10月29日	平成31年2月1日	平成30年6月14日	平成30年10月1日
				平成30年12月17日	

4. 相談部

入所の相談件数が増加しています。最も顕著なのが要介護3の待機者数ですが、病院に入院中の申込が多く退院後の生活を心配されるご家族が多いためです。また待機者については、地区別にみると宮津市の待機者が平成29年に比べると入所施設のベッド数が増加したことにより50%減になっています。

(ア) 相談件数

区分 年度	入所相談	在園者相談	面接(本人)	退所相談	その他	合 計
29年度	80	162	49	1	1	293
30年度	93	220	59	1	0	373

(イ) 待機者数 (地区別)

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合 計
29年度	16	54	6	4	80
30年度	8	72	2	9	91

(ウ) 待機者数 (介護度別)

介護度 年度	要支援・他	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
29年度	3	1	2	32	22	20	80
30年度	0	2	4	48	23	14	91

(エ) 退去状況 (特養)

退去先 年度 区分		自宅・家族宅	園内で死去	医療機関で死去	看取りによる死亡	その他 医療機関 (入院) 等	合 計
29 年度	人数	0	5	7	3	1	16
	比率	0%	31.25%	43.75%	18.75%	6.25%	100%
30 年度	人数	0	12	8	(11)	1	21
	比率	0%	57.14%	38.09%	(52.38) %	4.76%	100%

5. 給食部

- ・ご利用者の重度化に伴い、ゼリー食、ミキサー食の全体に占める割合が非常に高くなっています。他部署協力のもとゼリー食、ミキサー食、きざみ食の試食を行い意見、感想などを参考に改良・改善のため取り組み始めました。最期まで口から食べる喜びを感じてもらえるような食事提供ができるよう次年度も引き続き取り組みたいと考えています。
- ・園からのおやつ提供 (特養、短期) について他部署連携のもと1年以上の検討期間を設け、令和元年5月1日より提供することにしました。諸問題・家族のご理解を得ることなど多くの検討課題があり容易ではありませんでしたが、生活の中でご利用者の楽しみが1つでも増えればと言う思いで取り組んできました。
- ・「栄養ケア」に基づき、糖尿食・減塩食・カリウム制限食・脂肪制限食の特別食の提供や、利用者一人一人の状態や体調・嗜好に応じた個別的な食事提供にも引き続き力を注いできました。通所介護・短期入所者においても、健康状態や嗜好などに応じた個別対応をはじめ、利用者が楽しく食事ができ、なお且つ栄養改善が図れるよう努めました。
- ・その他「安心・安全な食事提供」を前提に、施設内や厨房内の衛生管理・職員の体調管理を徹底し、食中毒や感染症などの発生予防に努めました。

①提供実績

(ア) 延食数

年度	区分	特養	短期入所	通所	合計
29年度		84,903	7,534	4,594	97,031
30年度		82,525	7,538	5,842	95,905

(イ) 栄養基準（1日あたり）

項目	エネルギー (kcal)	タンパク質 (g)	カルシウム (mg)	脂質 (g)	鉄分 (mg)	ビタミンA (μgRE)	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンC (mg)
基準	1,300～ 1,500	60	600	30	10	550	0.8	1.0	80
29年度	1,420	55.7	442	32.8	6.3	613	0.66	1.2	72
30年度	1,429	56.4	453	33.3	6.4	634	0.65	1.34	67

(ウ) 食品群別摂取量（1人1日当たり食糧構成）（単位：g）

群類	1群		2群					3群					4群			
	牛乳乳製品	卵類	魚介類	獣鳥肉類	豆類	大豆製品	味噌	堅果類	緑黄色野菜	淡色野菜	果実類	芋類	海藻類	米	麦	油脂
基準	180	50	60	40		40	10	1	100	150	80	100	7	120	70	7
今年度平均	184	29	57	43		56	—	0.7	91	154	65	36	2.9	123	82	3.8

*味噌は豆類・大豆製品に含みます。

6. 短期入所

橋北方面のショートステイ縮小にともない、岩滝方面の新規契約者数が増加しました。また岩滝方面だけでなく、与謝野町内外の新規契約者数が著しく増加し、総契約者数は増加に転じたもののベッド回転率は微減となりました。要因としては、平均介護度の低下（要支援の契約者数も増加）に比例した一人当たりの利用日数の少ないことが挙げられます。

今年度は、看取り段階でのレスパイトケアでの受け入れはありませんでしたが、介護度の低い方におけるレスパイトケアのため入所希望や、今後のために利用しておきたいという意向による入所希望が目立ちました。

岩滝方面からの受け入れをおこなうことや年間送迎回数の増加により送迎に人員や時間を要するようになり、入所希望日の偏りが大きくベッドコントロールに苦慮したりしましたが、今後も地域のニーズに応じて積極的に受け入れをおこなっていきたいと思います。

①利用者の状況

(ア)稼働率(定員:10名)

年度	区分	営業日数	延入居数	平均入居数/日	稼働率
29年度		365	3,301	9.04	90.4%
30年度		365	3,285	9.00	90.0%

(イ)契約数

年度	区分	新規入所者
29年度		22
30年度		40

(ウ)地区別 入所状況

年度	地域	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
29年度		0	59	0	0
30年度		0	72	0	1

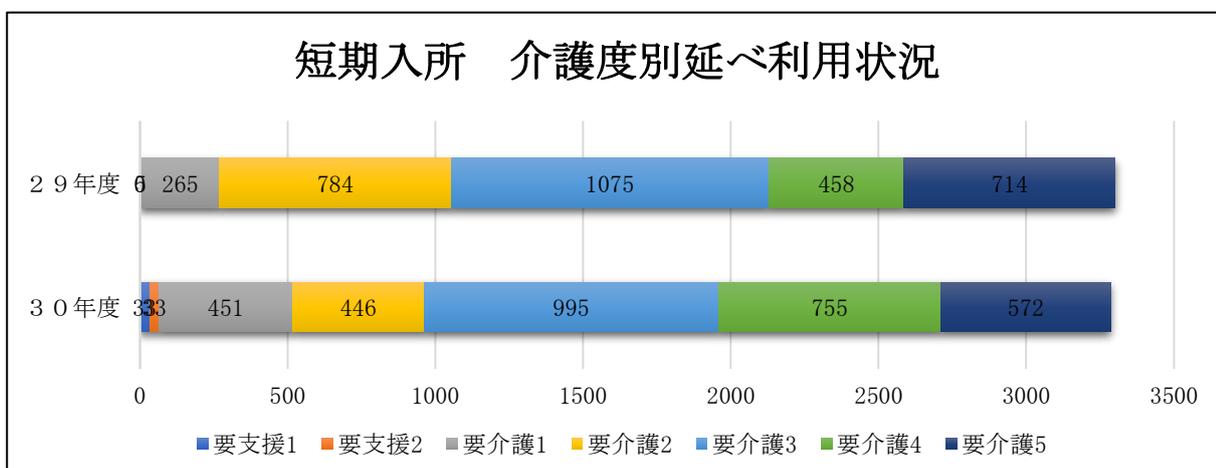
(エ)介護度別 入所状況

年度	介護度 性別	要支援1		要支援2		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
29年度		0	0	0	2	0	12	5	13	7	4	4	4	4	4	20	39
30年度		1	1	1	4	3	11	4	15	5	6	6	5	6	5	26	47
平均要介護度		29年度				2.60											
		30年度				2.56											

(オ)介護度別 延入所状況

年度	介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
29年度		0	5	265	784	1,075	458	714	3,301
30年度		33	33	451	446	995	755	572	3,285

短期入所 介護度別延べ利用状況



7. 通所

ご利用者のニーズやご家族の意向を可能な限り尊重し、各居宅介護支援事業所等との連携のもと、ご利用者からの要望などを取り入れた満足度の高いサービスの提供に努めました。

平成30年度は、施設への長期入所や重度利用者の老人保健施設の利用等により、複数回利用者の減少もありましたが、包括支援センターや各居宅介護事業所との連携により、要支援者・要介護者共に多くの新規利用者の受け入れを行うことが出来ました。

平成30年度は延べ利用者数・平均利用率共に前年度を上回る結果となりました。年間延べ利用人数（前年実績比：683名増の5,991名）・1日平均利用率（前年実績比：9.4%増の80.7%）と、平成29年度実績を上回ることができました。今後も引き続き、業務の見直し・改善を図り、与謝の園通所介護事業所としての特色を出しつつ、ご利用者のニーズに応じたサービスが提供できるように努めます。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

年度	区分	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
29年度		24	310	5,308	71.3%	1.7
30年度		24	309	5,991	80.7%	1.9

(イ) 介護度別利用状況

年度	介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
29年度		1,879	1,322	759	249	312	4,521
30年度		1,476	1,842	1,028	165	560	5,071

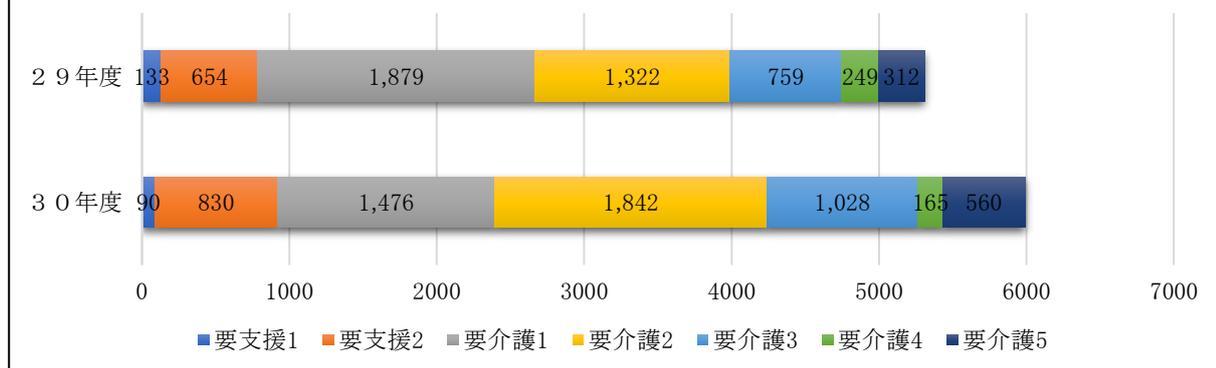
(ウ) 介護度別利用状況 介護予防

年度	介護度	要支援1	要支援2
29年度		133	654
30年度		90	830

(エ) 加算の状況

年度	加算項目	入浴加算	送迎減算	提供体制	処遇改善
29年度		4,137	106	4,521	588
30年度	要介護	4,413	143	5,058	713
	要支援1	0	0	24	151
	要支援2	0	0	127	0

通所介護 介護度別延べ利用状況



8. 訪問介護事業

(ア) 概況

各居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターや関係機関等との連携により、在宅での自立的な生活の維持・継続を目標に質の高い介護サービスの提供に努めました。また、職員が少ない中でも新規面接依頼があった時には、速い対応・調整に努めた結果、本人や家族から喜んで頂けました。また、「その人らしい生活」を送って頂けるように生活スタイルに合った訪問時間の調整に努めました。

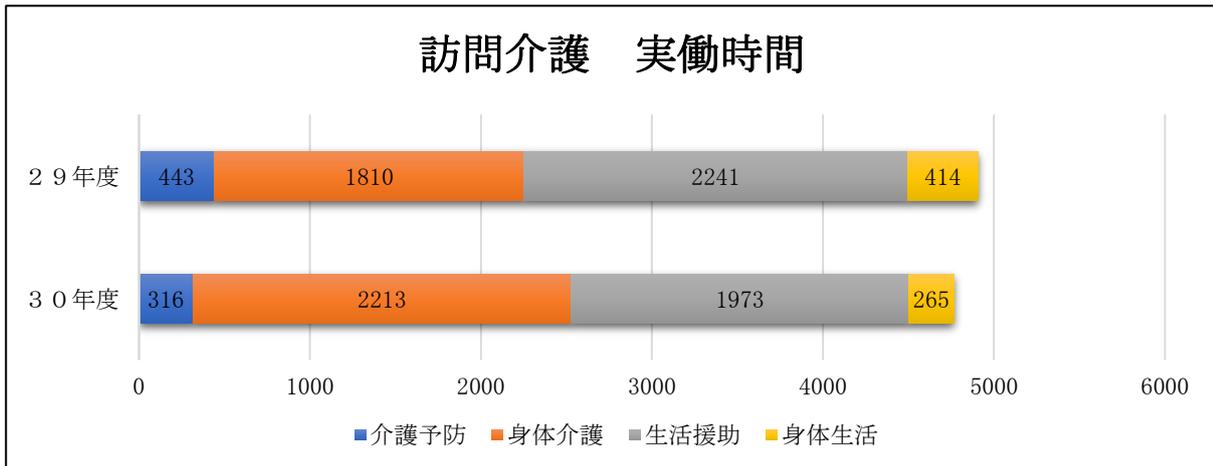
今年度の特徴としては、長期入所及び老健への入所等で、全体の訪問時間数が減り、利用者数としても少しの減となりました。しかし、身体介護は増え、認知の診断から調理を一緒に行い、少しでも出来ることを増やすことの目的で援助に入る身体介護もでき、短期間の訪問ではあったが、後半になってから最期を自宅で看取りたいという利用者の訪問することもでき、短期間ではあったが、訪問が出来、400時間も増えることができました。

今後も全職員、同レベルのサービスが提供できるように積極的に会議や研修に参加し、職員の質の向上に努めます。また、家族の思いや利用者の状態の変化に早く気づき、関係機関との連携を密にし、状況にあった介護サービスの提供が出来るように努めます。

(イ) 介護度別利用状況及び実働時間数

	年度	介護予防サービス		介護サービス					障害者支援	合計
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
契約人数(人)	29年度	4	11	10	15	13	10	12	0	75
	30年度	4	3	12	16	19	2	7	0	63
介護予防(h)	29年度	443時間 10分							9%	
	30年度	316時間 35分							7%	
身体介護(h)	29年度	1,810時間 45分							37%	
	30年度	2,213時間 25分							46%	

生活援助(h)	29年度	2,241時間 00分	46%
	30年度	1,973時間 05分	41%
身体生活(h)	29年度	414時間 10分	8%
	30年度	265時間 30分	6%
合計	29年度	4,909時間 05分	100%
	30年度	4,768時間 35分	100%



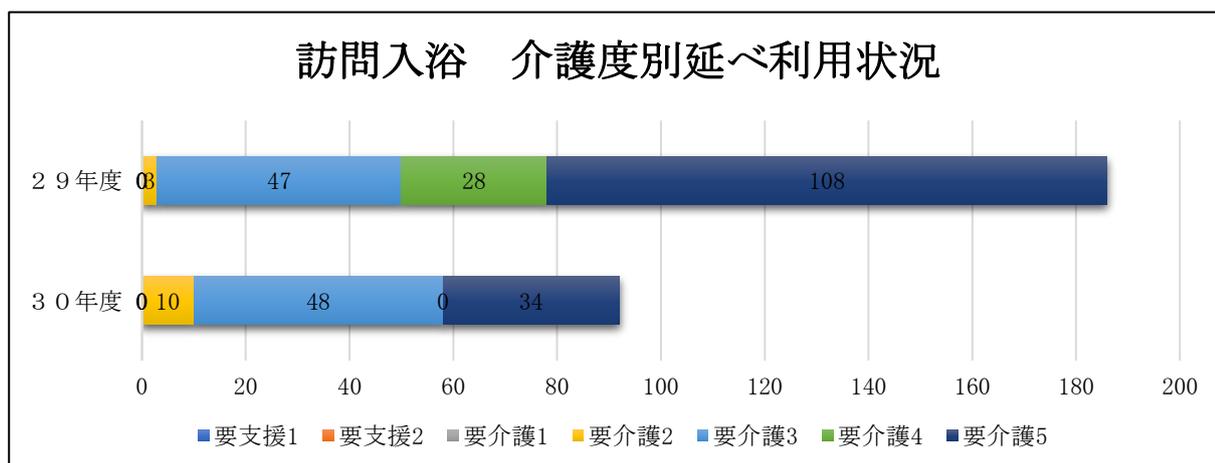
9. 訪問入浴

- 平成30年度も実施日数、契約者数、利用者数など全体的に大幅な減少がみられた。その理由として考えられることは、ターミナルで退院され、間もなく老衰で契約終了となったご利用者が多くあった。契約日数は数日から3か月以内で終了したケースが最も多く、中には元気になられ自宅入浴ができるまでに回復され、契約終了となったケースもあった。
- ご利用者の状況は、重度利用者の利用者が大半を占め、医療的処置（人口呼吸器・IVH・胃瘻・尿バルーンなど）を有するご利用者にも安心して入浴していただきました。利用者の中には他サービスの利用が難しく訪問入浴の入浴でなければ入浴できない利用者もあった。利用者のニーズを把握し、柔軟な対応に努めることができた。
- 今後もお利用者のニーズに対応しながら、各事業所と連携を密にして、安全で安心して喜んでいただけるサービスを提供できるよう努める。

①利用状況

		介護予防サービス		介護サービス					合計
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
契約人数	29年度	0	0	0	2	5	3	8	18
	30年度	0	0	0	3	7	0	5	15

実施日数	29年度	0	0	0	2	17	7	38	64
	30年度	0	0	0	4	16	0	11	31
延利用人数	29年度	0	0	0	3	47	28	114	192
	30年度	0	0	0	10	50	0	35	95
日平均利用人数	29年度	0	0	0	1.5	2.8	4.0	3.0	3.0
	30年度	0	0	0	2.5	3.1	0	3.2	3.1



10. 居宅介護支援

今年度の給付管理件数は月当たり 112～118 件で、老健に入所される方が多い冬季は 107～109 件でした。新規利用の希望があれば、積極的に相談に応じ、なるべく早くサービス利用につなげることができるよう、地域包括支援センターや医療関係者、サービス事業所などと連携して対応しました。

特養への入所基準が要介護 3 以上となった影響や、要支援認定の方が区分変更や更新で要介護になって居宅を依頼されることもあり、要介護 1、2 が給付管理件数の 63～66% を占めることとなりました。

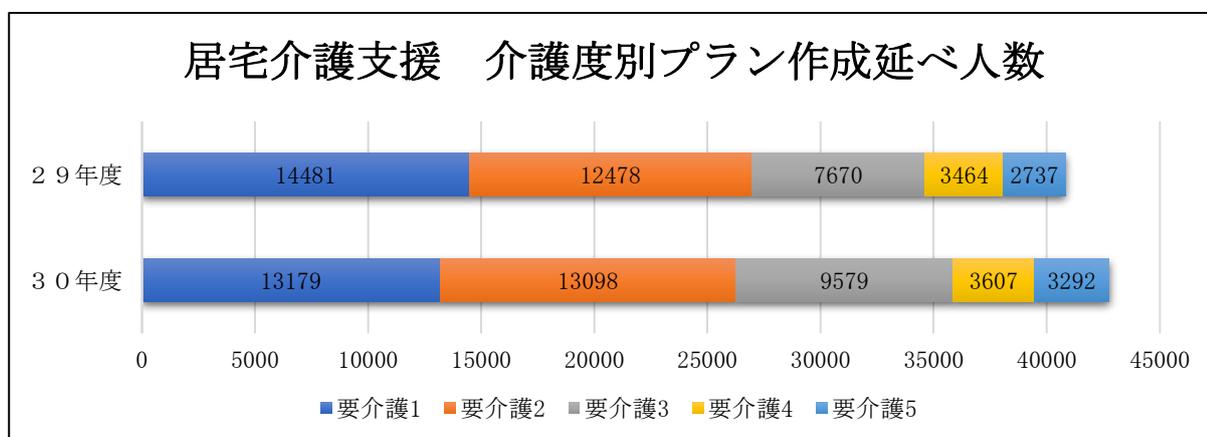
利用者の入退院に際しては、速やかに医療との連携を図り、情報提供シートの送付や面会により地域連携室と情報交換し、カンファレンスに参加するなど、状態の把握や本人、介護者の意向の確認に努めました。また、例年通り、地域ケア会議やケアマネ連絡会、各種研修への参加を通じて、多職種や他事業所と交流を深めることができ、認知症カフェには毎回参加することで、地域の方と顔なじみの関係を築くことができました。今後も与謝野町地域の高齢者やその介護者が、住み慣れた地域や家庭で安心して生活が継続できるよう、関係機関との連携を強化するとともに、ケアマネとしての資質の向上に努め、利用者や家族から信頼される相談業務を行っていきたいと思います。

(ア) 内容別相談件数

年度	内容	介護保険その他 福祉サービス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待	その他	合計
		29年度	実数 150	0	1	3
	延数	9,103	0	4	7	9,114
30年度	実数	154	0	0	2	156
	延数	8,783	0	0	5	8,788

(イ) ケアプラン作成管理件数

	作成管理延人数	作成管理実件数
29年度	1,345	150
30年度	1,343	154



1 1. 事務

【職員研修参加状況】

① 施設内研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
身体拘束ゼロ委員会/認知症ケア部会主催	39	講師：京都府丹後保健所 西邑 氏 チームアプローチにおける人間関係の重要性
身体拘束ゼロ委員会/認知症ケア部会主催	73	身体拘束についての基本を学ぶ（テスト）1回目
身体拘束ゼロ委員会/認知症ケア部会主催	65	身体拘束についての基本を学ぶ（テスト）2回目
褥瘡対策委員会主催	24	講師：丹後中央病院 看護師 糸井恵子 「スキン・ケアの予防」 講師：丹後中央病院リハビリテーション部松田佳憲 「シーティング方法」
サービス向上委員会/排泄部会	21	講師：王子ネピア 竹村和子 「利用者個々に合ったオムツを正しく使用できる様になるために」

感染症対策委員会主催	64	食中毒について
感染症対策委員会主催	54	吐物処理について実技研修
安全衛生委員会主催	45	腰痛予防
安全衛生委員会主催 1 回目 消防避難訓練	55	消防設備、消防訓練について
安全衛生委員会主催 2 回目 消防避難訓練	55	消防設備、消防訓練について
協会けんぽ「健康講座」	15	活気のある生き生きとした職場づくり
リスクマネジメント委員会	22	リスクマネジメントについて考える
ユニット内ミニ勉強会	21	加算について
ユニット内ミニ勉強会	21	看取りについて
ユニット内ミニ勉強会	23	ユニットケアについて
ユニット内ミニ勉強会	22	不適切ケアについて
排泄部会によるミニ勉強会	2 (利用者 8)	一人ひとりの尊厳を守るケア
排泄部会によるミニ勉強会	26	排便体操
マナー研修	22	接遇研修
訪問入浴介護事業所研修会 (研修計画に基づき年間 12 回開催)	48	接遇マナー、事例検討、感染症について等
訪問介護事業所研修会 (研修計画に基づき年間 12 回開催)	60	接遇マナー、事例検討、認知症、食中毒、 感染症について等
リスクマネジメント委員会主催	30	ヒヤリハット報告の重要性について
リスクマネジメント委員会主催	25	ヒヤリハット報告の重要性について

②施設外研修

② 研修・会議名	参加人数	研修内容
バリアフリー展	3	バリアフリー2018
キャリアアップ研修 (初任者)	2	福祉サービスの理念・倫理の基礎
老人福祉看護介護職員研修	1	摂食嚥下について～毎日直面する『食べる こと』を一緒に考える。
高齢者・障害者施設職員感染症予防対策 研修会	2	感染症の基礎知識を深め、集団感染予防 対策を学ぶ
認知症実践者研修基礎研修	3	認知症の費との理解と対応の基本
キャリアアップ研修 (中堅職員)	1	中堅職員としての役割とキャリアアップ
北星会法人研修初任者対象研修	4	リスクマネジメント研修
北星会法人研修リーダー対象	8	事業を担う中間管理職になるために
認知症実践者研修	2	認知症の人の理解と対応の基本
ユニットリーダー研修	1	ユニットケアの理念と意義、実践のポイ ント

キャリアアップ研修 (チームリーダー)	1	リーダーとしての姿勢・心構え・スキルをマスターする。
アンガーマネジメント研修	1	怒りのコントロール
平成 30 年度特定給食施設従事者講習会	1	給食施設における災害時の食の備えについて
平成 30 年度看取りサポート人材養成研修	1	最期まで自分らしく生きる
第 1 回デイサービス職員研修	2	デイサービス見学ツアー&職員交流会 (北部コース)
中丹東ブロック職員研修会	1	地域に選ばれる施設づくり
福祉避難サポートリーダー研修	1	地域における要配慮者支援について考える
施設看取り専門研修	1	高齢者施設における看取りの考え～さいごまで自分らしく生きるために～
高齢者虐待防止トレーナーフォローアップ研修	1	養介護施設従事者等による虐待防止
平成 30 年度産業医衛生管理者研修会	1	
指定施設における不在者投票事務にかんする説明会	1	
絆ネット支援事業加盟団体研修会	2	認知症の理解
認知症高齢者の行方不明時における GPS 活用に関する研修会	2	丹後圏域広域 SOS ネットワーク訓練
若年性認知症支援研修会	3	若年性認知症の方の支援を考える
丹後地域認知症カフェ連絡会	1	認知症カフェでリハビリテーションの視点を活かした当事者支援を考える
平成 30 年度「福祉即戦力人材養成科」実習指導者研修	2	実習生の対応について
平成 30 年度栄養士等ネットワーク推進研修会	1	繋がる。栄養士から見た丹後地域の食支援について
平成 30 年度難病患者等、ホームヘルパー養成研修	1	難病の基礎知識
高齢者虐待防止トレーナー養成基礎研修	1	不適切なケアを防止するための施設内研修のすすめ方
第 3 回丹後保健所管内栄養士研究会	1	嚥下について
北星会接遇マナー研修	4	介護現場の接遇について
与謝野町認知症カフェ事業者定例会	1	
与謝野町キャラバンメイトコアメンバー会議	1	
認知症カフェ定例会	1	
在宅サービス関係者北部医療センターとの連携会議	5	「在宅看取り」の検討会

認知症疾患医療連携協議会	1	初期認知症対応の現状や課題について
老人福祉施設等職員研修	1	虐待防止法についての基礎理解を深める
看取りサポートの人材養成研修	1	最期まで自分らしく生きる。
地域ケア会議	3	事例検討
与謝野町ケアマネ連絡会	1	施設見学会（マ・ルート）
若年性認知症支援研修	1	若年性認知症の理解と求められる支援
平成30年度企業内人権啓発推進員研修会	1	公正な採用選考について
平成30年度京都府北部障害者雇用促進セミナー	1	障害特性に応じた職務の作り方
障害者・高齢者虐待防止と施設事業所職員の心のケアを考える研修会	1	身体拘束と虐待について、「津久井やまゆり園事件から2年」これまでの経過と現状報告

【介護実習等受入状況】

月	学校・事業所名	月	学校・事業所名
6月	与謝野町立加悦中学校（職場体験）	11月	福祉即戦力人材
10月	京都府立看護学校		

【ボランティア活動状況】

ボランティア名	活動内容	回数/年	延参加数
喫茶ひまわり	喫茶お手伝い	15	47
シーツボランティア	シーツ交換	11	73
傾聴ボランティア	話し相手。折り紙	8	8
かるかも会	補修（衣服の繕い）	4	14
桑飼小学校	交流会	2	18
桑飼保育園	交流会	2	25
あかかぶ会	車椅子清掃	1	9
オカリナサークル「ガンバルンバ」	オカリナ演奏	1	18
加悦地区婦人会	清掃	1	15
ウクレレサークル レファ	ウクレレ演奏、ハワイアンダンス	1	10
歌謡ほのぼの会	カラオケ	3	17
梅林寺花園会女性部	清掃	1	11
島田	ハンドマッサージ	1	1

【各種会議開催状況】

会議名	開催回数/年
主任会議	12回/年
リスクマネジメント委員会	12回/年
サービス向上委員会/行事部会	12回/年
サービス向上委員会/ケア記録部会	12回/年

サービス向上委員会/排泄部会	4回/年
研修委員会	12回/年
第三者評価委員会	11回/年
感染症対策員会	6回/年
身体拘束ゼロ委員会	4回/年
褥瘡対策委員会	3回/年
医療的ケア委員会	4回/年
夏祭り実行委員会	7回/年
部署間連絡会議	7回/年
入所検討会議	12回/年
安全衛生委員会	12回/年
インフルエンザ対策会議	15回/年
ユニット会議	11回/年
ユニットリーダー会議	12回/年

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9月10日	84人	年1回
腰痛健診	9月10日、2月4日	75人、76人	半年に1回
深夜業務従事者健診	2月4日	32人	年1回
ストレスチェック	11月	67人	年1回

平成30年度 社会福祉法人北星会

天橋の郷 事業報告書

【年度統括】

平成30年度、天橋の郷は開設後14年を経過し、事業全体では若干の減収となりましたが、平成29年度とほぼ同等の実績を上げることができました。

在宅サービスにおいては、地域包括ケアシステムの推進により要支援者の利用が増加する中、要介護者へ提供するサービスと明確に区分することができず、利用は増加するものの保険収入はあまり増えていない。という課題が明確となりました。

毎年恒例の天橋の郷ふれあいフェスタ、認知症カフェ、介護の日オープンデイ等の大きな事業の開催に加え、日々のサービスは在宅、入所を問わず質の高いケアを提供するよう努力しましたが、職員の育児休業や退職も重なり、定時の勤務では業務をこなせきれず、職員に多くの残業を強いることとなりました。

法人内の職員異動のお願いや職員募集は年間を通して行いましたが、職員増員はすすまず、職員は日常業務に追われ不安な気持ちで勤務する状況となっています。

令和元年度は、職員全員に施設方針を丁寧に説明し、全ての事業と業務において効率化を図ると共に職員を増員することで職員が安心して楽しく働ける職場環境、求職者から選択される職場作りを実現し、職員が利用者や家族、地域の皆様と優しく丁寧に笑顔で接することを心がけ、今以上に求められる事業所となるよう努めます。

【事業報告】

1. 特別養護老人ホーム

①入居利用者の状況

(ア)稼働率（入居定員：70名）

年度	区分	営業日数	延入居数	空きベッド数	平均入居数/日	稼働率
29年度		365	25,356	194	69.4	99.1%
30年度		365	25,353	197	69.4	99.1%

(イ)契約数

年度	区分	新規入居者	待機者	施設看取り	施設外死亡	施設移転	帰宅
29年度		21	47	15	3	0	0
30年度		21	69	12	1	1	0

(ウ)地区別 入居状況

年度	地域	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
29年度		79	7	0	5
30年度		81	6	1	3

(エ) 年齢・性別 入居状況

区分	60～64		65～69		70～79		80～89		90～99		100以上		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
29年度	0	0	0	0	2	5	8	23	3	25	0	4	13	57
30年度	0	0	0	0	1	4	6	21	4	30	0	3	11	59
平均年齢	29年度		男性		85.7歳		女性		89.6歳		合計		88.9歳	
	30年度		男性		87.9歳		女性		90.4歳		合計		89.1歳	

(オ) 入居期間別 入居状況 (特養)

区分	6か月未満		6か月以上1年未満		1年以上3年未満		3年以上10年未満		10年以上		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
29年度	1	6	3	6	6	25	3	14	0	6	13	57	70
30年度	2	7	1	8	6	19	2	19	0	6	10	60	70
平均入居期間	29年度				3年3か月								
	30年度				5年1か月								

(カ) 入居期間別 延入居状況 (特養)

年度	6か月未満		6か月以上1年未満		1年以上3年未満		合計
	男	女	男	女	男	女	
29年度	3	10	3	6	9	27	
30年度	3	11	2	12	9	22	
年度	3年以上10年未満		10年以上		計		合計
	男	女	男	女	男	女	
29年度	3	22	0	6	18	71	89
30年度	3	24	0	7	16	76	92

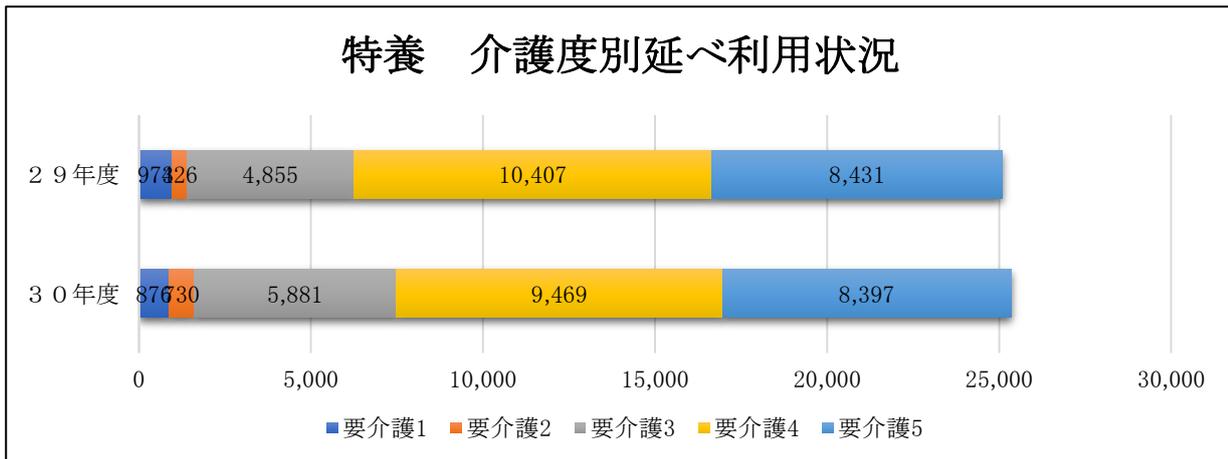
(キ) 介護度別 入居状況

区分	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
29年度	0	3	0	1	0	16	6	20	7	17	13	57
30年度	0	2	0	2	3	10	6	24	3	20	12	58
平均要介護度	29年度				4.0		30年度				4.0	

(ク) 介護度別 延入居状況

区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
29年度	973	426	5,119	10,407	8,431	25,356
30年度	876	730	5,881	9,469	8,397	25,353

特養 介護度別延べ利用状況



2. 介護部

人員体制が整いきらない勤務の中ではありましたが、各ユニットが入居者の安全と尊厳を守りながら、家族を含めた信頼関係の構築と維持に努めることが出来ました。

プリセプター制度による育成の実践や実習生の受け入れにより、職員間でケアのあり方を確認する機会を持って、チームとしてのケア力向上に繋げる事が出来ました。

入居者の情報共有の徹底と、各場面での他職種への相談・連携に努め、その意識をスタッフ一人一人が持てるように働きかけました。今後も他職種協働の意識を高めていきたいと思えます。

- ・ 暁ユニット：入居者の対人関係や会話、表情、行動を日々観察して記録に残し、入居者が心穏やかに過ごせるように配慮したケアが提供出来ました。職員一人ひとりが入居者の声に耳を傾け最適なケアを探りながら実践できたと感じています。今後は様々な場面で一人ひとりの希望に合わせた関わりで入居者の精神面での充実を図っていききたいと思えます。
- ・ 泉ユニット：服薬の事故が数件続いた事もあり、その後は職員一人ひとりがしっかりと意識しながら業務にあたり、気を引き締めた対応が出来ました。
 日々の生活の中で楽しみを持って頂けるよう、入居者のリクエストを聞き一緒に楽しみながら行事食を行う事が出来たと思えます。また、入居者が安心して穏やかに過ごすために言葉使いや態度に気を付けながら関わり持ち、職員同士お互いに指摘しあえるように努めてきました。
 今後も入居者やその家族との信頼関係が深められるよう努力してまいります。
- ・ 紅ユニット：職員が常に言葉をかけ合い、傾聴を意識した関わりで入居者の思いを汲み取り、安心して生活が送れるよう努めることが出来ました。看取りケアでは、最期を迎えられる時まで寄り添うケアを意識した関わりに努めました。

次年度についても入居者と職員が信頼できる関係づくりを大切に、入居者の方が安心して頂ける場所、気持ちの和らぐような生活空間を提供できるように常日ごろから気づきを大切にしていきたいと思えます。

- ・翠ユニット：職員一人ひとりが入居者の想いに着目し向き合うことで、それぞれの状態や状況に応じたケアの提供に努めることが出来たと思います。そして、その思いをひもとき、より良い関係性が築けたことで、心にゆとりが生まれ、穏やかに時には笑顔で過ごして頂けたのではと思っています。また、入居者の安心・安全な生活の確保に努める為、職員間で意識的に情報交換を密に行うことで、チーム力の向上が図れたと感じています。

状態急変で、ご本人やご家族の想いに添えず、後悔が残る年度末ではありましたが、この経験を糧に入居者の死生観を汲み取り、柔軟な思考で前向きに向き合う姿勢を持って日々努めたいと思います。
- ・茜ユニット：職員間のコミュニケーションや情報交換に力を入れ職員間の信頼関係を築いたうえで、入居者のとの信頼関係構築に尽力しチーム力の向上が図れたと思います。

また、入居者の思いを引き出すために生活歴を知り、興味ある事を少しでも理解し向き合うことが出来ました。また、思いがあり行動を起こされる事を理解し、出来る限り思いのまま行動して頂くように見守り安心して笑顔が見られるよう努めました。今後も入居者の安心・安全な生活のため、小さな変化やサインを見逃さないようチーム間はもちろんご家族や他部署との連携を今以上に密に取っていきたいと思います。
- ・和ユニット：入居者との専門的な視点での取組やケアの充実に繋がるよう、日々職員同士で検討し行えた事がよいケアに繋がっています。ご家族との関わりでは面会時など状況報告等もしっかり行い、信頼関係構築に努めることが出来ました。入居者に楽しんで頂く企画においても職員の密な連携を図り、実行できたと感じています。今後も入居者の笑顔を引き出せるよう、ケア力向上に努めたいと思います。
- ・梓ユニット：季節にあった行事食や外出企画等楽しんで頂ける時間を提供出来ました。日々の生活の中で会話、傾聴、コミュニケーションを図り安心して生活して頂けるような配慮、その人にあったリズムで生活して頂くことが出来ました。言葉で反応が返ってこない入居者に対しても積極的に話しかけることで視線を返して頂けたり返答しようとする口の動きや発声があり、コミュニケーションが取れていたと思います。職員の笑い声につられて入居者も笑顔になるような明るい雰囲気がありました。課題を乗り越えようとする度に入居者、職員共にお互いを理解して少しずつ信頼関係を築けるようになってきていると思います。

3. 看護部

施設理念に基づき、その人らしい日常生活や健康維持ができるように高齢者の特性を理解し、嘱託医の協力の下で個別に沿った看護を提供する事が出来ました。

また他職種とも協働し、チームケアを入居者に適切に提供できるように連携を密に取るように努める事が出来、入所から終末期においても家族と共に入居者の個々の希望に

沿った看取りケア、また日々のケアを提供できるように取り組み事が出来ました。今後も入居者の為にチームワークをしっかりと、生活を支えていけるように取り組みます。

個々のスキルアップについては外部への研修等の参加も充分には出来ていない為、不十分な部分もありますが今後もリーダーとしての役割を持てるように日々、努力していきます。

①診療状況（天橋の郷）

（ア）天橋の郷

科目		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
年度									
29年度	実数	89	6	0	8	0	6	0	0
	延数	649	38	0	32	0	68	0	0
30年度	実数	92	4	0	8	0	3	0	0
	延数	596	12	0	60	0	34	0	0

（イ）他の医療機関 通院

科目		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
年度									
29年度	実数	7	12	6	0	1	1	0	0
	延数	23	36	21	0	2	1	0	0
30年度	実数	20	11	6	1	1	1	3	0
	延数	30	18	12	4	1	1	5	0

（ウ）他の医療機関 入院

科目		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
年度									
29年度	実数	10	2	0	0	0	0	0	0
	延数	10	2	0	0	0	0	0	0
30年度	実数	8	2	0	0	0	0	0	0
	延数	9	2	0	0	0	0	0	0

②健康診断等の実施状況（実施日時）

	対象人数	胸部集団検診
29年度	69	平成29年10月31日
30年度	69	平成30年10月30日

4. 支援室

今年度は、7月の豪雨による土砂災害での被害に遭われた方の緊急SSの受け入れ先として長期のベッドを丸1ヶ月使用していただいたことや、体調を崩され入院となられた方の入院期間が長期にわたる事が多く、稼働率の低下を招きました。

医療機関やSS相談員との連携に努めましたが、空ベッドが活用できるまでに至りま

せんでした。

看取りケアへの移行については、今年度は急変による死亡が多かったことに加え、他部署と連携し看取り期であるとの認識はありながら、同意に至るまでに亡くなられ加算の算定ができなかったことが数件ありました。今後は、早目に看取りケアへと移行できるよう努めて行きます。

(ア) 相談件数

区分 年度	入所相談	在苑者相談	面接(本人)	退所相談	その他	合計
29年度	73	14	23	1	0	111
30年度	101	4	24	0	0	129

(イ) 待機者数 (地区別)

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合計
29年度	42	0	0	5	47
30年度	39	25	0	5	69

(ウ) 待機者数 (介護度別)

介護度 年度	要支援・他	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
29年度	0	0	3	20	14	10	47
30年度	0	0	0	38	22	9	69

(エ) 退去状況 (特養)

年度 区分	退去先	自宅 家族宅	医療機関 (入院)	看取りによる 死亡	その他	合計
	29年度	人数	0	3	15	1
	比率	0%	16%	79%	5%	100%
30年度	人数	0	1	12	9	22
	比率	0%	5%	55%	40%	100%

5. 給食部

利用者様のニーズに、出来る限り対応し、地産地消、季節感などを意識し楽しみとなる食事づくりに努めました。また、郷食堂をはじめとする企画料理にも取り組みました。

配食弁当は、丁寧に作り、気持ちを込めて盛り付けすることを心掛けてお届けしました。食数も増えつつあり、喜んでいただいているように思います。

近年、調理職員の技術力に、開きが出てきている現状があるので、日々の業務や調理会議で話し合いも重ねています。全員がプロ意識をもってスキルアップできるよう具体的な取り組みと、仕事に向かう姿勢の意識改革の必要性を感じています。

①提供実績

(ア) 延食数

年度	特養	短期入所	通所
29年度	25,009	6,732	12,230
30年度	25,064	6,832	12,232

(イ) 栄養基準（1日あたり）

項目	エネルギー (kcal)	タンパク質 (g)	カルシウム (mg)	脂質 (g)	鉄分 (mg)	ビタミンA (μgRE)	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンC (mg)
基準	1,400	50	550	30	6	560	1	1	100
29年度	1,451	55	494	39	5.3	445	0.6	0.8	70
30年度	1,449	57	483	40	5.3	431	0.7	0.9	70

(ウ) 食品群別摂取量（1人1日当たり食糧構成）（単位：g）

群類	1群		2群						3群					4群		
	牛乳乳製品	卵類	魚介類	獣鳥肉類	豆類	大豆製品	味噌	堅果類	緑黄色野菜	淡色野菜	果実類	芋類	海藻類	米	麦	油脂
基準	250	20	70	50	50		1	80	150	50	40	5	180		3	
今年度平均	270	17	65	52	44		1	80	150	51	40	3	190		3	

6. 短期入所

昨年と比べ稼働率はやや上向きとなりましたが介護度の低下は続いており、近隣に施設が充実してきた事などによる介護度の高い方の施設・老健入所が増えてきた事を現していると思われます。また、体勢が保持出来ずに機能訓練加算を算定出来ない時期があった事なども影響して収入としては昨年同程度となりました。稼働率を維持するべく登録人数を増やしていますが、希望日以外の利用を望まない方が依然として大半を占めており、調整が厳しい状況が続いております。

在宅での終末期における、家族のレスパイトケアの要望が近年高まっており、その要望に対応出来るように手順や確認すべき項目などを整理し、家族や主治医・ケアマネなど関係各所と連携をとり利用して頂ける体制作りを行い、家族の希望に添えるように努めてきました。今後も体制を維持し、地域福祉における役割の一つとして力を発揮していきたいと思っております。

いちごカフェや介護教室など、地域に出向き福祉の知識や健康体操など健康寿命を伸ばす働きかけなどを行いました。今年度から介護教室は地域からの要望を聞き取り、開催を行う方向で取り組みました。事前の協議や地域からの要望を汲み取るなど、今まで以上に地域と密にやり取りを行う事で更に関係性が濃くなったように感じています。今後も継続して取り組むことでより良い関係の維持・構築が出来ると考えております。

・介護部

十分な体制を確保出来ない中でも、利用者の安心・安全を確保しながら満足度を高めるべく取り組みを行ってきました。日々の余暇活動においては実施出来ない状況もありましたが、個々の利用者のニーズを聞き取りながら行事食や外出などの立案・実施を行い、楽しめる時間の提供を行いました。今後も取り組みを継続していき、郷での時間が楽しい記憶となるように努めていきます。

また、日々のケアがより良いものとなるよう、入浴・排泄などの援助方法や環境設定など、個々の利用者や家族に確認しながらより快適に過ごしてもらえよう取り組みを継続して行い、利用者自ら要望を言われる機会も増えてきました。今後も思いや希望を言いやすい関係を維持できるように努め、過ごしやすい環境・心地よい場所となるように努めていきます

昂ユニット：職員の勤務体勢が適切ではない期間が長く、ユニット職員には身体的・精神的にも負担が大きく、限界を感じる勤務の中でも利用者の些細な言動にも寄り添い、各職員が最善の選択をして施設利用を有意義に過ごして頂ける空間を提供することができた。

個々の利用者と密に関わり、施設での住環境やケアを見直し、生活の総合的な支援の基本を大事にしたことで、『やっぱりここがええな。』『次来るんが楽しみにになった。』『他の施設ではありませんよ。』など高評価も頂けた。

長期に渡り、適切な勤務体制で業務遂行することが出来ず、各職員に負担を掛け申し訳なく思う。また、その様な状態でも利用者に寄り添い、高評価を得られたことは十分な結果だと感じている。

虹ユニット：『思いやりの心』を持つ意識は、皆で共有し出来ていたと思うが、厳しい勤務体制等で心に余裕が無く笑顔も少ない時があったのではないかと思う。その反面、虹食堂の様な利用者が希望したメニューを作り、提供出来たりして厳しい中でも自分たちが出来る事を見つけて実行出来ていたと思います。

少ない時間でもコミュニケーション等を取ろうと努力し、ユニット会議や日々の業務の中にご利用者の趣味・嗜好等に気付こうと些細な事でも話を出来たのは良かったと思う。

厳しい勤務体制だったり、連続勤務等の続く中で自分が出来る事、ユニット全体で何が出来るか等を話し合い、個々で出来る事をやっていけたのは良かった。

①利用者の状況

(ア) 稼働率（定員：20名）

年度	区分	営業日数	延入居数	平均入居数/日	稼働率
29年度		365	6,853	18.8	93.9%
30年度		365	6,919	19.0	94.8%

(イ) 契約数

年度	区分	新規入所者
29年度		56
30年度		62

(ウ) 地区別 入所状況

年度	地域	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
29年度		123	1	0	1
30年度		125	2	0	1

(エ) 介護度別 入所状況

年度	介護度 性別	要支援1		要支援2		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
29年度						9	20	12	22	13	20	5	16	2	6	41	84
30年度						7	26	10	34	7	21	3	11	3	6	30	98
平均要介護度		29年度				2.5				30年度				2.45			

(オ) 要支援度別 入所状況

年度	要支援度 性別	要支援1		要支援2		合計	
		男	女	男	女	男	女
29年度		2	2	0	5	2	7
30年度		2	1	2	4	4	5

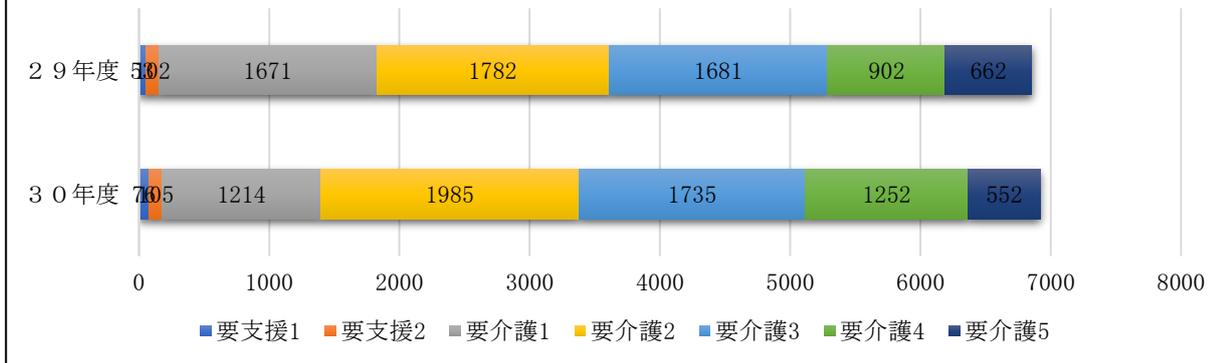
(カ) 介護度別 延入所状況

年度	介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
29年度		53	102	1,671	1,782	1,681	902	662
30年度		76	105	1,214	1,985	1,735	1,252	552

(キ) 加算の状況

加算項目 年度	機能訓練体制 加算	サービス提供 体制加算Ⅰ	夜勤職員配置 加算Ⅱ	在宅中重度者 受入加算Ⅳ	送迎加算	処遇改善 加算Ⅰ
29年度	6,853	6,853	6,698	7	2,330	880
30年度	4,432	6,919	6,738	10	2,402	1,058

短期入所 介護度別延べ利用状況



7. 通所

ご利用者がデイでの一日を快適に安心して過ごして頂けるよう、どんな些細な事でも観察、情報交換し、報連相の徹底と家族や関係機関との連携に努めました。

又、コミュニケーションを大切にし、その人の思いを尊重し楽しみを見出していただけのように、一人一人に寄り添ってきました。活動で物づくりグループに於いてはハーバリウム、折り紙アート等の制作、園芸に於いては季節の花や野菜を栽培し、収穫出来た小豆などでお菓子を作ったりと、創作意欲、理解力を高め脳機能低下、身体機能低下の予防を目的とし、完成したときの喜び、達成感を味わっていただける様取り組んできました。また運動グループではリハビリを視野に入れた体操、脳トレーニング、体感ゲームを通して介護予防に繋がるような内容を展開してきました。そして四季の風景や時代背景が浮かんでくる歌を、歌唱やカラオケで回想療法として日々取り入れました。

稼働率に於いては上半期は85～90%と昨年より上回っていましたが、後半、冬期の複数日利用者の骨折入院、SSの延長、長期入所、高齢化による体調不良による当日キャンセル等が重なり、80%をきってしまう月もありました。そして12月～機能訓練に関わる看護職員の退職により加算取得が出来なくなり収入減となっています。

今後、新たな新規登録者や複数日利用者を積極的に受け入れ、利用率を増やしていく様、一層努力します。そして「今日たのしかった」にとどまらずデイサービスの日を心待ちにし、「在宅で頑張る」という本人の心や体に働きかけ、継続して利用に繋がっていただけるような活気、魅力あるサービス内容の提供に努めます。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

年度	区分	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
29年度		35(8月～)	257	8,069	85.6%	1.3
30年度		35	257	7,780	86.5%	1.3

(イ) 介護度別利用状況

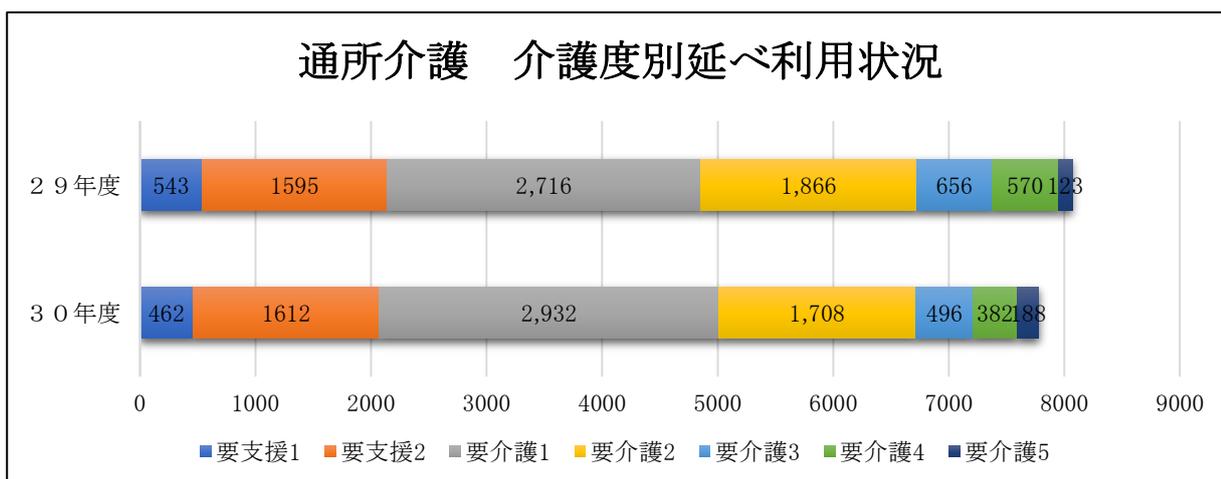
介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
29年度	2,716	1,866	656	570	123	5,931
30年度	2,932	1,708	496	382	188	5,706

(ウ) 介護度別利用状況 介護予防

介護度 年度	要支援 1	要支援 2
29年度	543	1,595
30年度	462	1,612

(エ) 加算の状況

加算項目 年度	個別機能訓練 加算 I	提供体制 加算 I	入浴加算	認知症加算	運動器機能向 上加算	処遇改善 加算 I
29年度	5,503	5,826	4,567	1,256	335	857
30年度	3,096	5,730	4,115	0	346	832



8. Re-style 【サテライト】

平成30年度は楽しみながら運動を行うプログラムを重点的に行い、同地域の他のリハビリ特化型デイとの差別化を図り、安定した利用者確保に努めました。

その結果、年間の延べ人数は昨年度に比べ750名程度上回り、1日当たりの平均利用者数も18.1名と目標の16.5名より大きく上回りました。

ここ1年は安定して利用者確保出来ていますが、夏期の猛暑時は稼働率が下がった傾向にあり、対策を行う事が今後の課題です。

また、昨年度同様要支援者が多数を占めていますが、要介護1の人数が昨年より増えている傾向にありました。今後は全体のバランスも考慮しながら、要支援者を中心に受け入れを行います。

今年度の機能訓練はこれまでと同様パワリハやポールウォーキングを中心とした屋内での活動を行うとともに、昨年よりも更に屋外活動を積極的に行い、精神面・身体

面共に活動的になるよう支援を行いました。また地域連携として、積極的に介護教室などに参加し、地域住民との交流を図り、利用につなげることが出来ました。

今後ご利用者の声や前向きな気持ちを大切にして、ご利用者が望むサービスに努めRe-Styleらしい柔軟な活動の提供を展開していきます。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
29年度	AM・PM 15/15	257	3,884	50.4%	要支援2
30年度	AM・PM 15/15	257	4,650	60.3%	要支援2

(イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
29年度	495	351	104	0	0	950
30年度	674	340	81	0	0	1,095

(ウ) 介護度別利用状況 介護予防

介護度 年度	要支援1	要支援2
29年度	1,846	1,088
30年度	2,594	961

(エ) 加算の状況

加算項目 年度	個別機能訓練 加算Ⅱ	提供体制 加算Ⅰ	認知症加算	処遇改善 加算Ⅰ	運動器機能向上 加算
29年度	972	977	76	264	720
30年度	1095	1101	0	290	891



9. はまなす苑通所介護事業所

昨年度に比べ要介護5の受入れが増え、一日のリフト浴も多い曜日には7名もあり

午後からも入浴時間を設ける日が多く続きました。ショート利用や老健への短期入所、骨折による入院と、予定稼働率から大幅に下がる月もありましたが、複数回利用希望者で補う事ができ、延利用数が伸びました。

在宅サービスの行き届かない地域でのデイサービスでは、定員を超えての飛び入り利用希望などがありお断りする日もありましたが、年明けからは長期や老健入所などで利用中止も続き定員を超える利用希望の問題も解消されました。

午後からの活動では、皆さんが意欲的に参加していただける内容でゲームを計画し、午後はベッドで過ごされる時間の多かった方も、参加していただける程賑やかな時間になっています。延利用者数は 150 名程増えたものの、職員不足が解消されず例年に比べると野外活動や外出の機会は減り、ご利用者に十分に満足していただけるサービスが提供出来たかが課題に残りました。今年度は職員が 2 名増え、早速活動的な内容で計画が進んでいます。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
29年度	20	257	4,283	83.3%	1.9
30年度	20	257	4,417	85.9%	2.0

(イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
29年度	1,538	1,204	733	523	3	4,001
30年度	1,575	1,070	1,047	303	150	4,145

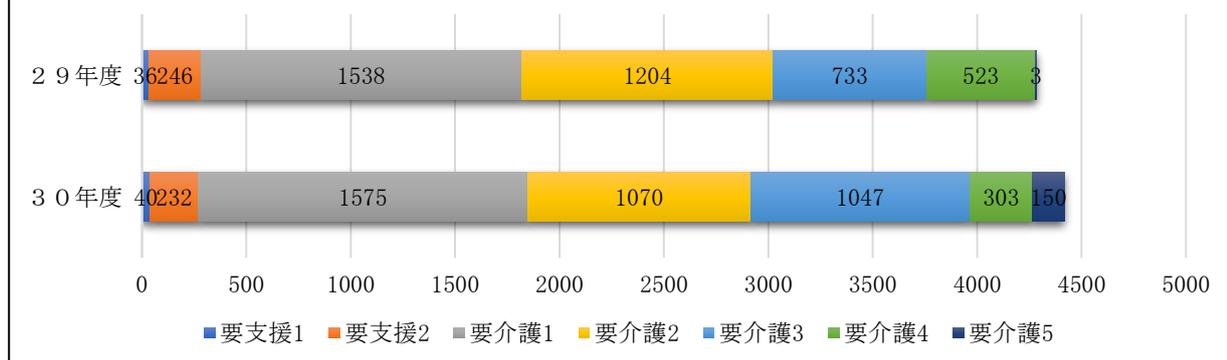
(ウ) 介護度別利用状況 介護予防

介護度 年度	要支援 1	要支援 2
29年度	36	246
30年度	40	232

(エ) 加算の状況

加算項目 年度	個別機能訓練 加算	入浴介助加算	認知症加算	送迎減算	サービス提供 体制加算 I	処遇改善 加算 I
29年度	2,620	3,818	873	107	4,005	491
30年度	0	4,073	1,400	38	4,158	516

はまなす苑 介護度別延べ利用状況



10. 事務

【配食サービス】

年度 \ 項目	介護配食
29年度	418 食
30年度	1,134 食

【持ち帰り弁当】

年度 \ 項目	持ち帰り弁当
29年度	1,469 食
30年度	2,955 食

【おむつ等販売】

年度 \ 項目	販売数 (パック)
29年度	961 個
30年度	1,053 個

【職員研修参加状況】

①施設内研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
排泄ケア・褥瘡予防委員会	38	リヴドゥ排泄ケア研修① 紙おむつの特性 1
感染症委員会	33	感染症による嘔吐物のベッド上の処理
排泄ケア・褥瘡予防委員会	38	リヴドゥ排泄ケア研修② 紙おむつの特性 2
認知症ケア・拘束廃止委員会	37	不適切ケア グループワーク
事故防止委員会	25	谷原暢氏 「薬について」
排泄ケア・褥瘡予防委員会	27	リヴドゥ排泄ケア研修③ 排泄ケアの基本
拘束廃止委員会	31	「ユニットケアについて～拘束廃止～」 福野初夫氏

排泄ケア・褥瘡予防委員会	28	リヴドゥ排泄ケア研修④ スキンケア
感染症委員会	33	吐物処理について
事故防止・拘束廃止委員会	30	虐待研修を受けて 虐待事例3 動画
排泄ケア・褥瘡予防委員会	25	リヴドゥ排泄ケア研修⑤ ポジショニング
実践報告会	62	・ユマニチュードの実践と理解 ・終末期の身体 の観察 ・天橋の郷に愛を込めて

②施設外研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
看護職・介護職等研修	1	嚥下について食べる楽しさを考える
ユニットリーダー研修	1	ユニットにあたるチームケアにおいてのチームマネジメントの習得
認知症実践者養成研修	4	認知症介護にあたるケア・質の向上
中堅職員キャリアアップ研修	1	福祉サービスリーダーシップ
看護協会北部地区研修	1	老いを生きる人々を知る
丹後地域リハビリ研修 2018	4	日常業務のスキルアップ・質の向上
職場改革リーダー養成研修	2	人間関係の良い職場を作る
認知症介護基礎研修	2	認知症介護にあたる基礎知識の習得
介護報酬改定栄養に関する伝達研修	1	栄養マネジメント様式の様式
宮津市虐待予防研修	3	虐待予防啓発
認知症介護リーダー研修	2	認知症介護にあたるケア・質の向上
看取りサポート研修	1	看取りを他職種連携でチームアプローチ
看取りケア研修（施設長対象）	1	施設の看取りケアを考える
特定給食施設従事者講習会	1	特定給食施設災害時対策
レゾポートつなげ隊養成研修	1	認知症レゾポート基礎知識と資質向上
安全運転管理者法定講習	1	運転業務管理者講習
感染症予防対策研修	1	感染症予防基礎知識習得
栄養士等ネットワーク推進研修会	1	給食施設の現状から食を考える
宮津市企業人権教育推進協議会研修	2	人権教育啓発
大規模災害対策セミナー	1	災害時の基礎知識と啓発
宮津市虐待防止フォローアップ研修	2	虐待予防啓発フォローアップ
福祉サービス苦情解決事業相談研修会	1	苦情解決における実践報告から学ぶ

【介護実習等受入状況】

月	学校・事業所名	月	学校・事業所名
6月	栗田中学校 2年生	8月	暁星高等学校
9月	栗田中学校 1年生	9月	栗田中学校 2年生
10月	京都府立看護学校	12月	福祉即戦力
3月	京都府立看護学校	3月	海洋高校生

【ボランティア活動状況】

ボランティア名	活動内容	回数/年	延参加数
あめんぼ	紙芝居・朗読・エプロンシアター等	7	92
玉穂会	民謡	9	477
千賀	朗読	6	35
柘本	体操教室	3	74
オールディーズ	懐メロ・童謡・ハーモニカ・ギター演奏	2	155
京都真琴会	大正琴演奏	1	73
カレンド	弾き語りDuo	1	120
ガンバルンバ♪	オカリナ演奏・脳トレ	1	62
宮津高等学校吹奏楽部	クリスマスコンサート	1	83

【各種会議開催状況】

会 議 名	開催回数/年
感染症予防委員会	1 2回
認知症ケア委員会	1 2回
排泄ケア・褥瘡予防委員会	1 2回
事故防止・拘束廃止委員会	1 2回
看取り委員会	1 2回
安全衛生委員会	1 2回
業務運営会議	1 2回
入所判定会議	1 2回
長期会議	1 2回
SS会議	1 2回
デイ会議	1 2回
居宅調整委員会	1 2回
医務会議	1 2回
調理会議	1 2回
給食会議	6回

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9月19日	102人	年1回
腰痛健診	9月19日・2月20日	93人・96人	半年に1回
深夜業務従事者健診	2月20日	36人	年1回
ストレスチェック	12月	84人	年1回

介護老人保健施設リハ・ヴィラなぎさ苑 事業報告書

【事業統括】

平成 30 年度は、介護報酬改定が行われ老健の在宅復帰・在宅生活維持支援の役割が明確にされるとともに、宮津市の第 8 次高齢者福祉計画の初年度にあたり、老健なぎさ苑では地域内の高齢者福祉施設の整備や充足状況、地域で介護サービスを展開している事業所の運営状況と整備計画を踏まえ、以下の 5 項目を取り上げて重点的に取り組みました。

1. 在宅復帰支援施設としての機能強化と質の向上

平成 30 年度に実施された介護報酬改定では、老健の在宅復帰・在宅生活維持支援の役割が明確にされ、5 つの段階に類型化されました。類型化にあたっては、在宅復帰・在宅生活支援の貢献度と評価点数の合計でランク付けされ、超強化型・強化型・加算型・基本型・その他型の 5 類型に分類されました。老健なぎさ苑は、従前より在宅復帰と在宅支援に積極的に取り組んできており、在宅復帰機能の強化型を維持あるいは新設された超強化型の評価指標や基準を上回ることを目標に年度当初より積極的に取り組みました。**その結果、4-5 月は強化型を維持、6 月以後は超強化型を算定することができました。**

また、在宅復帰・在宅生活支援に多様な在宅系サービスを切れ目なく提供できるよう連携体制を整えてきました。具体的には、多職種協働による退所前カンファレンス、通所リハカンファ、入所前後訪問、退所前後訪問などを行い、ご家族も参加して情報交換、情報の共有化を図り、**老健を退所され在宅復帰された後も、通所リハ、訪問リハ、短期入所等を効果的に利用していただくことにより、在宅生活が少しでも長く続けられるよう居宅介護支援の連携体制を作り、実践してきました。**

2. 職員の採用活動と人材育成

職員のリクルート活動に積極的に取り組み、新規採用 8 名、法人内他施設から 11 名（天橋園 10 名、天橋の郷 1 名）の異動を受け入れました。その結果、介護職員を増員して夜勤の人員を毎日 6 名体制（看護 1 名、介護 5 名）とし、職員の負担軽減を図りました。また、調理員を 5 名増員できたことによりこれまで本格的に取り組めていなかった嚥下食（やわらか食、ソフト食）の開発と試行・定着に努めました。

通所ではドライバーとして 2 名のパート職員を採用し、介護職員の負担軽減を図りました。リハビリでは、セラピスト 2 名を新たに新規に採用し、認知症短期集中リハ等の加算取得の増加に努め、訪問リハや介護予防総合支援事業などの新規事業の拡大につなげました。他にケアマネ・相談員 3 名を新たに雇用することにより居宅ケアマネを 1 名増員し、居宅 6 名体制を実現しました。

一方、平成 30 年度には、法人内他施設への異動による減が 4 名（本部 1 名、与謝の

園1名、天橋の郷2名) ありました。また平成31年3月に定年を迎えた職員は4名で、3名は再雇用を希望され、**平成30年度の退職者は定年退職1名、依願退職1名、パート退職者4名のみで、他施設への異動や施設内配置換え、職種を越えた異動などによって職員一人一人の事情に対応、離職者を最小限に抑えることができました。**

各専門職に必要なスキルアップや研修、ケアマネ取得などに組織としての取り組んでいないことが課題となっています。従いまして、平成31年1月から施設長が職員研修委員会を担当し、OJT (On-the-Job Training)、Off-JT を研修委員会が中心となってプログラム作成を行い、研修活動の計画策定や推進にあたることとしました。

3. 施設設備、備品の改修

ナースコールシステムの老朽化が顕著になったため、年度途中に平成30年度補正予算への組み込みを要請、理事会等で承認をいただき、年度内に仕様書作成、競争入札、納入業者決定まで行うことができました。今回の更新は、**老朽化したナースコールとPHSを更新するにとどまらず、外線電話機更新やPHSとの連動、大型モニター設置によって施設内情報共有を図るなど施設内情報ネットワークシステムの再構築を行うことを盛り込んでいます。また、ビデオ監視装置を更新してデジタル記録を可能として施設管理の安全性確保と事故や虐待防止に効果が期待できるもので、5月-7月にかけて順次導入、更新作業をすすめています。**

情報端末については、セキュリティ確保に配慮しつつ、老朽化した機器やOS、ソフトウェアは適宜更新、また職員増に対応して増設を進めてきました。携帯型端末は操作の利便性を高めるため手帳型をタブレット型 (iPad) に順次切り替えています。

3階の認知症専門棟のデイルームにリハビリコーナーを再整備し、入所者の居室に近い環境でリハビリを実施してサービス向上を図りつつ、1階リハビリ室を通所利用者に広くかつ効率よく使っていただくことが可能となりました。

開設から18年が経過し、建物についても一部で漏水などのトラブルが発生しており、一部では必要な水道管の交換工事などを行っていました。今後も、注意深く点検を継続する必要があると考えています。

4. 地域貢献

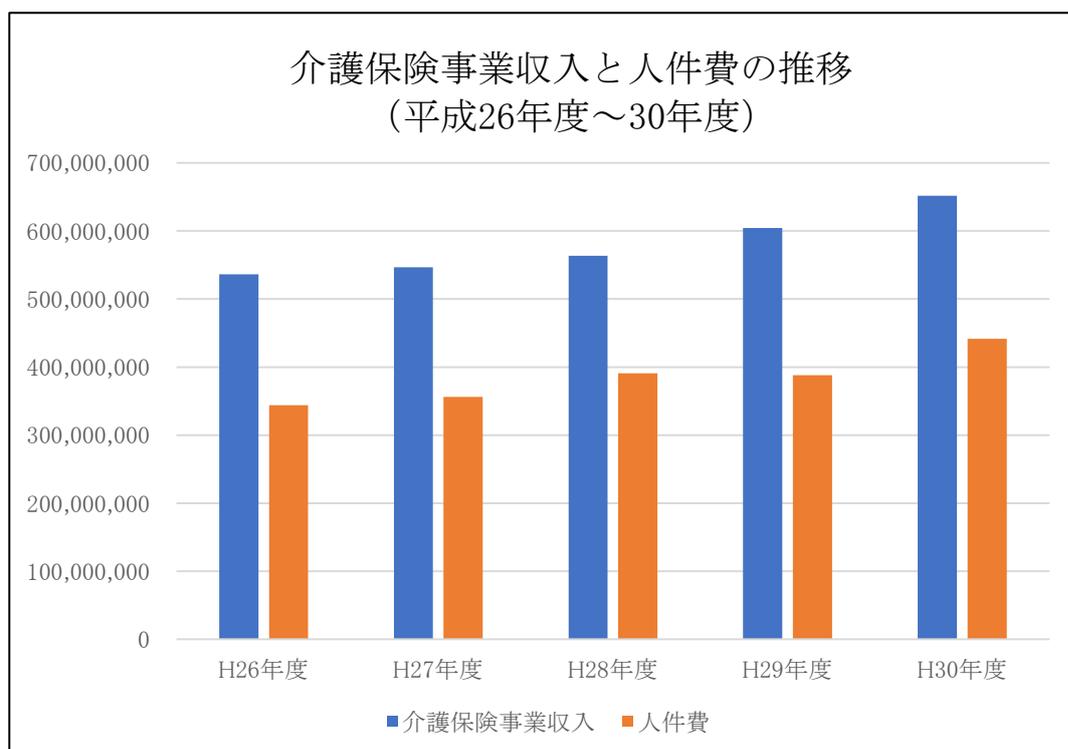
吉津公民館において**認知症オレンジカフェ (須津なぎさカフェ)**を毎月開催しています。他にも、須津地区を対象に「口腔ケア・認知症予防体操」、「認知症サポーター養成講座」を開催しました。なぎさ苑まつりでは、例年通り、利用者やその家族ばかりでなく、地域住民にも参加していただいで開催すると同時に、「認知症サポーター養成講座」も開催しました。

宮津市から委託された介護予防・日常生活支援総合事業は、法人本部の指導の下で、平成30年度は、なぎさ苑で、「なぎさクラブ」と命名して毎週土曜日に実施し、リハビリ、歯科衛生士、管理栄養士、看護師等のスタッフが事業の運営を担当しています。

5. 経営基盤の確立

平成30年度は、介護保険収入の大幅な増収を実現しました (下のグラフ、表参照)。

その要因は在宅復帰支援加算の算定（強化型：4月-5月、超強化型：6月-3月）、短期集中リハビリや認知症短期集リハビリの増加、訪問リハビリの増加、居宅部門のケアプラン作成数の増加に加えて、新規に開始した褥瘡、排泄、口腔衛生、経口維持等の加算が増加したことなど、職員が一体となった増収への努力が結実した結果です。一方、介護、看護、調理、リハビリなどの増員に伴い、人件費が大幅に増加していますが、人件費増に見合った増収があったことから、安定した経営基盤が確保され、事業費の拡充や設備更新にも取り組むことができました。



	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
介護保険事業収入	536,430,515	546,884,303	563,764,160	604,357,950	651,688,007
人件費	344,260,357	356,454,445	390,967,782	388,199,586	441,634,814
	64.2%	65.2%	69.3%	64.2%	67.8%

【部署別事業報告】

(1) 支援相談室

支援相談員の体制は、3名体制でスタートしましたが、6月より4名に増員、施設内外からの異動があり、顔ぶれも大幅に変わりましたが、円滑な相談業務、入退所調整に努めてきました。利用状況については年間の平均が稼働率 97.6%、在宅復帰率 69.1%、ベッド回転率 16.5%と高水準を維持することができました。

また吉津公民館において須津なぎさカフェ（認知症オレンジカフェ）を毎月第2水曜日に開催、2月には健康講座と題して須津地区の方を対象に「口腔ケア・認知症予防体操」を行い、地域住民の方々との繋がり、地域貢献活動を行いました。

その他、地域住民へ認知症の理解を深めて頂く様、吉津小学校において認知症サポ

ーター養成講座を開催し、認知症サポーター養成を行いました。

平成30年度に行なわれた介護報酬改定に伴い、老健の在宅復帰・在宅生活維持支援の役割が明確されました。在宅復帰・在宅生活支援の貢献度と評価により5つの段階（超強化型・強化型・加算型・基本型・その他型）に類型され、当施設では4-5月は強化型、6月以降は超強化型を算定し、大幅な収益の増加につながりました。

老健入所・稼働状況に関する指標

	入所稼働率 含短期入所	在宅復帰率	ベッド 回転率	重度化割合 要介護4+5	入所前後 訪問指導	退所前後 訪問指導
H29年度	97.6%	59.9%	14.9%	43.3%	--	--
H30年度	97.6%	69.1%	16.5%	41.5%	43.8%	59.7%

地区別 入所者数

	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合計
H29年度	122	110	7	24	263
H30年度	149	105	7	20	281

年齢別 入所者数

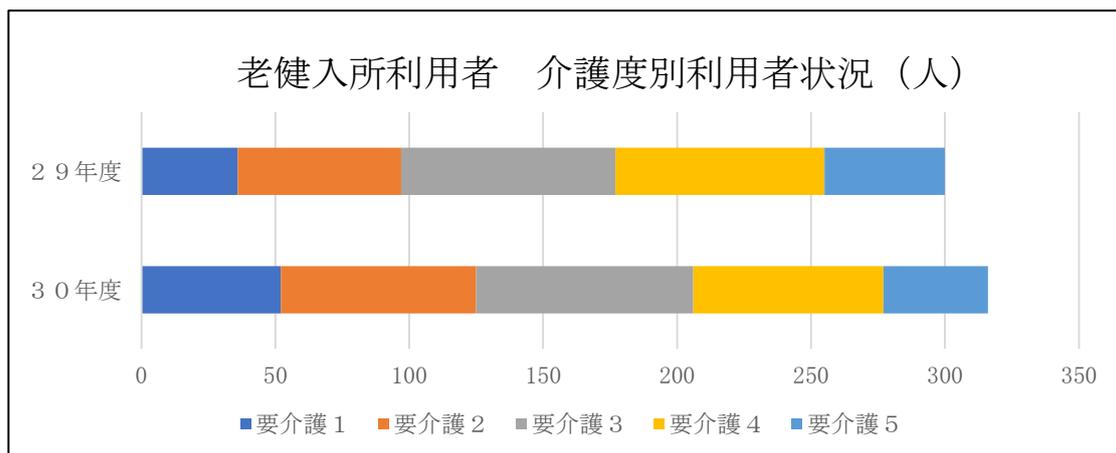
	65歳未満	65～69	70～79	80～89	90～99	100以上	合計
29年度	2	4	24	130	101	6	263
30年度	3	3	20	132	115	8	281

介護度別 入所者数並びに平均介護度

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均介護度
29年度	36	61	80	78	45	300	3.1
30年度	52	73	81	71	39	311	3.1

退所後転帰

退所後 年度区分	在宅	在宅系施設	介護老人 福祉施設	他の老健	入院	死亡	その他	合計
29年度人数	88	6	37	7	19	14	0	171
30年度人数	112	7	24	1	25	8	4	181



◎短期入所 療養介護状況

地区別 入所状況

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
29年度	152	59	1	4
30年度	181	56	0	2

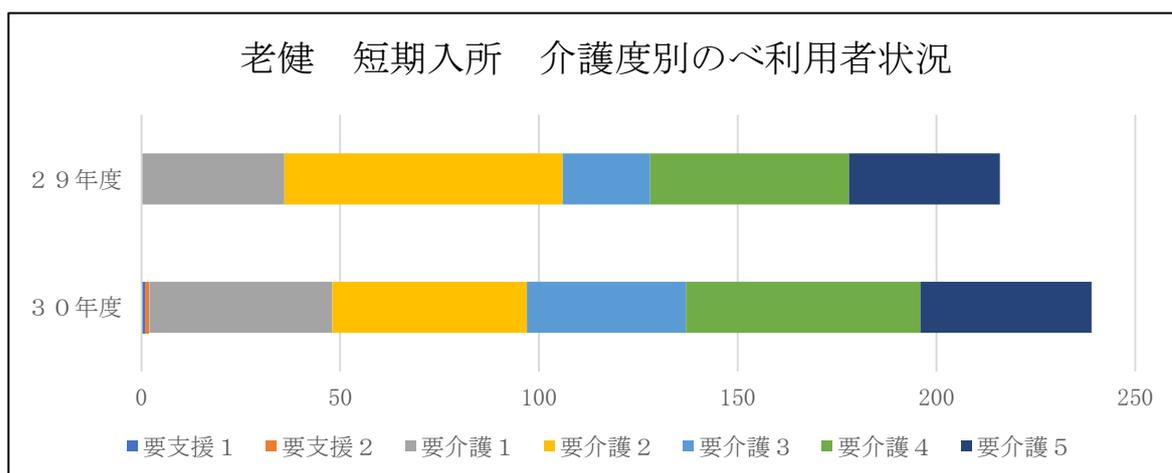
新規契約者

	新規入所者
29年度	8
30年度	26

介護度別 入所状況

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均介護度
29年度	0	0	36	70	22	50	38	216	2.9
30年度	1	1	46	49	40	59	43	237	3.0

(平均介護度の計算には要支援者は除く)



(2) 介護部門

(一般療養棟)

平成30年度、介護室は職員増員となり、夜勤3名体制が整ったことで職員の負担が軽減しました。それぞれが利用者の暮らしを支えるという目標のもと多職種連携をはかりながら、専門職としてケアプランに基づいた介護サービスの展開に努めました。

リスクマネジメント、接遇については、年間を通して数件の苦情を受け、その都度事例の検討とカンファレンスを行い、施設全体の問題として捉え、内部研修へと繋げる事が出来ました。

看取りケアについては昨年同様、最期の時までご利用者に寄り添える様な環境づくりに努めました。看取り後に開催される振り返りカンファレンスへの出席を通して、多職種との意見交換のなかで利用者を偲ぶ機会をもちました。

(認知症専門棟)

平成 30 年度は職員の意識の統一、個人、チームとしての目標をしっかりと持つ事を重点に置き、ご利用者一人一人が安心、安全に生活が送っていただけるよう努めました。職員間ではまず、制服の統一を図りました。制服をそろえる事でご利用者や家族からも介護職員と一目でわかる、尋ねやすくなったことがあげられます。次に、ユニットリーダーを中心に独自にケアプランの勉強会や業務の見直しを行いました。業務の流れがスムーズになり互いに助け合いながら業務を遂行する事が出来ました。

今期も月平均 2 名を目標に外部研修参加や、認知症カフェ等に力を入れ、職員のスキルアップ、モチベーションの維持に努めました。

転倒、転落事故、さらに骨折事故と重大な事もあり、記録の不備、説明不足から家族様への不安や不満に繋がる事もあり、今一度、記録の重要性、リスク説明、家族との信頼関係の構築の大切さを実感しました。

感染症についてはインフルエンザによる感染拡大もあり感染症対策の課題も挙げられます。

次年度はコールシステムや PHS 更新、大型モニター、監視カメラの設置といった大きな転換があり、今まで以上に、ご利用者が安心、安全に生活が送っていただけるよう努めていきたいと思えます。

(3) 看護部門

平成 30 年度の施設での死亡は 8 名で、看取り同意書をいただいていた方は 6 名でした。ご家族への丁寧な説明と同意を適宜実施し、文書による説明と同意書による確認、急変時の救急措置や救急搬送について事前の意思確認を文書で実施しています。利用者の病状や予後、衰弱、生命のリスクなどをご家族に説明し文書で同意をいただいたことから救急受診や急な入院を回避するよう努めています。

インフルエンザについては、職員への無料でのワクチン接種、家族がインフルエンザに罹患した場合は潜伏期の間、職員に自宅待機を命じました。平成 30 年度は 2 月～3 月に入所者及び職員のインフルエンザ発症があり、保健所の指導のもと対応を実施し、3 月 13 日を以って各規制指示も前面解除となり終息となりました。体調不良者の就業のあり方について課題を残す結果となりました。

施設内での事故についても、転倒により、骨折されるという事故も複数あり、今後の見守り方法・職員間の情報の共有についても課題を多く残す年となりました。

転倒事故に対しては従来のセンサーマットの設置のほか、衝撃吸収対策として PVC マットの設置を開始しました。今後は転倒アセスメントの導入に取り組み、ご家族と

の情報共有、プロテクター用具の導入など骨折対策に取り組んでいきます。

薬剤管理においては誤薬、誤認防止対策として処方箋のダブルチェックの強化、短期入所、新規入所者に対して情報をリスト化した配薬札の導入を行いました。

経口摂取維持のため定期的に食事観察会議を開催し、多職種連携のもと看護職からのコンサルタントにも重点を置きながら、経口摂取の維持、口腔衛生管理による誤嚥性肺炎の予防に取り組みました。

看護職員の OJT プログラムの整備を行い、中途採用者への教育支援体制としてチューター制度の導入、看護技術面においては手技の標準化を目的としたチェックリストの導入を行いました。

平成 30 年度より新設された褥瘡マネジメント加算、排せつ支援加算について手順書の整備、書式の整備、看護職を対象とした勉強会の開催を行い、褥瘡マネジメント加算については 160 件、排せつ支援加算については 295 件の算定を行いました。

申し送り業務の短縮についても、電子カルテにおける特記扱いの見直し、ペーパーと口頭での申し送り情報の使い分け方法を再検討し、申し送りが 10 分以内で完結できるよう業務の効率化に努めました。

虐待防止、身体拘束適正化については宮津市の研修に看護師を派遣し、全職種対象の伝達研修会を開催しました。

(4) 通所リハビリテーション

通所リハビリでは、平成 30 年度介護報酬改定において取得可能な加算を積極的に算定する為、介護予防に新設のリハマネ加算を導入するとともに、口腔機能向上加算希望者には選択的サービス複数実施加算Ⅰとして算定しました。

また、要介護者では、引き続きリハビリ職員を 1 名配置した事により、新設されたリハビリ提供体制加算Ⅳを導入し、リハマネ加算Ⅲ 2 名、認知症短期集中リハ加算 2 名と算定する事ができ、リハビリ会議の準備・進行、通りハ計画書の作成等、安定した加算取得が継続出来ました。また、歯科衛生士が継続して介入した事やインテークの段階から口腔ケアの重要性をパンフレットで訴えた事もあり、口腔機能向上加算希望者も継続して増えています。

ご利用者が安心して在宅生活を送れるように、送迎時や利用中の様子を居宅支援事業所や他サービス事業所等に報告し、各関係機関と情報の共有を図るよう努めました。延べ利用者数、並びに平均利用者数・利用率：() 内は要支援の方

	利用定員 /日	営業 日数	延利用者数	平均利用者数 /日	利用率
29年度	27人	256日	5,801人(776人)	22.6人(3.0人)	86.4%
30年度	27人	257日	6,045人(825人)	23.5人(3.2人)	87.1%

リハビリマネジメント加算（Ⅰ・Ⅲ）

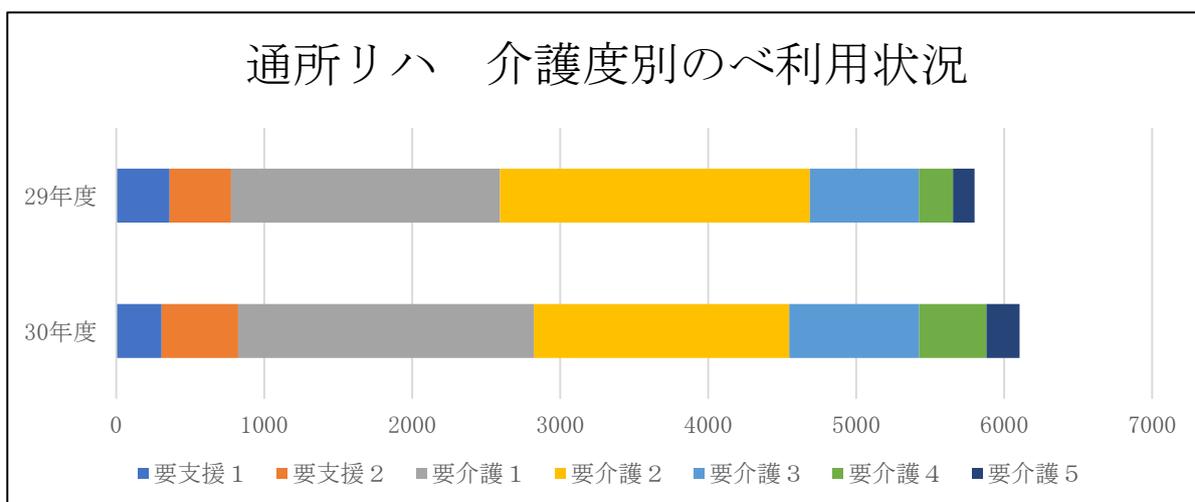
	延人数
29年度	912
30年度	1,067

運動機能向上加算（介護予防）

	延人数
29年度	176
30年度	174

介護度別利用状況と平均要介護度（要支援者は除く）

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均要介護度
29年度	361	415	1,818	2,094	737	230	146	5,025	2.0
30年度	308	517	1,997	1,726	879	454	224	5,280	2.1



(5) 機能訓練室（リハビリセラピスト<OT, PT, ST>）

平成30年度は、介護保険法の一部見直しにより、在宅復帰強化型の維持には入所利用者様全員に週3回以上の個別リハビリが義務付けられ、セラピスト一人当たりの担当者負担増が予測されましたが、リハビリ職員を2名増員したことにより積極的なリハビリの提供が出来ました。

また、短期集中個別リハビリや認知症短期集中リハビリテーション加算の算定を行ったことで、利用者様に提供できるリハビリ時間が長くなり、信頼関係の構築がスムーズに行え、在宅復帰を目指した動作練習など質の高いリハビリが提供できたと考えます。なぎさクラブについては、法人本部の事業報告を参照ください。

入所部門

	短期集中 (240単位)	認知症短期 集中 (240単位)	短期入所 個別(240単位)	経口維持Ⅰ (100単位)	経口維持Ⅱ (400単位)	個別リハ (0単位)
29年度	5,308	3,283	337	206	206	8,998
30年度	6,441	4,007	409	309	309	10,125

通所部門

	リハマネ加算 I (330 単位)	リハマネ加算 III (1, 120 単位)	短期集中 (110 単位)	認知症短期集中 (240 単位)	運動器機能 向上加算 (225 単位)	リハビリ提 供体制加算 (24 単位)
H29 年度	909	--	0	0	175	--
H30 年度	1, 006	12	133	60	177	3, 793

(6) 訪問リハビリ

平成 30 年度は、リハビリ職員増員に伴い訪問リハビリ担当者を 2 名とし、地域の訪問リハビリの依頼を積極的に受けるようにしました。その結果、北星会の 3 つの居宅介護支援事業所に限らず、他の事業所からの依頼も増え、新規利用者にお待ちいただかなくてはならない状況となりました。

今後も訪問リハビリ利用希望者の増加が見込まれ、リハビリスタッフを増員するなど、地域の要望に応えられるよう努めます。

年度	のべ実施人数	実施単位数合計 (290 単位)	リハマネ加算合計 (230 単位)	短期集中リハ加算合計 (200 単位)
H29 年度	167 人	2, 126	138 件	186 件
H30 年度	329 人	4, 445	329 件	147 件

居宅事業所別 取引件数

	なぎさ 苑	天橋 園	与謝 の園	夕風 の里	宮津市 包括	宮津市 社協	与謝野 社協	南斗 六星会	合計
H29 年度	15	5	5	0	3	0	1	1	30
H30 年度	18	8	6	4	6	2	2	2	48

(7) 給食部門

利用者の求める食事形態（やわらか食、ソフト食）、療養食（糖尿病食、塩分制限）、看取り期の利用者に寄り添った食事、栄養提供に取り組みました。定期的に栄養マネジメント委員会や食事観察会議に参加して摂取状況を把握、フロアのケアカンファにも出席して栄養面の提案をしてきました。また、個々のニーズ個別対応、栄養強化ゼリーや看取りなど、体調によつての食事の提供にも協力しました。

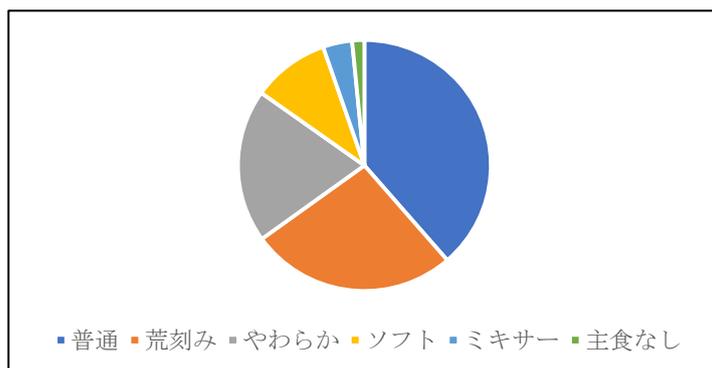
平成 30 年度は、職員異動があり入れ替りが多い一年でした。その中で天橋園のデイサービス、ハウゼへの昼食提供実施、ソフト食の充実と極刻み食からやわらか食への取組による食形態の充実、内部の作業面等、管理栄養士や調理員連携により少しずつ改善を進める事ができました。平成 30 年度より北星会栄養調理合同会議の中で法人全体の課題も出ており本部事業への協力体制を整備していきます。

平成30年度提供食数<一日平均 292.6食(内、療養食数 平均 78.1食/日)>

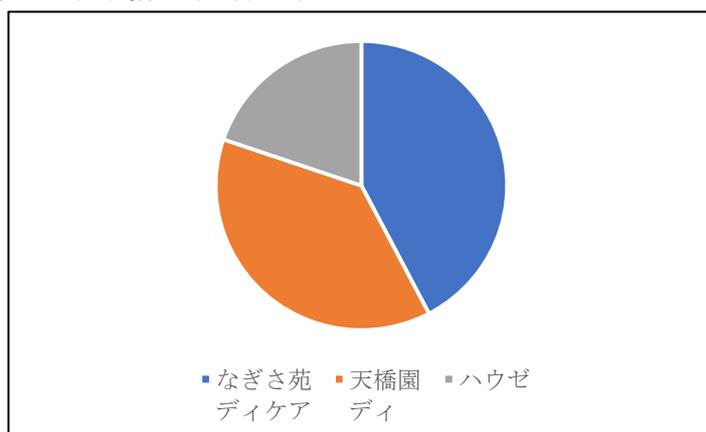
普通	荒刻み	やわらか	ソフト	ミキサー	主食なし	入所合計
117.8	80.7	60.3	30.1	11.4	4.8	292.6

通所事業別	なぎさ苑ディケア	天橋園ディ	ハウゼ
提供食数	23.9食	21.4食	11.2食

平成30年度提供食数



通所 提供食数 (事業別)



(8) 医務室 (診察室、薬局、医師、歯科衛生士、薬剤師、看護師)

医師の指導の下、看護師、歯科衛生士、薬剤師が中心となって、医薬品や検査キット、医療器材等の整備を通して、診察室と薬局の管理と整備に取り組みました。

医師と薬剤師は、同種同効薬の見直し、ジェネリック医薬品の採用を含め在庫医薬品の見直しを行い、医薬品費のコストダウンを行ってきました。また、入所者に多くみられる多剤処方(重複処方やポリファーマシー)を見直し、減薬に努めてきました。

入所時リスク説明書、病状説明書、看取り同意書<人生の最終段階における医療・介護にかかわる同意書>などを準備し、活用することで、家族への説明と同意(Informed Consent: IC)を多職種協働で行うように対応し、利用者のファイルのトップにいれることで、急変時や看取りケアの徹底に活用してきました。

インフルエンザへの対策として、入所者や通所利用者へのインフルエンザワクチン接種をほぼ100%に維持するとともに、職員への無料でワクチンを接種するばかりで

なく、家族がインフルエンザに罹患した場合にも潜伏期間、職員に自宅待機を命じるなど対策を強化してきました。しかしながら、平成30年度は入所者にインフルエンザ発症が広がり、認知症専門棟の隔離を行うことが2回あったため、対応ガイドラインの見直しを行いました。

歯科衛生士は、入所者全員を対象に口腔衛生のチェックを行い、口腔衛生管理体制加算、口腔衛生加算を取得するとともに、通所利用者にも対象を広げ、加算も取得しました。フロアの介護、看護スタッフへの指導を行い、口腔衛生管理に取り組み、加算を取得しています。

入所者の受診者のべ人数（診療科別）

診療科	29年度	30年度
救急外来	23	23
内科	42	53
循環器内科	6	7
呼吸器内科	1	0
消化器内科	1	1
外科	4	6
整形外科	21	29
皮膚科	5	15
脳神経外科	0	0
精神神経科	1	0
婦人科	2	0
泌尿器科	7	14
眼科・耳鼻咽喉科	8	15
合計	121	163

病院別延べ人数

病院名	29年度	30年度
北部医療センター	65	91
宮津武田病院	44	53
浪江医院	9	19
その他	3	2
受診者数合計	121	165

病院別 入院先延べ人数

病院名	29年度	30年度
北部医療センター	14	21
宮津武田病院	2	1
その他	0	1
入院者数合計	16	23

(9) 施設管理部門（事務室）

平成30年度は、理事会が決定した天橋園特養の休止の方針に対応し、支援相談室長が法人本部に異動となりました。平成29年度に本部に異動した事務局長は現在まで空席で、施設長が兼務して対応、支援相談室は一時期3名となりましたが、人事異動等により4名体制に復帰し、業務に必要な体制を維持、さらに強化してきました。

法人本部の活動が強化されたことに伴い、業務の本部への集中化の方針に対応し、出出勤タイムカードなどを廃止し、勤怠管理システムの導入や給与管理の本部での一括管理に対応し、業務の見直しを行いました。

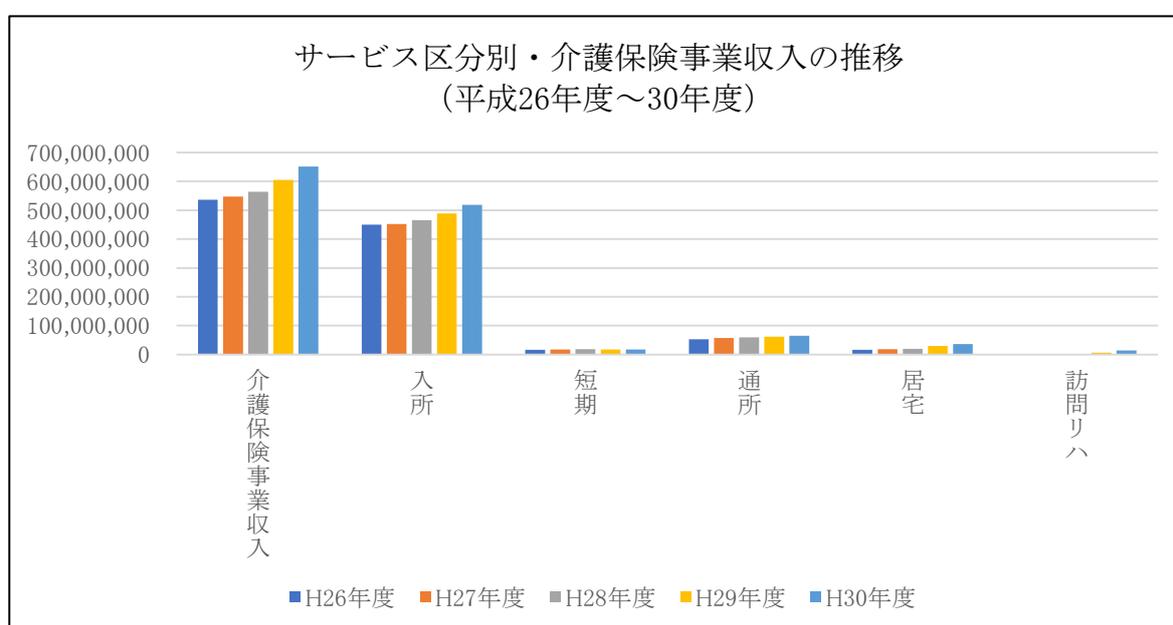
また、職員のリクルート活動にも積極的に取り組むとともに、天橋園休止に伴って介護職員、調理員を増員し、夜勤体制の増員、嚥下食の定着に取り組みました。通所ではドライバーを採用し、介護職員の負担軽減を図りました。一方、採用活動の継続、スキルアップ、ケアマネ資格取得などの課題が残されています。

低床ベッド、センサーマットなどの介護関連 器具の整備がすすみました。ハラス

メントへの相談窓口や苦情対応委員会も設置しました。

このような事業所の取り組みをすすめていくためには経営基盤の強化が必須であり、加算取得が可能となるような職員の採用と獲得、異動を行ってきました。また、介護報酬改定に対応し在宅復帰・在宅生活支援の体制強化と活動によって、大幅な増収を実現しました。

平成26年度以後、グラフにあるような介護保険事業収入は、短期入所を除くすべてのサービス区分で増加しましたが、増収額の大部分は入所（長期）に依存しており、入所以外の活動も老健の入所区分における増収に結び付けることなしには、経営基盤の強化になりません。従って、すべての職種が共同して老健の役割である在宅復帰と在宅生活支援に資源を集中させる必要があります。介護事業の推進には、人材の確保と育成が必須であり、人件費は増加傾向にあるが、それを上回る収入増加をえることで、経営基盤の強化を図ってきた。



(10) 居宅介護支援事業所

高齢者が地域の中で自分らしく日常生活を営むことができるように、相談援助やサービス調整を行いました。

平成29年度から5名体制へ、平成30年1月からは6名体制へ増員し、余裕を持ちながら利用者本位の適切なケアプラン作成に努めることができました。平成31年度4月からも6人体制を維持できる事になり、宮津市（栗田から里波見まで）、与謝野町岩滝地区以外にも担当地区を拡大し、随時新規受け入れを行い件数維持に努めています。

医療連携については、主治医や関係機関との連携を密にし、利用者がスムーズに在宅生活を送る事ができるように支援していきました。

平成30年度については、ターミナルケアマネジメント加算5件、退院退所加算52回を算定し、平成31年度5月より特定事業所加算IVを算定することができます。

また、介護支援専門員研究会や地域ケア会議での意見交換や研修に積極的に参加し、多職種と交流する機会を増やすとともに、法人内部での定例会議や事例検討を開催し、ケアマネとしての資質向上に努めました。

次年度も利用者やご家族に対して常に笑顔を大切に、傾聴の姿勢を持ち、住み慣れた地域で、笑顔で過ごして頂けるよう努めていきたいと思っております。

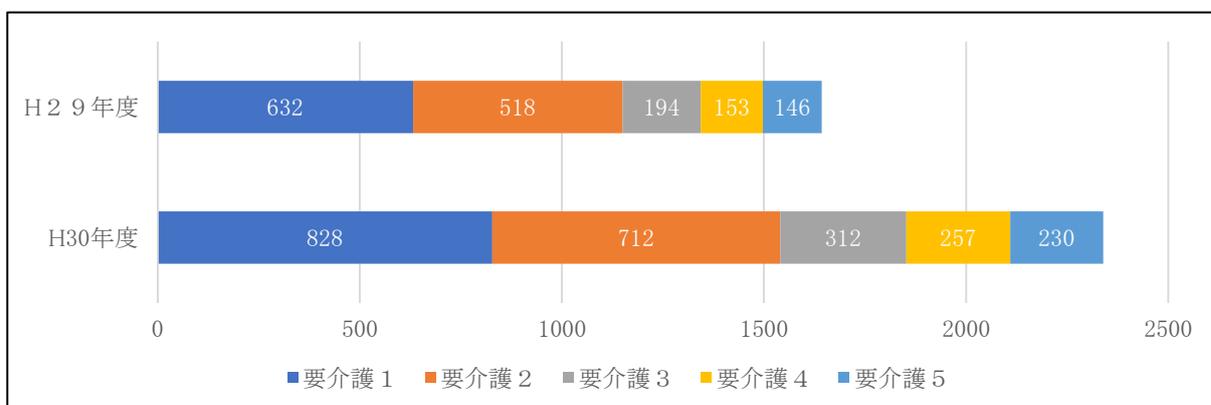
相談件数

内容 年度		介護保険その 他福祉サービ ス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待
29年度	実数	221	3	9
	延数	18,340	19	24
30年度	実数	242	3	9
	延数	21,821	28	33

ケアプラン作成管理件数

	延べ人数	実件数
29年度	1,946	221
30年度	2,255	242

居宅介護支援 介護度別プラン作成件数のべ人数



(地域事業・総合事業)

	参加者数
市民健康講座（吉津公民館）	16
吉津小学校認知症サポーター養成講座	9
認知症サポーター養成講座（なぎさ祭開催）	21
須津なぎさカフェ（吉津公民館）12回	235
なぎさ倶楽部39回（総合事業）	345
一般介護予防教室（養老地区、日置地区）8回	35
介護者教室	2
合 計	663

(ボランティア受け入れ状況)

ボランティア名	活動内容	年間回数	延べ人数
福寿草ほほえみ会	喫茶・清掃等	16	87
野菊会	喫茶・清掃等	19	60
玉穂会	民謡	12	99
しおさい	唱歌等	4	28
榎本様	体操	5	5
吉津小学校3年児童	交流(歌・踊り等)	2	19
歌唱ボランティア 奥田友之	歌唱等	1	2
京都真琴会	大正琴	1	3
フラレファ(フラダンス)	ダンス	1	5
ギター演奏ボラ(大久保祐二)	歌唱等	1	1
	合計		303

(実習生等受け入れ状況)

月	受入事業所等	実習内容	受入実人数
2月～10月	京都府立看護学校	看護学生施設実習	31
10月	京都府看護協会	eラーニングを活用した訪問看護研修	2
6月	舞鶴YMCA国際福祉専門学校	介護学生施設実習	2
12月	京都府福祉人材養成科	介護職員初任者研修施設実習	2
8月～9月	暁星高校	ボランティア学習	2
3月	京都府立海陽高校	インターンシップ(職場体験)	2
8月	日星高校	ボランティア学習	1
10月	吉津小学校4年生	KYO 発見 仕事・文化体験活動	3
9月	京都府立医科大学附属北部医療センター	平成30年度地域医療教育推進事業(医大GP)	2
	合 計		47

【研修等参加状況】

(施設外研修)

研 修 内 容	参加数	研 修 内 容	参加数
「平成30年介護報酬改定への対策」研修会と京都府老協総会	1	平成30年度介護保険サービス事業者等に係る集約指導	4
近畿ブロック介護老人保健施設大会	1	年末調整講習会	1
京都府老人保健施設大会	3	源泉徴収税の年末調整説明会	1
京都府認知症介護実践者等養成研修(リーダー研修)	2	甲種防火管理新規講習	1
京都府認知症介護実践者等養成研修(実践者研修)	4	宮津市企業人権推進協議会研修会	2
京都府認知症介護実践者等養成研修(基礎研修)	6	宮津市高齢者等虐待防止ネットワーク研修会	4
全老健管理者研修	1	若年性認知症支援研修会	1
京都府福祉避難サポートリーダー養成研修	1	高齢者入所施設と北部医療センター職員との連携会議	3
福祉職員のためのマナー研修(初級)	2	対人援助の基本姿勢・面接基礎セミナー	1
福祉職員のためのマナー研修(中級)	2	介護支援専門員実務経験者更新研修	1
キャリアアップ研修(初任者)	1	ケアの質を上げる研修会	1
キャリアアップ研修(中堅職員)	2	バリアフリー展	4
キャリアアップ研修(チームリーダー)	2	お気軽サミットin丹後	4
高齢者、障害者等入所施設感染症予防対策研修会	1	ハローワーク求人活動	1
感染症予防対策研修会(基礎編)	2	府老協看護、介護第4ブロック交流会	2
産業医、衛生管理者等研修会	1	虐待防止と施設事業所職員の心のケアを考える研修	1
丹後地域認知症カフェ連絡会	2	福祉懇談会	1
「福祉人材力人材養成科」実習指導者向け研修	2	安全運転管理者講習	1
施設長会議兼宮津市生活支援サービス研究会	2	地域包括ケア実践交流会	1
入所施設虐待防止研修	3	介護職員派遣事業に係る三者会合の開催	1
第三次産業における労働災害防止説明会	1	看護、介護職等研修・摂食嚥下について	1
全老健通ハ研修会	2	宮津市介護支援専門員研究会	5
認知症地域支援推進員・オレンジロードつなげ隊合同研修	1	京都府介護支援専門員研修	1
特定給食施設従事者等(災害対策)講習会	2	主任介護支援専門員更新研修	1
府老協リハビリテーション部会	2	府老協栄養部部会全体部会	1
看護・介護ブロック長会議	1	看取りサポート人材養成研修	1
宮津食支援研究会	2	京老協支援部部会	3
施設ケアマネジャー交流会	1	施設見学研修	4
第4ブロック看護、介護部会	2	平成30年度労働保険・社会保険算定基礎届事業所説明会	1
平成30年度企業内人権啓発推進員、京都府企業内人権問題啓発セミナー及び学卒求人説明会	1		
		参加延人数合計	137

(施設内研修)

(施設内委員会・会議等開催状況)

会 議 名	開催回数
業務運営会議	12
入所検討会議	51
2階・3階ステーション、デイケア	36
看護・介護主任会議	12
ユニット会議・ユニットリーダー会議	97
部署別会議	24
感染症予防委員会（臨時会議含む）	15
褥瘡予防委員会	12
身体拘束廃止、虐待防止委員会	12
リスクマネジメント委員会	12
職員研修委員会	12
サービス向上委員会	11
情報ネットワーク委員会	10
栄養マネジメント委員会	12
衛生委員会	10
認知症ケア委員会	12
合同排せつ委員会	12
なぎさ苑まつり実行委員会	6
北星会施設長会議	26
北星会相談員合同会議（9月、12月）	2
北星会栄養・調理部門合同連絡会議（12月）	1
北星会看護主任会議（5月、9月、1月）	3
北星会居宅支援合同会議（6月、11月）	2
北星会通所合同会議（7月、8月、11月）	3
北星会居宅サービス事業所合同会議（8月）	1
なぎさ苑、天橋園厨房合同会議（4月）	2
リクルートチーム会議	1
合 計	409

社会福祉法人 北星会 財産目録

平成 31 年 3 月 31 日 現在

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	取得年度	使用目的等	取得価格	減価償却 累計額	貸借対照表 価額
I 資産の部						
1. 流動資産						
現金預金						
現金	別紙 手許現金明細書のとおり	—		—	—	239,577
預金	別紙 預金明細書のとおり	—		—	—	1,510,978,150
	小 計					1,511,217,727
事業未収金	別紙 事業未収金明細書のとおり	—		—	—	291,819,627
未収金	別紙 未収金明細書のとおり	—		—	—	3,695,194
未収補助金	別紙 未収補助金明細書のとおり	—		—	—	869,042
貯蔵品	別紙 貯蔵品明細書のとおり	—		—	—	4,335,290
医薬品						0
診療・療養費等材料						0
給食用材料						0
立替金	別紙 立替金明細書のとおり	—		—	—	23,940
前払金	別紙 前払金明細書のとおり	—		—	—	121,964
前払費用	別紙 前払費用明細書のとおり	—		—	—	892,072
1年以内回収予定拠点区分間長期貸付金						
仮払金	別紙 仮払金明細書のとおり	—		—	—	365,983
流動資産合計						1,813,340,839
2. 固定資産						
(1) 基本財産						
土地	(天橋園拠点) 宮津市字宮村小字辻町1277番 1,450㎡70 宮津市字宮村小字辻町1277番8 148㎡44 (与謝の園拠点) 与謝野町字明石小字内大ふけ80番 6,683㎡21 与謝野町字幾地小字山方9番2 80㎡00 与謝野町字明石小字内大ふけ66番2 827㎡00 与謝野町字明石小字玉峠14番2 249㎡00	— — — — — —		— — — — — —	— — — — — —	48,281,948 102,172,229
	小 計					150,454,177
建物	(天橋園拠点) 宮津市字宮村小字辻町1277番地、1277番地8、1278番地3、1277番地先、宮津市字惣小字左惣鼻420番地1、421番地1、420番地1先 2,350㎡54 宮津市字惣小字左惣鼻420番地1、421番地1、420番地1先 292㎡96 (与謝の園拠点) 与謝野町字明石小字内大ふけ80番 2,675㎡57 (なぎさ苑拠点) 宮津市字須津小字一つ山2268番地の1 4,610㎡55 (天橋の郷拠点) 宮津市字獅子小字デンガク谷190番地4 6,537㎡81	1977年度 1985年度 2000年度 2005年度	第1種および第2種社会福祉事業事業である特養天橋園、特養与謝の園、特養天橋の郷、老健なぎさ苑および各施設の居宅サービス事業所に使用	477,517,490 626,753,870 1,027,241,867 1,404,219,000	355,920,356 474,053,276 435,130,584 457,283,909	121,597,134 152,700,594 592,111,283 946,935,091
	小 計					1,813,344,102
建物付属設備	別紙 固定資産管理台帳のとおり	—		275,278,348	251,220,118	24,058,230
基本財産合計						1,987,856,509
(2) その他の固定資産						
土地	(なぎさ苑拠点) 宮津市字獅子崎つつじが丘1058番地 246㎡02	—		—	—	9,921,000
	小 計					9,921,000
建物	(天橋園拠点) 宮津市字宮村小字辻町1277番地 (なぎさ苑拠点) 宮津市字獅子崎つつじが丘1058番地 127㎡48	2004年度	物置小屋 医師住宅	1,359,900 22,486,455	1,255,542 14,041,663	104,358 8,444,792
建物付属設備	別紙 固定資産管理台帳のとおり	—		102,091,675	94,698,639	7,393,036
構築物	"	—		38,498,341	23,167,344	15,330,997
機械及び装置	"	—		67,144,066	58,242,176	8,901,890
車両運搬具	"	—	利用者送迎用	97,052,713	82,651,378	14,401,335
器具及び備品	"	—	利用者処遇用	371,374,764	342,275,750	29,099,014
権利	"	—	出資金その他	3,312,511	2,168,174	1,144,337
ソフトウェア	"	—	介護サービス記録管理システム等	8,228,931	5,232,877	2,996,054
投資有価証券	別紙 預金明細書のとおり	—		—	—	60,012,034
事業区分間長期貸付金						0
退職給付引当資産	別紙 退職給付引当金明細書のとおり	—	職員退職金充当	—	—	1,284,501
修繕等積立資産	別紙 預金明細書のとおり	—	建物・設備修繕目的の積立	—	—	239,091,995
減価償却積立資産	"	—	器具備品等更新目的の積立	—	—	188,000,000
建設積立資産	"	—	与謝の園建替目的の積立	—	—	254,000,000
その他固定資産合計						840,125,343
固定資産合計						2,827,981,852
資産合計						4,641,322,691
II 負債の部						
1. 流動負債						
事業未払金	別紙 事業未払金明細書のとおり	—		—	—	58,859,754
その他の未払金						0
1年以内返済予定設備資金借入金	別紙 設備資金借入金明細書のとおり	—		—	—	76,780,000
1年以内返済予定拠点区分間借入金						0
未払費用	別紙 未払費用明細書のとおり	—		—	—	872,423
預り金	別紙 預り金明細書のとおり	—		—	—	19,997,043
職員預り金	別紙 職員預り金明細書のとおり	—		—	—	2,257,458
仮受金	別紙 仮受金明細書のとおり	—		—	—	15,820
賞与引当金	別紙 賞与引当金明細書のとおり	—		—	—	75,302,000
流動負債合計						234,084,498
2. 固定負債						
設備資金借入金	別紙 長期借入金一覧のとおり	—		—	—	410,680,000
事業区分間長期借入金						0
退職給付引当金	別紙 退職給付引当金明細書のとおり	—		—	—	1,284,501
固定負債合計						411,964,501
負債合計						646,048,999
差引純資産						3,995,273,692

資金収支計算書

(自)平成30年4月1日 (至)平成31年3月31日

社会福祉法人 北星会

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	介護保険事業収入	2,108,225,975	1,926,451,587	181,774,388	
	障害福祉サービス等事業収入	0	0	0	
	医療事業収入	3,408,000	4,101,682	▲ 693,682	
	配食サービス事業収入	1,382,368	2,402,338	▲ 1,019,970	
	借入金利息補助金収入	845,000	1,556,043	▲ 711,043	
	経常経費寄附金収入	30,000	1,010,000	▲ 980,000	
	受取利息配当金収入	132,472	258,883	▲ 126,411	
	その他の収入	36,568,631	34,040,825	2,527,806	
	流動資産評価益等による資金増加額	0	0	0	
事業活動収入計(1)	2,150,592,446	1,969,821,358	180,771,088		
支出	人件費支出	1,582,945,103	1,358,598,159	224,346,944	
	事業費支出	341,590,163	304,827,714	36,762,449	
	事務費支出	121,406,014	99,278,907	22,127,107	
	利用者負担軽減額	11,075,406	12,417,970	▲ 1,342,564	
	支払利息支出	8,086,000	7,870,481	215,519	
	その他の支出	100,000	1,012,637		
	流動資産評価損等による資金減少額	0	0	0	
	事業活動支出計(2)	2,065,202,686	1,784,005,868	281,196,818	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		85,389,760	185,815,490	▲ 100,425,730	
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等補助金収入	7,500,000	7,500,000	0	
	施設整備等寄附金収入	0	0	0	
	設備資金借入金収入	0	0	0	
	固定資産売却収入	7,162	544,382	▲ 537,220	
	施設整備等収入計(4)	7,507,162	8,044,382	▲ 537,220	
	支出				
	設備資金借入金元金償還支出	76,780,000	76,780,000	0	
	固定資産取得支出	75,265,720	13,979,521	61,286,199	
	固定資産除却・廃棄支出	0	0	0	
ファイナンス・リース債務の返済支出	0	0	0		
施設整備等支出計(5)	152,045,720	90,759,521	61,286,199		
施設整備資金収支差額(6)=(4)-(5)		▲ 144,538,558	▲ 82,715,139	▲ 61,823,419	
その他の活動による収支	収入				
	長期運営資金借入金元金償還寄付金収入	0	0	0	
	長期運営資金借入金収入	0	0	0	
	長期貸付金回収収入	0	0	0	
	投資有価証券売却収入	0	0	0	
	積立資産取崩収入	60,254,000	9,254,411	50,999,589	
	事業区分間長期借入金収入	4,000,000	0	4,000,000	
	拠点区分間長期借入金収入	0	0	0	
	サービス区分間長期借入金収入	24,000,000	12,000,000	12,000,000	
	事業区分間長期貸付金回収収入	0	0	0	
	拠点区分間長期貸付金回収収入	0	0	0	
	サービス区分間長期貸付金回収収入	4,000,000	3,500,000		
	事業区分間繰入金収入	4,027,101	4,027,101	0	
	拠点区分間繰入金収入	182,454,323	91,227,323	91,227,000	
	サービス区分間繰入金収入	83,671,148	57,469,096	26,202,052	
その他の活動による収入	0	0	0		
その他の活動収入計(7)	362,406,572	177,477,931	184,928,641		

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考	
その他の活動による収支	支	長期運営資金借入金元金償還支出	0	0	0	
		長期貸付金支出	0	0	0	
		投資有価証券取得支出	0	▲ 7,600	7,600	
		積立資産支出	0	3,003,306	▲ 3,003,306	
		事業区分間長期貸付金支出	4,000,000	0	4,000,000	
		拠点区分間長期貸付金支出	0	0	0	
		サービス区分間長期貸付金支出	24,000,000	12,000,000	12,000,000	
		事業区分間長期借入金返済支出	0	0	0	
		拠点区分間長期借入金返済支出	0	0	0	
		サービス区分間長期借入金返済支出	4,000,000	3,500,000		
		事業区分間繰入金支出	0	4,027,101	▲ 4,027,101	
		拠点区分間繰入金支出	91,227,000	91,227,323	▲ 323	
		サービス区分間繰入金支出	83,671,148	57,469,096	26,202,052	
		その他の活動による支出	0	0	0	
		その他の活動支出計(8)	206,898,148	171,219,226	35,678,922	
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	155,508,424	6,258,705	149,249,719	
予備費支出(10)	100,000	0	100,000			
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	96,259,626	109,359,056	▲ 13,099,430			
前期末支払資金残高(12)	1,709,005,697	1,621,979,285	87,026,412			
当期末支払資金残高(11)+(12)	1,805,265,323	1,731,338,341	73,926,982			

資 金 収 支 内 訳 表
(自)平成30年4月1日 (至)平成31年3月31日

社会福祉法人 北星会

(単位:円)

勘 定 科 目		社会福祉事業	公益事業	合 計	内部取引消 去	事業区分合計
事業活動による 収 入	介護保険事業収入	1,926,451,587	0	1,926,451,587	0	1,926,451,587
	障害福祉サービス等事業収入	0	0	0	0	0
	医療事業収入	0	4,101,682	4,101,682	0	4,101,682
	配食サービス事業収入	2,402,338	0	2,402,338	0	2,402,338
	借入金利息補助金収入	1,556,043	0	1,556,043	0	1,556,043
	経常経費寄附金収入	1,010,000	0	1,010,000	0	1,010,000
	受取利息配当金収入	257,367	1,516	258,883	0	258,883
	その他の収入	33,636,551	404,274	34,040,825	0	34,040,825
	流動資産評価益等による資金増加額	0	0	0	0	0
	事業活動収入計(1)	1,965,313,886	4,507,472	1,969,821,358	0	1,969,821,358
事業活動による 支 出	人件費支出	1,357,850,794	747,365	1,358,598,159	0	1,358,598,159
	事業費支出	302,591,594	2,236,120	304,827,714	0	304,827,714
	事務費支出	99,226,498	52,409	99,278,907	0	99,278,907
	利用者負担軽減額	12,417,970	0	12,417,970	0	12,417,970
	支払利息支出	7,870,481	0	7,870,481	0	7,870,481
	その他の支出	1,012,637	0	1,012,637	0	1,012,637
	流動資産評価損等による資金減少額	0	0	0	0	0
	事業活動支出計(2)	1,780,969,974	3,035,894	1,784,005,868	0	1,784,005,868
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	184,343,912	1,471,578	185,815,490	0	185,815,490	
施設整備等による 収 入	施設整備等補助金収入	7,500,000	0	7,500,000	0	7,500,000
	施設整備等寄附金収入	0	0	0	0	0
	設備資金借入金収入	0	0	0	0	0
	固定資産売却収入	544,382	0	544,382	0	544,382
	施設整備等収入計(4)	8,044,382	0	8,044,382	0	8,044,382
	施設整備等による 支 出	設備資金借入金元金償還支出	76,780,000	0	76,780,000	0
固定資産取得支出		13,979,521	0	13,979,521	0	13,979,521
固定資産除却・廃棄支出		0	0	0	0	0
ファイナンス・リース債務の返済支出		0	0	0	0	0
施設整備等支出計(5)		90,759,521	0	90,759,521	0	90,759,521
施設整備資金収支差額(6)=(4)-(5)	▲ 82,715,139	0	▲ 82,715,139	0	▲ 82,715,139	
その他の活動による 収 入	長期運営資金借入金元金償還寄付金収入	0	0	0	0	0
	長期運営資金借入金収入	0	0	0	0	0
	長期貸付金回収収入	0	0	0	0	0
	投資有価証券売却収入	0	0	0	0	0
	積立資産取崩収入	9,254,411	0	9,254,411	0	9,254,411
	事業区分間長期借入金収入	0	0	0	0	0
	拠点区分間長期借入金収入	0	0	0	0	0
	サービス区分間長期借入金収入	12,000,000	0	12,000,000	0	12,000,000
	事業区分間長期貸付金回収収入	0	0	0	0	0
	拠点区分間長期貸付金回収収入	0	0	0	0	0
	サービス区分間長期貸付金回収収入	3,500,000	0	3,500,000	0	3,500,000
	事業区分間繰入金収入	4,027,101	0	4,027,101	0	4,027,101
	拠点区分間繰入金収入	91,227,323	0	91,227,323	0	91,227,323
	サービス区分間繰入金収入	57,469,096	0	57,469,096	0	57,469,096
	その他の活動による収入	0	0	0	0	0
	その他の活動収入計(7)	177,477,931	0	177,477,931	0	177,477,931

(単位:円)

勘 定 科 目		社会福祉事業	公益事業	合 計	内部取引消 去	事業区分合計
その他の活動による収 支	長期運営資金借入金元金償還支出	0	0	0	0	0
	長期貸付金支出	0	0	0	0	0
	投資有価証券取得支出	▲ 7,600	0	▲ 7,600	0	▲ 7,600
	積立資産支出	3,003,306	0	3,003,306	0	3,003,306
	事業区分間長期貸付金支出	0	0	0	0	0
	拠点区分間長期貸付金支出	0	0	0	0	0
	サービス区分間長期貸付金支出	12,000,000	0	12,000,000	0	12,000,000
	事業区分間長期借入金返済支出	0	0	0	0	0
	拠点区分間長期借入金返済支出	0	0	0	0	0
	サービス区分間長期借入金返済支出	3,500,000	0	3,500,000	0	3,500,000
	事業区分間繰入金支出	0	4,027,101	4,027,101	0	4,027,101
	拠点区分間繰入金支出	91,227,323	0	91,227,323	0	91,227,323
	サービス区分間繰入金支出	57,469,096	0	57,469,096	0	57,469,096
	その他の活動による支出	0	0	0	0	0
	その他の活動支出計(8)	167,192,125	4,027,101	171,219,226	0	171,219,226
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	10,285,806	▲ 4,027,101	6,258,705	0	6,258,705
予 備 費 支 出 (10)	0	0	0	0	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	111,914,579	▲ 2,555,523	109,359,056	0	109,359,056	
前期末支払資金残高(12)	1,578,665,538	43,313,747	1,621,979,285	0	1,621,979,285	
当期末支払資金残高(11)+(12)	1,690,580,117	40,758,224	1,731,338,341	0	1,731,338,341	

事業活動計算書

(自)平成30年4月1日 (至)平成31年3月31日

社会福祉法人 北星会

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)	
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	1,926,451,587	1,964,716,890	▲ 38,265,303
		障害福祉サービス等事業収益	0	0	0
		医療事業収益	4,101,682	7,243,635	▲ 3,141,953
		配食サービス事業収益	2,402,338	1,005,240	1,397,098
		経常経費寄附金収益	1,010,000	992,937	17,063
		その他の収益	0	0	0
		サービス活動収益計(1)	1,933,965,607	1,973,958,702	▲ 39,993,095
	費用	人件費	1,363,356,155	1,387,847,677	▲ 24,491,522
		事業費	304,827,714	323,539,674	▲ 18,711,960
		事務費	99,278,907	99,028,823	250,084
		利用者負担軽減額	12,417,970	13,148,903	▲ 730,933
		減価償却費	114,886,960	117,132,607	▲ 2,245,647
		国庫補助金等特別積立金取崩額	▲ 41,200,091	▲ 41,525,534	325,443
		徴収不能額	0	0	0
		徴収不能引当金繰入	0	0	0
		その他の費用	0	0	0
		サービス活動費用計(2)	1,853,567,615	1,899,172,150	▲ 45,604,535
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		80,397,992	74,786,552	5,611,440
	サービス活動外増減の部	収益	借入金利息補助金収益	1,556,043	1,763,516
受取利息配当金収益			258,883	269,248	▲ 10,365
有価証券評価益			0	0	0
有価証券売却益			0	0	0
投資有価証券評価益			0	0	0
投資有価証券売却益			0	0	0
その他のサービス活動外収益			34,060,635	35,596,473	▲ 1,535,838
サービス活動外収益計(4)			35,875,561	37,629,237	▲ 1,753,676
費用		支払利息	7,870,481	8,972,462	▲ 1,101,981
		有価証券評価損	0	0	0
		有価証券売却損	0	0	0
		投資有価証券評価損	0	0	0
		投資有価証券売却損	0	0	0
		その他のサービス活動外費用	1,032,447	260,864	771,583
サービス活動外費用計(5)	8,902,928	9,233,326	▲ 330,398		
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		26,972,633	28,395,911	▲ 1,423,278	
経常増減差額(7)=(3)+(6)		107,370,625	103,182,463	4,188,162	

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
特別増減の部	収			
	施設整備等補助金収益	7,500,000	10,370,000	▲ 2,870,000
	施設整備等寄附金収益	0	0	0
	長期運営資金借入金元金償還寄付金収益	0	0	0
	固定資産受贈額	0	0	0
	固定資産売却益	544,382	10,595	533,787
	事業区分間繰入金収益	4,027,101	0	4,027,101
	拠点区分間繰入金収益	91,227,323	18,000,000	73,227,323
	サービス区分間繰入金収益	57,469,096	6,000,000	51,469,096
	事業区分間固定資産移管収益	0	0	0
	拠点区分間固定資産移管収益	404,218	0	404,218
	サービス区分間固定資産移管収益	625,265	0	625,265
	その他の特収益	0	0	0
	特別収益計(8)	161,797,385	34,380,595	127,416,790
	減			
	基本金組入額	0	0	0
	資産評価損	0	0	0
	固定資産売却損・処分損	30	7	23
	国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)	0	0	0
	国庫補助金等特別積立金積立額	0	2,570,000	▲ 2,570,000
災害損失	0	0	0	
事業区分間繰入金費用	4,027,101	0	4,027,101	
拠点区分間繰入金費用	91,227,323	18,000,000	73,227,323	
サービス区分間繰入金費用	57,469,096	6,000,000	51,469,096	
事業区分間固定資産移管費用	0	0	0	
拠点区分間固定資産移管費用	317,149	0	317,149	
サービス区分間固定資産移管費用	712,334	0	712,334	
その他の特別損失	41,398,938	0	41,398,938	
特別費用計(9)	195,151,971	26,570,007	168,581,964	
特別増減差額(10)=(8)-(9)	▲ 33,354,586	7,810,588	▲ 41,165,174	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	74,016,039	110,993,051	▲ 36,977,012	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	1,854,041,897	1,792,805,523	61,236,374
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,928,057,936	1,903,798,574	24,259,362
	基本金取崩額(14)	0	0	0
	その他の積立金取崩額(15)	130,153,496	0	130,153,496
	その他の積立金積立額(16)	3,003,306	49,756,677	▲ 46,753,371
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	2,055,208,126	1,854,041,897	201,166,229

事業活動内訳表

(自)平成30年4月1日 (至)平成31年3月31日

社会福祉法人 北星会

(単位:円)

勘定科目		社会福祉事業	公益事業	合計	内部取引消去	拠点区分合計	
サービス活動増減の部	収 益	介護保険事業収益	1,926,451,587	0	1,926,451,587	0	1,926,451,587
		障害福祉サービス等事業収益	0	0	0	0	0
		医療事業収益	0	4,101,682	4,101,682	0	4,101,682
		配食サービス事業収益	2,402,338	0	2,402,338	0	2,402,338
		経常経費寄附金収益	1,010,000	0	1,010,000	0	1,010,000
		その他の収益	0	0	0	0	0
		サービス活動収益計(1)	1,929,863,925	4,101,682	1,933,965,607	0	1,933,965,607
	費 用	人件費	1,362,608,790	747,365	1,363,356,155	0	1,363,356,155
		事業費	302,591,594	2,236,120	304,827,714	0	304,827,714
		事務費	99,226,498	52,409	99,278,907	0	99,278,907
		利用者負担軽減額	12,417,970	0	12,417,970	0	12,417,970
		減価償却費	114,828,511	58,449	114,886,960	0	114,886,960
		国庫補助金等特別積立金取崩額	▲ 41,200,091	0	▲ 41,200,091	0	▲ 41,200,091
		徴収不能額	0	0	0	0	0
		徴収不能引当金繰入	0	0	0	0	0
		その他の費用	0	0	0	0	0
		サービス活動費用計(2)	1,850,473,272	3,094,343	1,853,567,615	0	1,853,567,615
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		79,390,653	1,007,339	80,397,992	0	80,397,992
	サービス活動外増減の部	収 益	借入金利息補助金収益	1,556,043	0	1,556,043	0
受取利息配当金収益			257,367	1,516	258,883	0	258,883
有価証券評価益			0	0	0	0	0
有価証券売却益			0	0	0	0	0
投資有価証券評価益			0	0	0	0	0
投資有価証券売却益			0	0	0	0	0
その他のサービス活動外収益			33,656,361	404,274	34,060,635	0	34,060,635
サービス活動外収益計(4)			35,469,771	405,790	35,875,561	0	35,875,561
費 用		支払利息	7,870,481	0	7,870,481	0	7,870,481
		有価証券評価損	0	0	0	0	0
		有価証券売却損	0	0	0	0	0
		投資有価証券評価損	0	0	0	0	0
		投資有価証券売却損	0	0	0	0	0
その他のサービス活動外費用	1,032,447	0	1,032,447	0	1,032,447		
サービス活動外費用計(5)	8,902,928	0	8,902,928	0	8,902,928		
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		26,566,843	405,790	26,972,633	0	26,972,633	
経常増減差額(7)=(3)+(6)		105,957,496	1,413,129	107,370,625	0	107,370,625	

(単位:円)

勘定科目		社会福祉事業	公益事業	合計	内部取引消去	拠点区分合計	
特別増減の部	収	施設整備等補助金収益	7,500,000	0	7,500,000	0	7,500,000
	施設整備等寄附金収益	0	0	0	0	0	
	長期運営資金借入金元金償還寄付金収益	0	0	0	0	0	
	固定資産受贈額	0	0	0	0	0	
	固定資産売却益	544,382	0	544,382	0	544,382	
	事業区分間繰入金収益	4,027,101	0	4,027,101	0	4,027,101	
	拠点区分間繰入金収益	91,227,323	0	91,227,323	0	91,227,323	
	サービス区分間繰入金収益	57,469,096	0	57,469,096	0	57,469,096	
	事業区分間固定資産移管収益	0	0	0	0	0	
	拠点区分間固定資産移管収益	273,405	130,813	404,218	0	404,218	
	サービス区分間固定資産移管収益	625,265	0	625,265	0	625,265	
	その他の特収益	0	0	0	0	0	
	特別収益計(8)	161,666,572	130,813	161,797,385	0	161,797,385	
	減	基本金組入額	0	0	0	0	0
	資産評価損	0	0	0	0	0	
	固定資産売却損・処分損	30	0	30	0	30	
	国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)	0	0	0	0	0	
	国庫補助金等特別積立金積立額	0	0	0	0	0	
	災害損失	0	0	0	0	0	
	事業区分間繰入金費用	0	4,027,101	4,027,101	0	4,027,101	
	拠点区分間繰入金費用	91,227,323	0	91,227,323	0	91,227,323	
	サービス区分間繰入金費用	57,469,096	0	57,469,096	0	57,469,096	
	事業区分間固定資産移管費用	0	0	0	0	0	
	拠点区分間固定資産移管費用	186,336	130,813	317,149	0	317,149	
	サービス区分間固定資産移管費用	712,334	0	712,334	0	712,334	
	その他の特別損失	41,398,938	0	41,398,938	0	41,398,938	
特別費用計(9)	190,994,057	4,157,914	195,151,971	0	195,151,971		
特別増減差額(10)=(8)-(9)	▲ 29,327,485	▲ 4,027,101	▲ 33,354,586	0	▲ 33,354,586		
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	76,630,011	▲ 2,613,972	74,016,039	0	74,016,039		
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	1,804,572,982	49,468,915	1,854,041,897	0	1,854,041,897	
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,881,202,993	46,854,943	1,928,057,936	0	1,928,057,936	
	基本金取崩額(14)	0	0	0	0	0	
	その他の積立金取崩額(15)	130,153,496	0	130,153,496	0	130,153,496	
	その他の積立金積立額(16)	3,003,306	0	3,003,306	0	3,003,306	
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	2,008,353,183	46,854,943	2,055,208,126	0	2,055,208,126	

貸借対照表
平成 31年 3月 31日現在

社会福祉法人 北星会

資 産 の 部				負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	1,813,340,839	1,706,200,607	107,140,232	流動負債	234,084,498	231,545,326	2,539,172
現金預金	1,511,217,727	1,404,764,076	106,453,651	短期運営資金借入金	0	0	0
有価証券	0	0	0	事業未払金	58,859,754	69,000,922	▲ 10,141,168
事業未収金	291,819,627	293,444,679	▲ 1,625,052	その他の未払金	0	0	0
未収金	3,695,194	697,546	2,997,648	1年以内返済予定設備資金借入金	76,780,000	76,780,000	0
未収補助金	869,042	1,169,506	▲ 300,464	1年以内返済予定拠点区分間借入金	0	0	0
未収収益	0	0	0	未払費用	872,423	997,549	▲ 125,126
貯蔵品	4,335,290	4,485,089	▲ 149,799	預り金	19,997,043	596,894	19,400,149
医薬品	0	0	0	職員預り金	2,257,458	13,615,927	▲ 11,358,469
診療・療養費等材料	0	0	0	前受金	0	0	0
給食用材料	0	0	0	前受収益	0	0	0
立替金	23,940	246,243	▲ 222,303	仮受金	15,820	10,030	5,790
前払金	121,964	64,064	57,900	賞与引当金	75,302,000	70,544,004	4,757,996
前払費用	892,072	973,904	▲ 81,832	その他の流動負債	0	0	0
1年以内回収予定拠点区分間長期貸付金	0	0	0				
短期貸付金	0	0	0				
仮払金	365,983	355,500	10,483				
その他の流動資産	0	0	0				
徴収不能引当金	0	0	0				
固定資産	2,827,981,852	3,015,546,964	▲ 187,565,112	固定負債	411,964,501	527,744,501	▲ 115,780,000
基本財産	1,987,856,509	2,073,521,492	▲ 85,664,983	設備資金借入金	410,680,000	487,460,000	▲ 76,780,000
建物	1,813,344,102	1,895,002,651	▲ 81,658,549	長期運営借入金	0	0	0
建物付属設備	24,058,230	28,064,664	▲ 4,006,434	リース債務	0	0	0
土地	150,454,177	150,454,177	0	事業区分間長期借入金	0	6,000,000	
定期預金	0	0	0	拠点区分間長期借入金	0	33,000,000	
投資有価証券	0	0	0	サービス区分間長期借入金	0	0	
その他の固定資産	840,125,343	942,025,472	▲ 101,900,129	退職給付引当金	1,284,501	1,284,501	0
土地	9,921,000	9,921,000	0	長期未払金	0	0	0
建物	8,549,150	9,489,266	▲ 940,116	長期預り金	0	0	0
建物付属設備	7,393,036	14,279,269	▲ 6,886,233	その他の固定負債	0	0	0
構築物	15,330,997	16,679,106	▲ 1,348,109				
機械及び装置	8,901,890	11,035,827	▲ 2,133,937				
車両運搬具	14,401,335	11,742,484	2,658,851				
器具及び備品	29,099,014	34,781,371	▲ 5,682,357				
建設仮勘定	0	0	0				
有形リース資産	0	0	0				
権利	1,144,337	1,183,429	▲ 39,092				
ソフトウェア	2,996,054	3,867,547	▲ 871,493				
無形リース資産	0	0	0				
投資有価証券	60,012,034	60,019,634	▲ 7,600				
長期貸付金	0	0	0				
事業区分間長期貸付金	0	6,000,000					
拠点区分間長期貸付金	0	74,398,938					
サービス区分間長期貸付金	0	0	0				
退職給付引当資産	1,284,501	1,284,501	0				
修繕等積立資産	239,091,995	245,343,100	▲ 6,251,105				
減価償却積立資産	188,000,000	188,000,000	0				
(うち有価証券)	10,000,000	10,000,000	0				
建設積立資産	254,000,000	254,000,000	0				
資産の部合計	4,641,322,691	4,721,747,571	▲ 80,424,880	負債の部合計	646,048,999	759,289,827	▲ 113,240,828
				純 資 産 の 部			
				基本金	682,540,606	682,540,606	0
				国庫補助金等特別積立金	576,432,965	617,633,056	▲ 41,200,091
				その他の積立金	681,091,995	808,242,185	▲ 127,150,190
				修繕等積立金	239,091,995	316,242,185	▲ 77,150,190
				減価償却積立金	188,000,000	238,000,000	▲ 50,000,000
				建設積立金	254,000,000	254,000,000	0
				次期繰越活動増減差額	2,055,208,126	1,854,041,897	201,166,229
				(うち当期活動増減差額)	74,016,039	110,993,051	▲ 36,977,012
				純資産の部合計	3,995,273,692	3,962,457,744	32,815,948
				負債及び純資産の部合計	4,641,322,691	4,721,747,571	▲ 80,424,880

減価償却累計額 2,597,341,786 円

社会福祉法人 北星会

貸借対照表内訳表

平成 31年 3 月 31 日現在

第3号の2様式

資 産 の 部						負 債 の 部					
	社会福祉事業	公益事業	合 計	内部取引消去	法人合計		社会福祉事業	公益事業	合 計	内部取引消去	法人合計
流動資産	1,772,414,037	40,926,802	1,813,340,839	0	1,813,340,839	流動負債	233,915,920	168,578	234,084,498	0	234,084,498
現金預金	1,471,201,043	40,016,684	1,511,217,727	0	1,511,217,727	短期運営資金借入金	0	0	0	0	0
有価証券	0	0	0	0	0	事業未払金	58,691,176	168,578	58,859,754	0	58,859,754
事業未収金	291,176,360	643,267	291,819,627	0	291,819,627	その他の未払金	0	0	0	0	0
未収金	3,695,194	0	3,695,194	0	3,695,194	1年以内返済予定設備資金借入金	76,780,000	0	76,780,000	0	76,780,000
未収補助金	869,042	0	869,042	0	869,042	1年以内返済予定拠点区分間借入金	0	0	0	0	0
未収収益	0	0	0	0	0	未払費用	872,423	0	872,423	0	872,423
貯蔵品	4,075,149	260,141	4,335,290	0	4,335,290	預り金	19,997,043	0	19,997,043	0	19,997,043
医薬品	0	0	0	0	0	職員預り金	2,257,458	0	2,257,458	0	2,257,458
診療・療養費等材料	0	0	0	0	0	前受金	0	0	0	0	0
給食用材料	0	0	0	0	0	前受収益	0	0	0	0	0
立替金	17,230	6,710	23,940	0	23,940	仮受金	15,820	0	15,820	0	15,820
前払金	121,964	0	121,964	0	121,964	賞与引当金	75,302,000	0	75,302,000	0	75,302,000
前払費用	892,072	0	892,072	0	892,072	その他の流動負債	0	0	0	0	0
1年以内回収予定拠点区分間長期貸付金	0	0	0	0	0						
短期貸付金	0	0	0	0	0						
仮払金	365,983	0	365,983	0	365,983						
その他の流動資産	0	0	0	0	0						
徴収不能引当金	0	0	0	0	0						
固定資産	2,824,885,133	9,096,719	2,833,981,852	6,000,000	2,827,981,852	固定負債	417,964,501	0	417,964,501	6,000,000	411,964,501
基本財産	1,987,856,509	0	1,987,856,509	0	1,987,856,509	設備資金借入金	410,680,000	0	410,680,000	0	410,680,000
建物	1,813,344,102	0	1,813,344,102	0	1,813,344,102	長期運営借入金	0	0	0	0	0
建物付属設備	24,058,230	0	24,058,230	0	24,058,230	リース債務	0	0	0	0	0
土地	150,454,177	0	150,454,177	0	150,454,177	事業区分間長期借入金	6,000,000	0	6,000,000	6,000,000	0
定期預金	0	0	0	0	0	拠点区分間長期借入金	0	0	0	0	0
投資有価証券	0	0	0	0	0	サービス区分間長期借入金	0	0	0	0	0
その他の固定資産	837,028,624	9,096,719	846,125,343	6,000,000	840,125,343	退職給付引当金	1,284,501	0	1,284,501	0	1,284,501
土地	9,921,000	0	9,921,000	0	9,921,000	長期未払金	0	0	0	0	0
建物	8,549,150	0	8,549,150	0	8,549,150	長期預り金	0	0	0	0	0
建物付属設備	7,393,036	0	7,393,036	0	7,393,036	その他の固定負債	0	0	0	0	0
構築物	15,330,997	0	15,330,997	0	15,330,997						
機械及び装置	8,901,890	0	8,901,890	0	8,901,890						
車両運搬具	14,401,335	0	14,401,335	0	14,401,335						
器具及び備品	29,002,295	96,719	29,099,014	0	29,099,014						
建設仮勘定	0	0	0	0	0						
有形リース資産	0	0	0	0	0						
権利	1,144,337	0	1,144,337	0	1,144,337						
ソフトウェア	2,996,054	0	2,996,054	0	2,996,054						
無形リース資産	0	0	0	0	0						
投資有価証券	60,012,034	0	60,012,034	0	60,012,034						
長期貸付金	0	0	0	0	0						
事業区分間長期貸付金	0	6,000,000	6,000,000	6,000,000	0						
拠点区分間長期貸付金	0	0	0	0	0						
サービス区分間長期貸付金	0	0	0	0	0						
退職給付引当資産	1,284,501	0	1,284,501	0	1,284,501						
修繕等積立資産	236,091,995	3,000,000	239,091,995	0	239,091,995						
減価償却積立資産	188,000,000	0	188,000,000	0	188,000,000						
(うち有価証券)	10,000,000	0	10,000,000	0	10,000,000						
建設積立資産	254,000,000	0	254,000,000	0	254,000,000						
資産の部合計	4,597,299,170	50,023,521	4,647,322,691	6,000,000	4,641,322,691	負債の部合計	651,880,421	168,578	652,048,999	6,000,000	646,048,999
						純 資 産 の 部					
						基本金	682,540,606	0	682,540,606	0	682,540,606
						国庫補助金等特別積立金	576,432,965	0	576,432,965	0	576,432,965
						その他の積立金	678,091,995	3,000,000	681,091,995	0	681,091,995
						修繕等積立金	236,091,995	3,000,000	239,091,995	0	239,091,995
						減価償却積立金	188,000,000	0	188,000,000	0	188,000,000
						建設積立金	254,000,000	0	254,000,000	0	254,000,000
						次期繰越活動増減差額	2,008,353,183	46,854,943	2,055,208,126	0	2,055,208,126
						(うち当期活動増減差額)	76,630,011	▲ 2,613,972	74,016,039	0	74,016,039
						純資産の部合計	3,945,418,749	49,854,943	3,995,273,692	0	3,995,273,692
						負債及び純資産の部合計	4,597,299,170	50,023,521	4,647,322,691	6,000,000	4,641,322,691

減価償却累計額

2,597,341,786 円

平成31年度

事業計画書

社会福祉法人 北星会

【基本理念・方針】

1. 保健・福祉・医療連携のもと、地域社会の発展に寄与する。
2. 利用者の人格を尊重した、良質の介護・看護サービスを提供する。
3. 経営基盤の強化と透明性を図り、職員が安心して働ける場を確保する。
4. 職員は、「人の和」と「自己研鑽」を図り、指示されたことを遂行するだけでなく、常に改善や創意工夫に努め職務に専念する。

【長期計画】

1. 法人の活動が施設やそれぞれの事業内で完結するのではなく、家族や医療機関、地域住民、行政機関との良好な関係を維持、継続することで、地域における様々な福祉課題、生活課題に主体的に関わり、既存の制度では対応できない公益的な事項にも取り組みます。
また、福祉の啓発のための情報発信、福祉教育にも取り組みます。
2. 利用者の自己決定と選択を尊重し、個人の尊厳に配慮した良質かつ安心・安全なサービスを提供するとともに、サービスの質の向上に向けた体制を構築し、生活環境や利用環境整備にも取り組みます。
3. 非営利法人として、地域や行政から信頼と協力を得られるよう、積極的な情報の発信に取り組み、公益性の高い事業活動を推進することで、安定した経営基盤を構築します。
また、法人の理念や諸規程の整備等で、法令等順守の徹底を行い、職員が安心して働ける職場づくりにつとめます。
4. 法人の目指す基本理念を実現するため、職員の処遇向上につとめ、働き甲斐があり、多様な職種、年代の職員が働きやすい職場づくりに取り組むことで、職員が自主的に「人の和」と「自己研鑽」につとめ、改善や創意工夫を行えるよう、支援します。
また、良質な人材の確保に向け、様々な採用手段を講じるとともに、職務能力の開発、人としての成長を目指した人材育成にも取り組みます。

【中期計画】

	中期計画	重点項目	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
1	法人の全施設事業所が連携、連動した働きを行ないます。	職種や部署毎の会議を定期的開催する。	→				
	高齢者福祉以外の事業にも積極的に取り組みます。	栗田小学校区学童保育の受託運営。	→	→	→	→	→
	在宅での生活を支えるサービスを提供できるよう努めます。	現存のサービスへの職員増員と共に必要な社会資源の検討を行う。	→				
		官津市北部地域での配食サービスの受託	→	→	→	→	→
		認知症カフェの受託運営	→	→	→	→	→
	法人全体でボランティアを積極的に受け入れます。	本部にVr.担当職員の設置を検討。	→				
	他法人、事業所、保険者等関係機関との連携強化に努めます。	各種委員会や協議会、講師等職員を積極的に派遣する。	→	→	→	→	→
施設と地域が相方向で交流できる仕組み作り(災害時含)に努めます。	事業所毎に様々な形で地域との交流機会を求める。	→	→	→			
2	職員からの意見を聞き取れるシステム構築に努めます。	施設長と職員の面談に加え、本部事務局長と施設職員との面談を実施。	→	→	→	→	→
	苦情解決第三者委員会を開催します。	実施要項の改定と開催方法の検討を行う。	→	→	→	→	→
	老朽化した施設の改修等に取り組み、利用しやすい環境を整備します。	天橋園群 改修。	→	→			
		与謝の園 移転。	→	→	→	→	
		なぎさ苑 N s コール等改修。	→				
		天橋の郷 空調設備等改修。	→	→	→		
	利用者からの意見を聞き取る仕組みを整備します。	事業所ごとに行います。	→	→	→	→	→
サービス自己点検を行い、常にサービスの改善に努めます。	事業所ごとに毎年実施します。	→	→	→	→	→	
3	中長期計画を策定し、継続的な法人運営に努めます。	本部が中心となり、定期的に見直しを行う。	→	→	→	→	→
	経営状況、事業計画、事業報告等の公表をおこないます。	ホームページを用いて公表し、運営の透明性を確保する。	→				
	必要に応じ、法人規程の見直しを行ないます。	本部が中心となり、定期的に見直しを行う。	→				
	広報誌を定期的に発行し、法人の活動を広く周知します。	本部が中心となり、デザインの改善等読みやすい広報誌発行を目指す。	→				
	安定した経営基盤を構築します。	本部会計を天橋園から分け、独立した区分とします。	→				
4	“三つの誓い”を職員に浸透するよう努めます。	理事長から職員への説明の機会を設ける。	→	→	→	→	→
	法人職員全員が法人の事業計画を理解して業務を行ないます。						
	あらたな法人理念の制定に努めます。	新たな時代の北星会にふさわしい理念を策定する。	→	→			
	全職員が職責に応じた研修を受講できるシステムを構築します。	各事業所での研修に加え、法人全体研修を開催する。	→	→	→	→	→
	全職員が新人育成を意識する職場作りに努めます。						
	キャリアパスを再構築します。	給与、人事考課と連動するシステムを構築する。	→	→			
	人事考課制度の効率的な運用に努めます。	評価者研修の開催。給与システムとの連動。	→	→			
求人及び職員異動の管理を法人本部が中心となって行います。	法人リクルートチームの活動を支援する。	→	→	→	→	→	

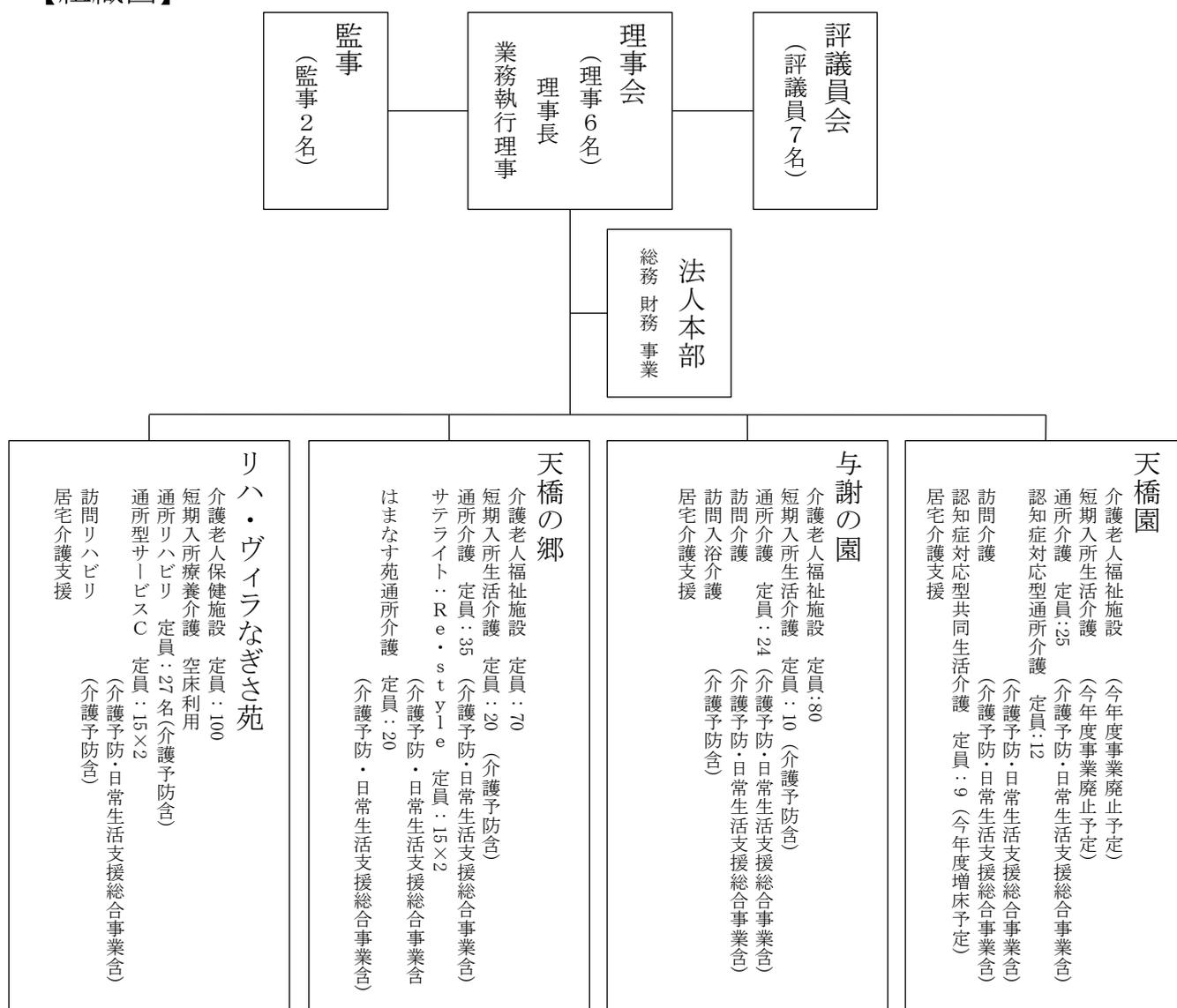
【平成31年度 事業計画】

平成31年度も地域包括ケアシステム、特に「医療」と「介護」の連携や介護リハビリ移行実現のために各事業所間の横のつながりを重視し、法人一体となったサービスを提供します。また、地域で複雑、多様化する福祉ニーズに対応し、法人の信頼性向上と地域の方から選ばれ、職員が誇りを持って働ける事業の展開を目指します。

○今年度の重点項目

- ・栗田小学校区放課後児童クラブの運営受託
- ・宮津北部地域での配食サービス受託
- ・天橋園の改修実施と与謝の園移転計画の検討開始
- ・天橋の郷空調設備改修の検討
- ・法人本部会計の独立拠点化
- ・職員研修システムの構築
- ・人事考課制度の有効運用とキャリアパスの再検討
- ・適切な職員配置と天橋園事業健全化に向けた本部組織の再構築

【組織図】



法人本部 事業計画書

【重点目標】

- 栗田小学校区放課後児童クラブの運営
- 配食サービス運営
- 天橋園の改修、与謝の園移転計画の検討等の支援
- 職員研修計画の推進とキャリアパスの再構築
- リクルートチームの活動支援と求人活動の強化
- 本部が中心となり、法人全体の職員配置を検討
- 新たな法人理念の検討
- 本部事務局と天橋園の事務室統合による計画及び施設改修中の体制強化

【平成 31 年度事業計画】

法人本部各課が各々の働きをたかめる事で各事業所の運営を昨年度以上に支援し、法人の能力を引き出す事により重点目標の達成に努める。

○ 総務課

平成 30 年度は、施設単位で行っていた人事・労務・給与業務を法人本部で一元化すると共に、人材確保に向けた各種就職説明会の出展・広報活動を進めてきました。

平成 31 年度はそれらを更に充実させ、法人本部の重点目標が達成できるよう努めます。

1. 人事・採用・労務・給与関係

- ① 勤怠管理システムの有効な運用により、法人本部で全体の労務管理を行える体制作りを進めていきます。
- ② 時間外労働の上限規制、一定日数の年次有給休暇の確実な取得等、働き方改革の取り組み事項に的確に対応していきます。
- ③ 就職情報サイトへの掲載や就職フェアへの参加、実習及びインターンシップの受け入れにより、職員採用に繋がるようにします。

2. 広報活動の充実

- ① 広報誌「きらめき」の発行を通して、地域の方や求職者に法人の魅力が伝わるように工夫し、法人の取り組みについて広く知ってもらえるようにします。
- ② 法人が求める人材を獲得するために、採用のための広報活動（ホームページの管理・運営、SNS を活用した求人情報の PR 等）を行っていきます。

3. 規則規定関係の整備

- ① 働き方改革、女性活躍推進、無期雇用転換等、国が推し進める政策に対応できるよう、就業規則等現状の規則・規程を精査し、必要な整備を行っていきます。

4. 消耗品等一括購入等効率的な費用管理

- ① 各施設での物品購入にかかるコストを下げるために、購入先を集約する等、仕入れ価格を検討します。
- ② 各種契約関係の内容を精査し、再見積り合わせ等により価格を見直します。

5. 天橋園改築・与謝の園移転建替に係る各種手続き

- ① 天橋園改築・与謝の園移転建替に必要な補助金申請・各種届出等、計画がスムーズに進められるよう必要な事務手続きを行います。

○ 財務課

昨年度、法人本部機能を強化する目的で総務課・事業課・財務課の3つの部門が新設される中、財務課では会計業務等について施設間の一律化を図ってきました。

平成31年度は、それを更に具体化し、安定した経営が可能となるよう下記の項目に取り組みます。

1. 会計処理業務等の見直し

法人本部の事業が多様化する中、本部を一拠点としてその活動の収支を明確にするとともに、各施設での会計処理業務についても法人本部が中心となって適正化を図ることを目的に、以下の事項に取り組みます。

- ①法人本部拠点区分の独立
- ②現状に即した経理規程の見直し
- ③各施設共通した会計処理方法の確立（手順書・マニュアル等の作成）

2. 適正な予算管理と経営分析

年々状況が変化する介護保険事業において、急な減収等不測の事態にも対応できるよう、日常的な予算管理を適切に行う必要があります。

人件費・事業費・事務費等の経常支出をリアルタイムで把握し、全施設で共有するために以下の事項に取り組みます。

- ①月別・拠点別・サービス別の収支の把握と報告（施設長会議等）
- ②経営分析と経営計画の検討

3. 計画的な資産管理

将来、各施設が直面する設備の更新や大規模修繕、また施設の建替などの資金調達は、安定した経営を左右する可能性があります。その中でも各施設が保有する普通預金等の流動資産の有効活用が大切であると考えます。

有効な資金運用の実現のため以下の事項に取り組みます。

- ①施設規模に応じた適切な流動資産額の検討
- ②資金運用規程等の運用基準の検討
- ③積立資産の有効活用
- ④社会福祉充実計画の進捗状況把握と今後の実施状況の確認

4. 天橋園改修事業および与謝の園建替移転事業

北星会の2大事業である天橋園改修事業と与謝の園移転建替事業について、計画に基づいた事業遂行ができるよう資金管理を行います。

- ①天橋園改修事業に関する資金管理
- ②与謝の園移転建替事業に関する資金管理

○ 事業課

平成31年度事業課では、以下の事業を行っていきます。

1. 天橋園群建替え事業
2. 与謝の園建替え事業
3. 北星会法人研修事業
4. Recruit（採用）活動事業
5. 栗田小学校放課後児童クラブ事業
6. 配食サービス事業
7. 介護予防・日常生活支援総合事業
8. 北星会サービス会議事業
9. その他の事業

I. 事業内容

1. 天橋園群建替え事業

平成30年度6月から特別養護老人ホーム天橋園を休止とし、行政、各関係機関と協議を重ねておりますが、平成31年7月に廃止認可となる見込みです。

天橋園群跡地の事業展開としまして、宮津市の第8次高齢者保健福祉計画において計画されている認知症対応型共同生活介護事業所増床を行います。現在の認知症対応型共同生活介護天橋の家（9床）を1ユニット増床し（18床）を計画していきたいと考えております。合わせて、天橋園通所介護、ハウゼ天橋認知症対応型通所介護、天橋園訪問介護、天橋園居宅介護支援事業所の編成についても検討していきます。

天橋園通所介護、ハウゼ天橋認知症対応型通所介護に関しては、共有できる人員、設備、備品などの検討を行い、効率化を図ります。

現存のサービスに加えて、高齢者だけでなく、障害者、学生、子供など地域で生活するさまざまな人たちが集い利用できるコミュニティスペースを設置し、「つながり」を意識した事業を行っていきます。平成32年10月の開設を目指し、スケジュールを調整していきませんが、出来る限り早期に開設できるようにし

ていきたいと思ひます。

2. 与謝の園建替事業

施設の老朽化に伴い、平成 34 年に移設、建替を検討しています。地元説明会の実施、平成 31 年度中に設置委員会を置き、建替に係わる事項の協議・検討を行っていきます。

3. 北星会法人研修事業

職員の研修に関して、現在は各施設が中心となり、各種研修を行っているところですが、法人として行う研修として、職員の階層別研修を体系化し、資質の向上とキャリアアップの道筋としたいと考えております。

※別紙平成 31 年度法人研修計画表参照

4. Recruit（採用）活動事業

北星会において、今まで新卒者の採用は高校生を中心に行われてきました。それ以外の採用活動は、中途採用者がほとんどであり、最近の職員年齢構成をみると、20 代の職員が少ない状態にあります。毎年、定期的に新卒者を採用し、安定した人材確保をしなければ事業にも影響が出てきます。さらに新卒採用の目的は、将来的に企業の中核となるコア人材を採用することにあります。したがって、中核として活躍できるような潜在的ポテンシャルを持った人材を採用することが重要です。新卒採用を成功させることで、企業の DNA が将来に亘って引き継がれ、組織の人材基盤を着実に強固なものにすることができるのです。採用活動を通して新卒採用を成功に導くためには、採用担当者だけでなく、新卒採用に関わる人すべてが「将来のコア人材」を採用するという目的を共有し、しっかりと理解しておく必要があります。

※別紙 平成 31 年度 Recruit（採用）活動計画表参照

5. 栗田小学校放課後児童クラブ事業

栗田小学校における放課後児童クラブは、平成 31 年度より栗田小学校敷地内の施設を使用し、宮津市が実施主体として運営する事が決定しております。その事業を北星会に受託できないかと依頼があり、検討しておりました。

※別紙 栗田放課後児童クラブ計画参照

6. 配食サービス事業

現在、宮津市からの委託を受け、栗田・由良地域への配食サービスを天橋の郷が行っています。平成 31 年 4 月からは、府中・日置・養老地区への配食サービスをなぎさ苑が委託を受け、実施していきます。

7. 介護予防・日常生活支援総合事業

介護予防・生活支援サービス事業第1号通所事業（通所型サービスC）に関して、昨年度と同様に宮津市の委託を受け、なぎさ苑が毎週土曜日、午前、午後を実施していきます。

8. 北星会サービス会議事業

平成30年度から北星会の各サービス事業の担当者が定期的に会議をもち、共通の課題について意見交換を行う機会を設けてきました。平成31年度も定期的にこのような機会をもち、サービス事業所同士の横のつながりを強化していき、北星会サービスの質の向上に努めていきたいと考えております。

サービス事業所連絡会議 開催計画

- ①通所サービス連絡会議 5月、11月 第2水曜日
- ②訪問介護連絡会議 6月、12月 第2水曜日
- ③調理部門連絡会議 4月、10月 第2水曜日
- ④相談員連絡会議 7月、1月 第2水曜日

【年間計画】

平成31年

- 5月 定期理事会
- 6月 定期評議員会
- 12月 定期理事会・評議員会

平成32年

- 3月 定期理事会・評議員

天橋園 事業計画書

【施設理念】

ご利用者とご家族の願いが叶えられるように、私たちは学び、共に歩みます。

【基本方針 重点項目】

■基本方針

「介護が必要になってもこの丹後の地で暮らし続けることが出来る様に」と願う住民の声が、特別養護老人ホーム天橋園の開設に結びつきました。開設後42年目を迎えたこの丹後地域においては急速な人口の減少と高齢化が進み、生活の状況や介護サービスのニーズも日々変わってきています。開設時の住民の願いを護る為にも、北星会の各事業所・職種が連携を強めながら、介護が必要になってもこの地で暮らし続けることが出来る様に地域包括ケアシステムの一翼を担うように努めていきます。

■重点項目

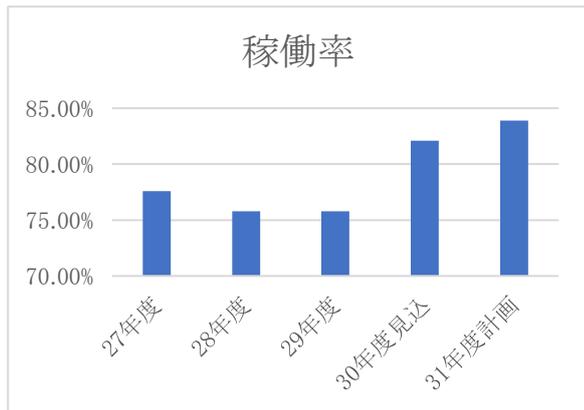
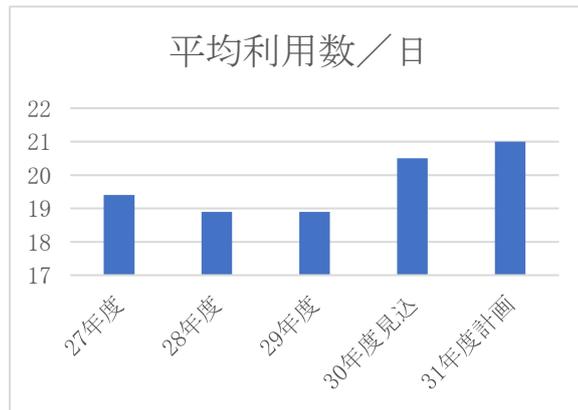
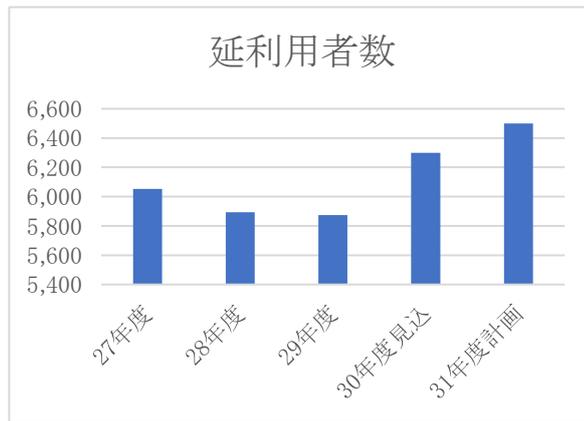
特別養護老人ホーム天橋園は施設設備の老朽化及び事業の見直しに伴い、平成30年6月より事業を休止しています。今後の天橋園拠点区分内の事業展開については利用者や介護ニーズを予測し、恵まれた立地条件が有効に活用できるように各事業のサービス内容について宮津市と共に考え、宮津地域に必要となるサービスを検討していきます。

【中長期目標】

この宮津地域に必要となるサービスを宮津市と共に考え、地域包括ケアシステムの一翼を担うように、天橋園拠点区分内の各事業を進めていきます。

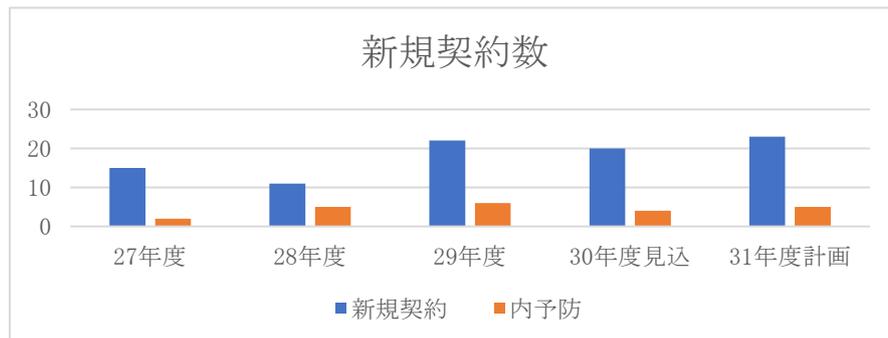
【今年度目標】

特別養護老人ホーム天橋園は、平成31年4月末で介護保険施設としての指定認可を終了します。(2019年7月4日に老人福祉法の老人ホーム休止期間が終了) 天橋園拠点区分内においては本部業務と天橋園の事務について有効に効率良く業務が遂行できるように検討すると共に特養以外のその他の各事業については、建て替えと今後の事業展開について検討し進めていきます。



< 契約 >

	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度見込	31年目標
新規契約	15人	11人	22人	20人	23人
内 予防	2人	5人	6人	4人	5人



(2) サービス内容

i 全体

「目配り・気配り・心配りの出来る職員であれ」を当事業所の運営方針とし、利用者が安心して在宅生活を継続出来るよう家族や関係諸機関との連携を密にし、利用者・家族の思いを大切にしながら自立支援を基本に、質の高いサービス提供ができるよう職員一同努力します。

- 常に傾聴に心掛けてコミュニケーションをはかる事により、利用者の孤立感や焦燥感の軽減につながるよう「かたわらにいる」ことを大切にします。
- 利用者の健康管理、衛生管理に気を配り、感染症予防に努めると共に家族への助言も継続していきます。
- 独居の利用者を基本とした買物支援を計画していきます。

ii 介護予防・日常生活支援総合事業

今までのサービスに加え更に柔軟なサービス提供ができるよう利用者・家族の思いを確認しながら職員一同支援していきます。

- 利用者の安全面に配慮しながら運動機能の維持や認知症予防の為のプログラムを楽しみながら参加していただけるよう提供し、3ヵ月毎の体力測定も継続して実施していきます。
- 「作る楽しさ」「学ぶ楽しさ」等、意欲を引き出す工夫をすることにより、利用者が自主性を持って参加していただけるよう支援します。
- アセスメントにより課題を見つけ改善していく事により「その人らしい暮らし」を少しでも長く続けていただけるよう自立に向けて支援します。

・年間計画

家族を対象としたデイサービス見学会や家族対象の介護教室等の開催を計画します。また、事業所の建て替えに備え、今後の利用者の状況も予測しながら、日課やサービス内容についても見直す機会を設け、日々のコミュニケーション・認知症の進行予防活動・レクリエーション・リハビリ体操を充実させます。

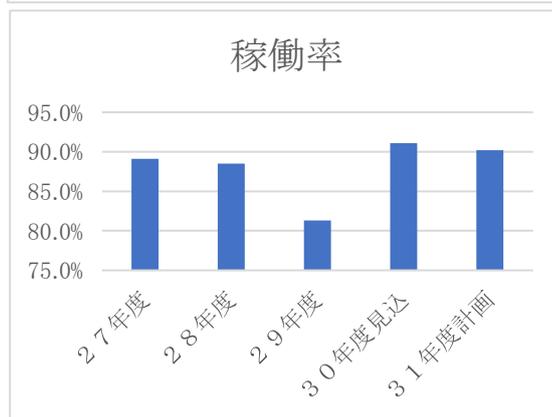
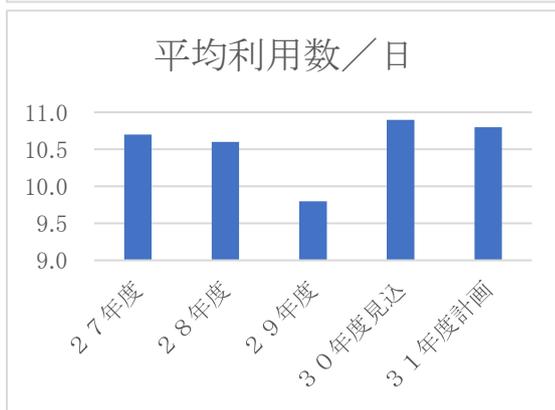
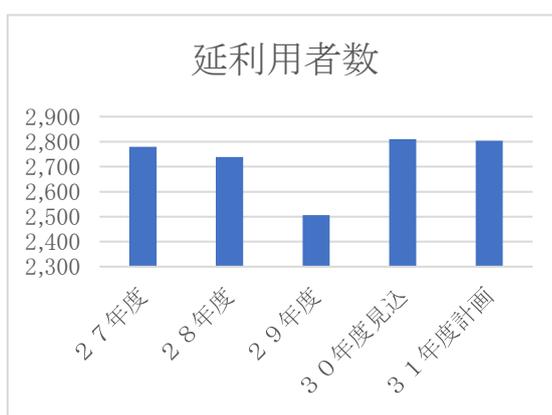
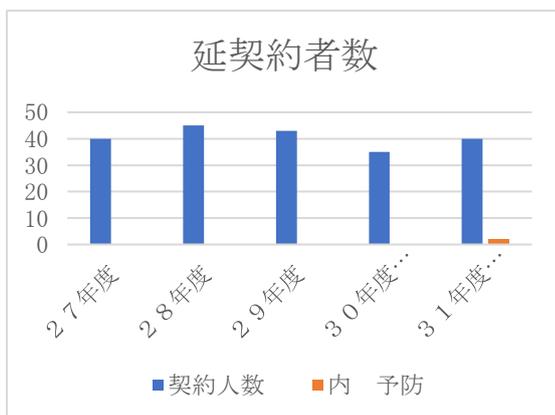
3. 認知症対応型通所介護及び介護予防

●ハウゼ天橋通所介護事業所

(1) 年度目標

<稼働率> (利用定員：12名)

	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度見込	31年目標
営業日数	260日	258日	257日	257日	259日
延利用定員	3,120人	3,096人	3,084人	3,084人	3,108人
延契約人数	40人	45人	43人	35人	40人
内 予防	0人	0人	0人	0人	2人
延利用者数	2780人	2739人	2506人	2810人	2804人
平均利用数/日	10.7人	10.6人	9.8人	10.9人	10.8人
稼働率	89.1%	88.5%	81.3%	91.1%	90.2%
平均介護度	3.37	3.19	2.79	3.04	3.1



<契約>

	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度見込	31年目標
新規契約	16人	14人	10人	10人	15人
内 予防	0人	0人	0人	0人	2人



(2) サービス内容

「私たちは、重度・軽度を問わず、認知症の方の一日でも長い在宅生活の手助けができるよう努力します。」

○介護サービス

宮津市で暮らされる認知症高齢者の心身の特性を踏まえ、認知症状の緩和と心身機能の維持・社会的孤立感の解消及び介護者の介護負担の軽減を目指したサービスを提供します。

ア 家族・医療機関等及び各事業所・部署との連携を大切にし、家庭的な雰囲気の

中で利用者のニーズに基づき、一人ひとりに沿った各種サービス（園外活動・レクリエーション・認知症進行予防活動・生活機能向上リハビリ・口腔ケア等）や医療行為（バイタルチェック・処置・経管栄養・痰吸引等）を実施し、利用者が地域の中で尊厳をもちながら共生できるよう援助していきます。又、暮らしの継続や趣味・生きがいに繋がる『外出サービス』や『買い物支援』に取り組んでいきます。

イ 主治医や訪問看護等との連携を密にし、家族や民生委員・近隣の住民の方の協力を得ながら、1日でも長い在宅生活の手助けをしていきます。

ウ 職員の資質・専門性向上を図る為、日々の業務内での記録の量を増やすことに心掛け、研修会・学習会等への参加を積極的にしていきます。又、業務外での自己研鑽にも励みます。

○介護予防サービス

対象者の状況を考慮し、利用について関係機関と調整します。

・年間計画

4～11月の間は平均利用者数11人以上を目標とします。冬季（12～3月）は感染症や介護老人保健施設への入所により稼働率がどうしても下がるので10人以上を目標にし、介護度の高い方の受け入れや複数回利用を積極的に勧めていきます。又、5月より併設型から単独型の事業所に変更し、介護報酬が上がる為、機能訓練加算等については、家族・担当ケアマネと相談しながら実施していきます。

事業所の建て替えに備え、今後の利用者の状況も予測しながら、日課やサービス内容についても見直す機会を設け、ドライブの時間を抑え、日々のコミュニケーション・認知症進行予防活動・レクリエーション・リハビリ体操を充実させます。

4. 訪問介護及び介護予防・日常生活支援総合事業

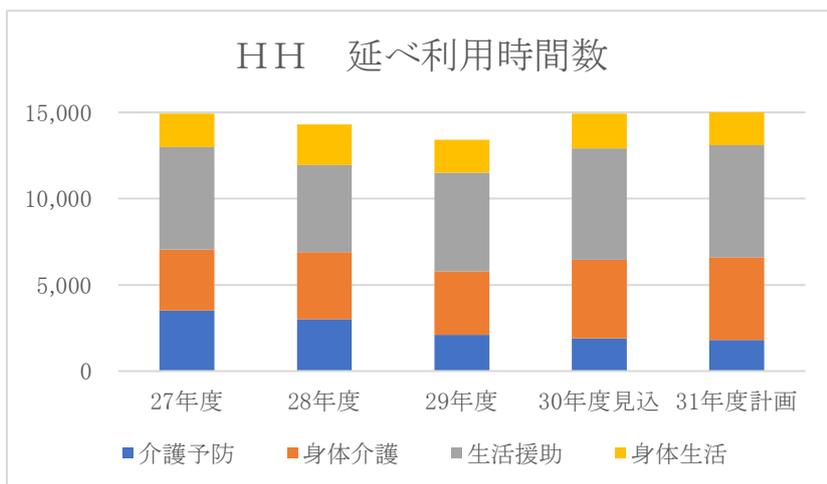
●天橋園訪問介護事業所

(1) 年度目標

<稼働率>

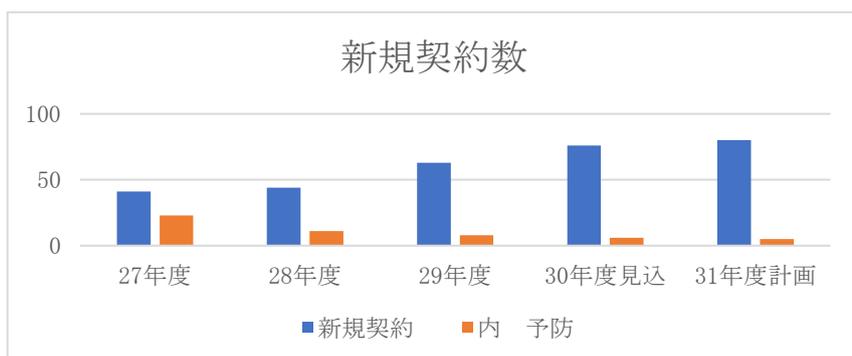
	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度見込	31年度目標
営業日数	363日	362日	365日	365日	366日
職員数(常勤換算)	10.18人	9.82人	10.35人	10.62人	10.8人
延契約人数	142人	162人	154人	185人	200人
内 予防	49人	41人	33人	34人	30人
介護予防	3,510時間30分	3,017時間15分	2,099時間00分	1,894時間00分	1,800時間00分
割合	23.5%	21.1%	15.6%	12.7%	11.7%
身体介護	3,530時間30分	3,883時間50分	3,694時間15分	4,565時間30分	4,800時間00分

割合	23.7%	27.2%	27.5%	30.6%	31.4%
生活援助	5,948 時間 15 分	5,052 時間 15 分	5,712 時間 30 分	6,459 時間 30 分	6,500 時間 00 分
割合	39.8%	35.3%	42.6%	43.2%	42.5%
身体生活	1,933 時間 45 分	2,348 時間 00 分	1,915 時間 30 分	2,018 時間 00 分	2,200 時間 00 分
割合	13.0%	16.4%	14.3%	13.5%	14.4%
合計	14,923 時間 00 分	14,301 時間 20 分	13,421 時間 15 分	14,937 時間 00 分	15,300 時間分
平均介護度	2.28	2.38	2.52	2.74	2.80



< 契約 >

	27 年度実績	28 年度実績	29 年度実績	30 年度見込	31 年目標
新規契約	41 人	44 人	63 人	76 人	80 人
内 予防	23 人	11 人	8 人	6 人	5 人



(2) サービス内容

「あなたの笑顔のために、住み慣れた^{ところ}場所へやさしい心をお届けします」

事業所の運営方針を常に心がけ、利用者が在宅生活を安心して過ごして頂くために必要な援助を提供していきます。その日その日の訪問を、今しかない利用者との時間であるという思いで臨み、心地よい声掛け、安全な援助に心掛け、常に利用者から学ばせて頂く気持ちを忘れずに共に笑顔になれるようにサービスの提供に努めます。

・年間計画

毎月の例会で、常勤と非常勤との情報交換や勉強会を計画的に行い、ヘルパーの資質と専門性の向上を図り、プロとしての自覚と自信を身につけるように努めます。また、常に自己研鑽に励みます。

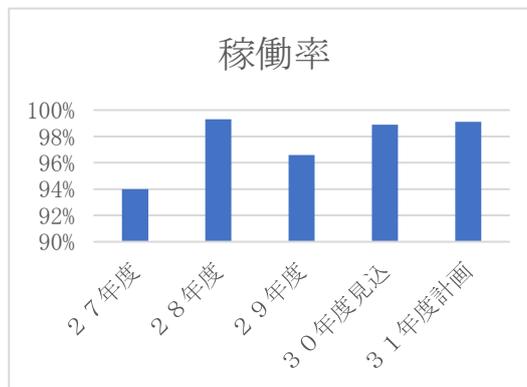
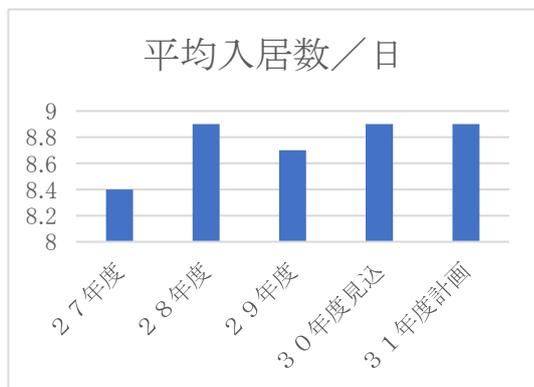
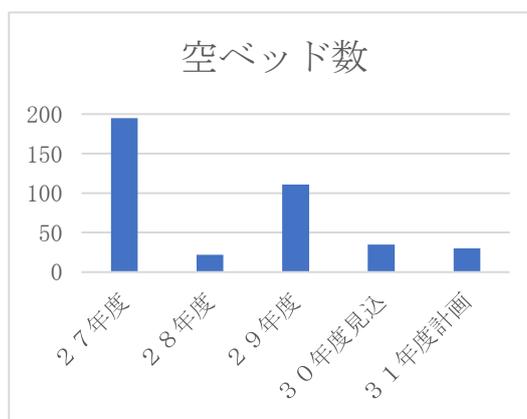
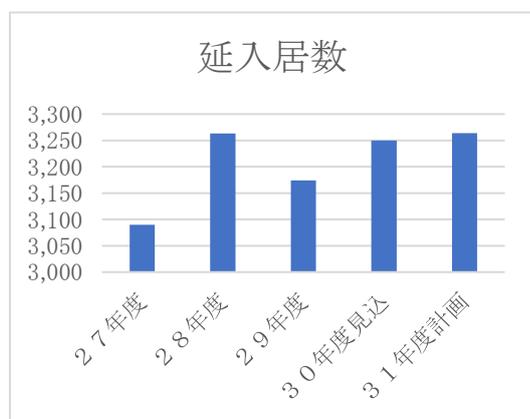
5、認知症対応型共同生活介護

●グループホーム天橋の家

(1) 年度目標

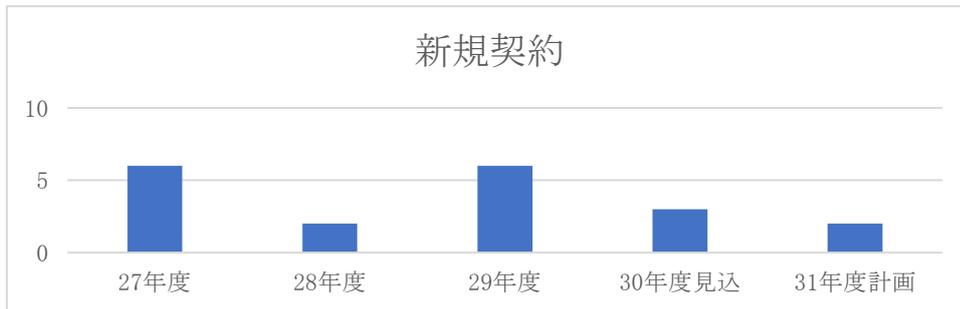
<稼働率> (定員：9名)

	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度見込	31年目標
営業日数	366日	365日	365日	365日	366日
延定員	3,294人	3,285人	3,285人	3,285人	3,294人
延入居数	3,090人	3,263人	3,174人	3,250人	3,264人
空ベッド数	195床	22床	111床	35床	30床
平均入居数／日	8.4人	8.9人	8.7人	8.9人	8.9人
稼働率	94.0%	99.3%	96.6%	98.9%	99.1%
平均介護度	2.3	2.2	1.7	1.8	1.8



<契約>

	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度見込	31年目標
新規契約	6人	2人	6人	3人	2人



(2) サービス内容

グループホーム天橋の家は、3つの運営方針を中心に利用者の生活を支援します。

「第2の我が家を目指します」

「地域との繋がりを大切にします」

「思いやりの気持ちを大切にします」

食事、入浴、排泄等、個々の身体状況に合わせた生活支援と自立支援に努めます。家族との繋がりも大切にし、連携を密にしながら利用者を支えます。

・年間計画

消費税率引き上げに伴い、食費（現在 1,000 円/日）を見直し、利用者・家族に状況を説明し、同意を得ます。

ベッド稼働率 99%を目標に空床を減らすように、利用者の体調管理、転倒等の事故防止に努めます。また日頃から各関係機関との連携を図り、スムーズな入退居を行います。また、1ユニット(9名)と共用型認知症対応型通所介護(1名)の増床準備として、日課及び業務の見直しを進めていきます。

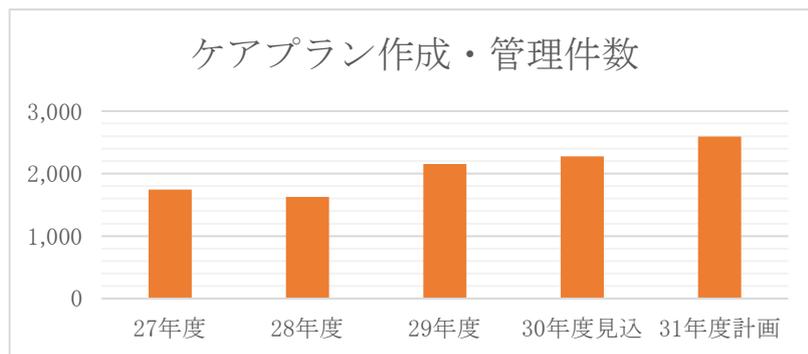
6. 居宅介護支援

●天橋園居宅介護支援事業所

(1) 年度目標（平成 29 年度にはまなす苑と事業所を統合しています）

	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度見込	31年目標
職員数（常勤換算）	4人	4人	5人	5人	6人
相談件数	14,963	16,332	13,928	11,931	12,240
相談件数/月	1,246	1,361	1,160	994	1,020
ケアプラン作成・管理件数	1,745	1,626	2,152	2,278	2,592
内 予防	0	0	0	0	0
ケアプラン作成・管理件数/月	145	136	179	189	216
内 予防	0	0	0	0	0
平均介護度	2.3	2.83	2.1	2.1	2.1

*相談件数につきましては、29年度より関連した相談内容を、1日1と計上しております。



(2) サービス内容

「信頼されるケアマネジャーを目指します」※事業所運営方針

優しい笑顔で親身になってその人に寄り添い、信頼関係を築きながらその人らしい生活を支援します。

- ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、自立支援に繋がる適切なケアマネジメントの実践に努めます。

- ①新規を含む利用者宅や病院・施設等へ訪問し、利用者・家族の心身や環境状況をアセスメントし、利用者本位の視点で適切なサービスを迅速に提供できるように支援します。
- ②利用者・家族に毎月モニタリングを行い、サービス事業所や医療機関など多職種連携を密にはかり看取りも含め居心地の良い環境の下で、きめ細かなサービスが提供されるように支援します。
- ③入退院時や施設入所退所の際には、適切な対応やサービスがスムーズに提供できるように、施設や医療機関との連絡調整を行います。
- ④虐待の早期発見や防止、また困難事例など、地域包括支援センターや関係機関と連携し、適切な対応がとられるように協力・支援を行います。

・年間計画

- ①利用者の望む生活の実現に向けて、地域に不足している社会資源の発見や、開発のためにできることを考え実現を目指す努力をします。
- ②ケアマネジャーとして資質の維持や向上のため、各自が目標を持って地域ケア会議や関係会議、各種研修に参加します。
- ③保健・福祉・介護・医療との連携を図り、インフォーマルなサービスも取り入れたサービス調整に務めます。
- ④地域で選ばれる事業所となるよう努力し、居宅管理件数の安定に努めます。
- ⑤利用者へのより良いサービス提供、更なる満足度の向上を図るため、利用者満足度アンケートを実施します。
- ⑥地域のニーズを把握し、天橋園建て替えに伴う事業展開の提案等にも努めていきます。

7. 事務部門 各事業所の取り組み（項目別）

(1) クラブ活動

- i 天橋園通所介護（午前中を中心にした趣味活動）
趣味活動・・・裁縫、編物、塗り絵、ドリル、書道、読書、工作（小物作り）、貼り絵
カラオケ、おやつ作り、調理、卓球、テレビ体操、ストレッチ体操
- ii ハウゼ天橋通所介護
利用者が興味関心のある囲碁将棋や琴演奏での歌唱などを勧め、生活意欲が持てるように働きかけていきます。
- iii グループホーム天橋の家
レクリエーションを中心に身体を動かす機会や頭、指先を使う機会を設けていきます。その他、買い物、ドライブ、散歩等、外出の機会を設け、地域との繋がりを大切にします。

(2) 地域連携

- i 天橋園通所介護
平成 26 年度から実施しているオレンジカフェ（各公民館への出張型）や地域行事にも参加し、レクリエーションの実施や介護教室等を継続していきます。
幼稚園・小学校等との交流を継続し、高齢者に対する理解や利用者にとっての楽しみが継続出来るように続けていく。
- ii ハウゼ通所介護
独居・認知介護等の利用者の安否確認を近隣の方の協力をお願いし、必要に応じてボランティア等にハウゼ利用中の囲碁の対戦やお話し相手を依頼させていただきます。
- iii 天橋訪問介護
オレンジカフェ、地域ケア会議等へ積極的に参加し、地域の方々や関係機関と連携する姿勢を大切にしていきます。
- iv グループホーム天橋の家
ボランティア、地元老人会、保育所等の地域住民との交流を大切にし、開かれた事業所となるよう努めます。また事業所の特性を活かし、認知症あんしんサポート相談窓口を始め、認知症サポーター養成講座等、認知症への理解に繋がる活動を行い地域社会に貢献します。
- v 天橋園居宅介護支援事業所
他部署と協力しながらオレンジカフェに同行し、地域に積極的に向き、住民とのつながりの中で、生活を支えるサービスの充実に向けて、関係機関や多職種、民生委員と連携しながら、地域に足を運ぶケアマネジャーとなるよう心がけます。

(3) ボランティア・実習受け入れ

- i 天橋園通所介護
ボランティア訪問は、利用者の日課に大きな刺激となり、利用者とボランティア双方に大切な時間となるように支援します。

京都府立看護学校の施設実習や京都暁星高校の施設実習・ボランティアの受け入れ、就職に繋げていきます。

ii ハウゼ天橋通所介護

ボランティア訪問は、利用者の日課に大きな刺激となり、利用者とボランティア双方に大切な時間となるように支援します。

京都府立看護学校 施設実習

iii 天橋訪問介護

実習生受け入れを自分たちの業務を振り返る機会であると認識し、京都暁星高校介護職員初任者研修実習に係る実習の受け入れを引き続き行います。また、きめ細やかな指導に心がけ、将来の就職に繋がるように努めます。

iv グループホーム天橋の家

ボランティア訪問は、利用者の日課に大きな刺激となり、利用者とボランティア双方に大切な時間となるように支援します。

施設実習や希望があれば職場体験の受け入れを積極的に行い、介護や福祉に興味、関心がある方に体験をして頂く機会を設け、就職に繋がります。

v 天橋園居宅介護支援

職業倫理や業務に対する姿勢、要介護高齢者の様々な生活実態を知っていただくために、介護支援専門員となる受講者の受け入れを引き続き行います。

(4) 地域連携の会議

i 宮津市地域ケア会議（対象；天橋園通所介護、ハウゼ天橋通所介護、天橋訪問介護、天橋園居宅介護支援）

会議の内容・事例検討の内容により参加し、地域の情報を事業所の職員で共有する。

ii 運営推進会議（対象；ハウゼ天橋通所介護、グループホーム天橋の家）

自治会長、民生児童委員、介護相談員、行政（介護保険係）職員、利用者の家族等に出席頂き、サービスの内容等の情報開示を行い、地域と連携し運営できるよう努めます。

8. 会議

会議名	開催予定日・回数	出席者及び内容
職員会議	1回/年	全職員、事業計画の共有及び利用者の人権の擁護について学ぶ。
行事計画主任会議	12回/年	管理者・各主任、翌月の事業について・施設長会議等の報告、各種検討事項の協議。
業務運営会議	12回/年	管理者・各主任、リスクマネジメント委員会・苦情報告及び苦情解決について協議、・身体拘束ゼロ委員会・感染症対策委員会・その他報告連絡事項。
安全衛生委員会	12回/年	衛生管理者・（産業医）・管理者・各主任、

デイ会議	適宜	デイ職員、日課や業務内容の検討。 日々の報告連絡や利用者の情報共有は、毎日の終業ミーティングで実施。
ハウゼ会議	12回/年	ハウゼ職員、会議の報告、利用者の情報共有や日課業務の検討。
ハウゼ運営推進会議	2回/年（6月・12月）	自治会長・介護相談員・行政（介護保険係）職員・利用者家族に出席いただき半年間の状況報告を行い、助言等を受けながらサービスの向上に努めます。
ヘルパー例会	12回/年	常勤及び非常勤ヘルパー、利用者の情報共有や連絡報告事項。研修会の実施。 日々の報告連絡や利用者の情報共有は、毎日の適宜ミーティングで実施。
グループホーム会議	12回/年	グループホーム職員、会議の報告及び事業所内のリスクマネジメント・苦情報告及び苦情解決について協議、・身体拘束ゼロ・感染症対策について報告協議及び次期入居者の検討。
グループホーム運営推進会議	6回/年（偶数月）	自治会長・介護相談員・行政（介護保険係）職員・利用者家族に出席いただき2ヶ月間の状況報告を行い、助言等を受けながらサービスの向上に努めます。
支援 部署内会議	1回/週	支援職員、会議の報告、利用者の情報共有や日課業務の検討。研修の報告。

9. 委員会

委員会名	委員	開催予定回数及び内容
安全衛生委員会	衛生管理者・（産業医）・管理者・各主任	12回/年、健診結果の総評と健康安全の向上について検討協議。研修会の検討。
①リスクマネジメント委員会 ②苦情解決委員会 ③身体拘束ゼロ委員会 ④感染症対策委員会	管理者・各主任	12回/年（業務運営会議にて） ①事故発生状況の確認、原因及び対策の検討。 ②寄せられた苦情及び解決について検討。 ③拘束事例の有無の確認と虐待防止について協議。 ④近隣の感染症発症状況の確認と予防対策についての検討。

10. 研修

●内部研修

研 修 名	開催予定月	参加対象者
事故防止について	6 月	全職員
感染症予防について	10 月	全職員
人権擁護について (拘束・虐待防止について)	適宜	全職員
健康について	11 月	全職員

●外部研修

研 修 名	参加対象者
虐待防止研修（宮津市主催）	介護職員、※1コース3日間
認知症介護実践者研修（京都府）	介護・看護職員、相談員
認知症介護実践者リーダー研修（京都府）	介護・看護職員、相談員
認知症介護基礎研修（京都府）	介護・看護職員
身体拘束ゼロ推進研究委員会リーダー職員研修会（京都府老人福祉施設協議会）	介護職員
デイサービス職員研修会（京都府老人福祉施設協議会）	デイサービス職員
入所施設感染症予防対策研修会	介護・看護職員

与謝の園 事業計画書

【施設理念】

子どもから高齢者、垣根を超えすべての人々が笑顔で暮らせるよう地域のふれあいやつながりを深めることができる居場所づくりに努めます。

【基本方針 重点項目】

利用者の「尊厳」を保持し、「自立支援（自己実現）」を目標に「質の高いサービス」を提供するとともに「当たり前の生活」を支援できるよう多職種協働のもと取り組みを重点的に展開していきます。重度の要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制づくりに努め、また認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支える地域包括ケアシステムの構築に努めます。

職員が安心して働き続けることができる環境の整備に努めます。

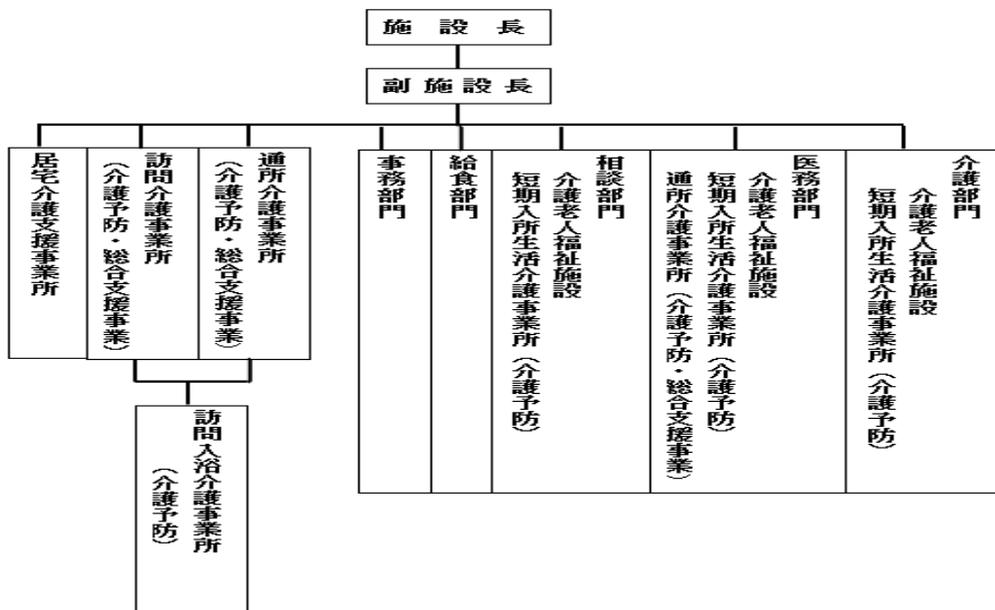
【中長期目標】

利用者の心に寄り添うサービスを目標に、利用者一人一人が有する能力に応じて、可能な限り自立した生活を営むことができるように個別ケアを中心としたサービスを提供します。移転建て替えを控え地域住民との交流として、「地域に出かける」ことにより、地域とのコミュニケーションの中から、皆さんが何を思い考えているのか、ニーズを汲み取ることに努めます。また「施設に来ていただく」ことにより高齢者福祉に関する最新情報や施設情報の提供、介護技術の普及に努め、現場の実態を見ていただき開かれた施設を目指します。

【今年度目標】

- 1、地域の多様なニーズに対応できる職員の育成に努めます。（人材育成の強化）
- 2、身体的または、精神的な苦痛を緩和することによって、最後までご本人らしく暮らせる看取りケアについて取り組みます。

【組織図】



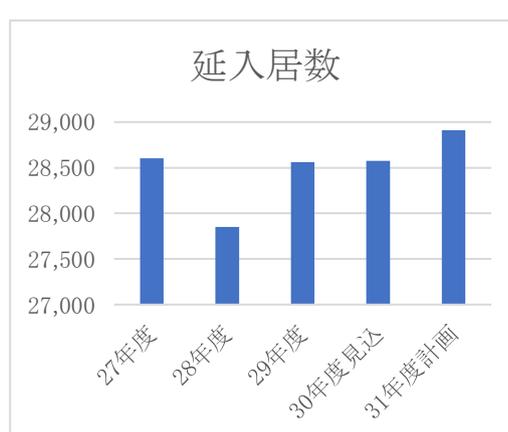
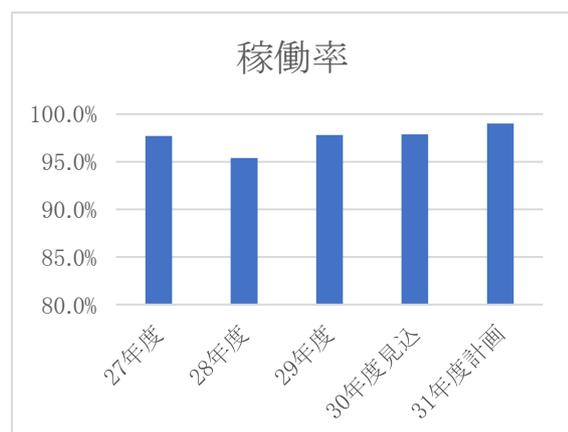
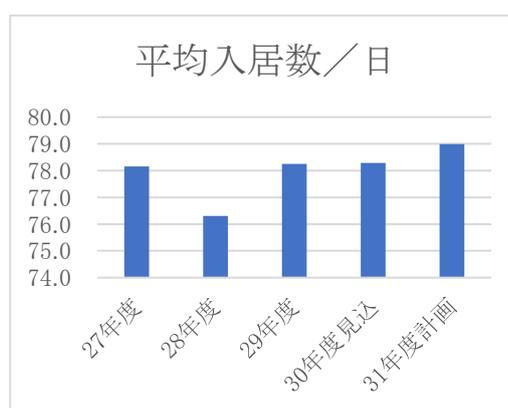
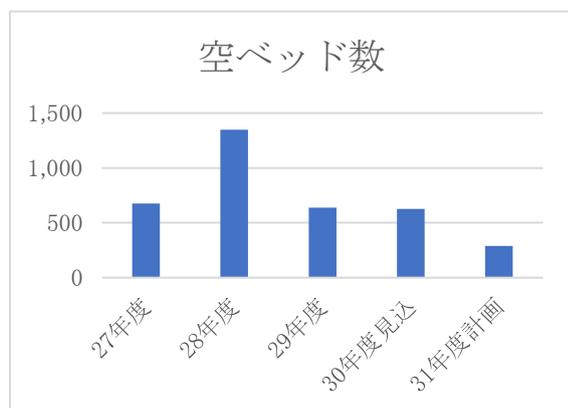
【 事業計画 】

1. 介護部門

① 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

I 平成31年度目標(定員80名)

	27年度	28年度	29年度	30年度見込	31年度計画
営業日数	366日	365日	365日	365日	365日
延入居定員	29,280人	29,200人	29,200人	29,200人	29,200人
延入居数	28,604人	27,851人	28,562人	28,575人	28,910人
空ベッド数	676床	1,349床	638床	625床	290床
平均入居数／日	78.2人	76.3人	78.2人	78.3人	80人
稼働率	97.69%	95.38%	98%	97.9%	99%
平均介護度	4.16	4.19	4.27	4.27	4.2



II サービス内容

i 全体

- ・利用者の「安全・安楽」を保持し、自立支援（自己実現）に努めます。そのために、職員一人ひとりの介護技術、専門的知識、介護のプロであるという意識を高め個別ケアの提供に努めます。
- ・利用者・家族を通し、地域の人との交流、繋がりを大切にしていきます

【新西ユニット】

利用者の気持ちを大切に寄り添う時間を持ちます。

- ・身だしなみを整える。
- ・楽しみの機会を増やす。
- ・チームワーク向上のために声を掛け合い相談し合う。

【新館東ユニット】

利用者に快適な生活空間を提供します。

- ・ベッドメイキング、身だしなみに気を配る。
- ・報、連、相に努め、支援方法を統一する。

【旧館西ユニット】

利用者の笑顔の為に～私たちが出来る事を～

- ・ちょっとした工夫で生活改善（環境整備、暮らしの改善）
- ・思いやりのある態度と言葉使い。
- ・報、連、相と助け合い。
- ・自分の心と体の健康管理

【旧館東ユニット】

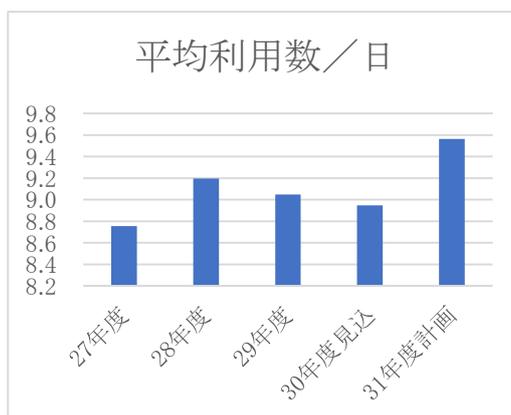
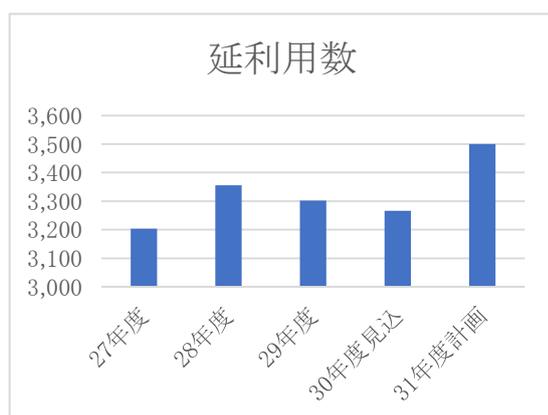
心地よく過ごしていただくために観察力を高めます。

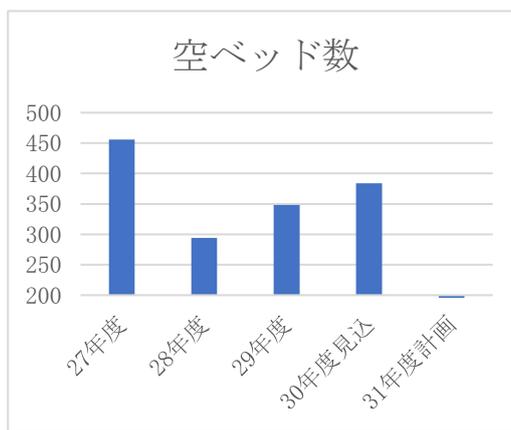
- ・環境整備、身だしなみを整える。
- ・個人の思いに気づき、寄り添う介護に努める。
- ・知り得た情報を共有する。

② 短期入所生活介護（ショートステイ）

I 平成 31 年度目標（定員 10 名）

	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度見込	31 年度計画
営業日数	366 日	365 日	365 日	365 日	365 日
延定員	3,660 人	3,650 人	3,650 人	3,650 人	3,650 人
延利用数	3,204 人	3,356 人	3,302 人	3,266 人	3,500 人
空ベッド数	456 床	294 床	348 床	384 床	150 床
平均利用数／日	8.8 人	9.2 人	9.0 人	8.9 人	9.6 人
稼働率	87.54%	91.95%	90%	89.4%	95.8%
平均介護度	3.3	3.00	2.99	2.67	2.8





II サービス内容

i 全体

利用者・家族および各居宅介護支援事業所、関係機関等と密接に連携を図り、安心して在宅生活が維持できるよう支援するとともに、利用者・家族に寄り添いながら満足度の高いサービスを提供できるように努めます。

ii 介護予防サービス

利用者・家族および地域包括支援センター、関係機関等と密接に連携を図り、利用者・家族のニーズを尊重し、意欲的で自立した在宅生活を送れるよう質の高いサービスの提供に努めます。

2. 看護部門

I サービス内容

i 介護老人福祉施設

担当看護制のもと、より一層、利用者と向き合い、家族の意向を尊重し、それぞれのニーズに沿った生活を送って頂けるよう支援してまいります。また、職員は地域の福祉に寄与していることを自覚し、地域との交流を深めます。

- ・利用者の身体状況、生活状況を把握・アセスメントし、健康維持、予防的ケアに努めます。
- ・家族への情報提供を的確に行い、信頼関係の構築に努めます。
- ・多職種連携に努め、医療的ケア・感染症対策・褥瘡対策・看取りケアなど、チームとして進めていきます。
- ・日常生活の中で個別的にリハビリを行い、心身機能の維持に努めます。感染症予防の観点から、寝たきり状態の方への口腔ケアに力を入れていきます。
- ・専門職としての自覚を持ち、自己研鑽に努めます。
- ・桑飼シルクカフェ等に参加し、地域住民の方が健康的な生活を送れるようお手伝いをします。
- ・地域のボランティアに積極的に参加します

ii 短期入所生活介護

関係各所との連携を密にし、利用者・家族の在宅生活の維持・継続のために支援をしていきます。

- ・状態観察により健康管理に努め、変化があれば、速やかに対応します。

- ・医療的処置の継続の支援をします。

iii 通所介護

関係各所との連携を密にし、利用者・家族の在宅生活の維持・継続のために支援をしていきます。

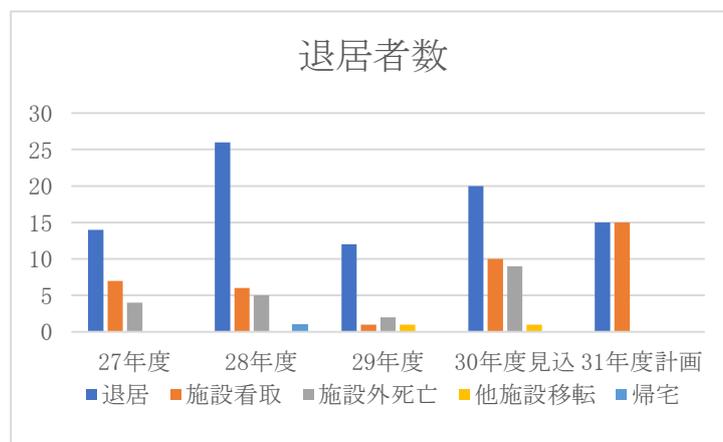
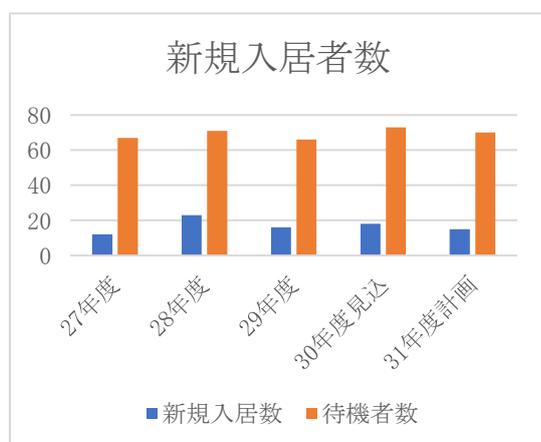
- ・状態観察により健康管理に努め、変化があれば、速やかに対応します。
- ・医療的処置の継続の支援をします。

3. 相談部門

I 平成 31 年度目標 契約

① 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度見込	31 年度計画
新規入居数	12 人	23 人	16 人	18 人	15 人
待機者数	67 人	71 人	66 人	73 人	70 人
退居者数	14 人	26 人	12 人	20 人	
施設看取り	7 人	6 人	1 人	10 人	
施設外死亡	4 人	5 人	2 人	9 人	
他施設移転	0 人	0 人	1 人	1 人	
帰宅	0 人	1 人	0 人	0 人	



② 短期入所生活介護（ショートステイ）

	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度見込	31 年度計画
新規利用者数	47 人	52 人	55 人	55 人	53 人
待機者数	人	人	人	人	人



II サービス内容

i 介護老人福祉施設

笑顔で利用者の「心に寄り添うサービス」を提供します。利用者一人一人が有する能力に応じて、可能な限り自立した生活が営むことが出来るように個別ケアと認知症ケアを中心としたサービスを提供します。また、地域や家族との結びつきを重視し、関係する関係機関と連携を図り総合的なサービス提供につとめます。

- ・ 利用者の「語り」にしっかりと耳を傾けます。
支援に必要なさまざまな情報を収集し利用者の生活機能がどのような状態にあるのか、利用者を取りまく環境や利用者の個性が生活機能にどのような影響を及ぼしているのかを客観的に分析・統合し利用者とともにニーズを導きます。
- ・ 部署間の連携を図り、お互いの意思をスムーズに通わせ意思統一を図るために必要な情報を正しく伝え職員が一体的となり深いかかわりが持てるように努めます。
- ・ サービス担当者会議をより充実し、「自尊心」「自己決定」「現有能力」「役割づくり」「個別化」に重点に置き、より専門的、多角的な視点からの意見交換を行います。また利用者・家族の参加を促し目標の自己決定を行い喜びや楽しみが実感できるように援助します。
- ・ 認知症サポーター養成講座講師派遣やオレンジロードつなげ隊等の活動を積極的に受け入れ地域の方々との交流を広げます。
- ・ ボランティア（活動）を積極的に受入れ、一人ひとりのニーズに合わせた余暇活動の充足をはかり地域の社会資源を有効に活用します。また地域社会との交流を受け入れながら、施設内の生活だけでなく地域社会の一員であることを認識し、「生きがいのある生活の創造」を目指します。

ii 短期入所生活介護

- ・ 利用者本位のケアプランに基づき、サービス内容の評価と見直しを行いながら「生活の質」の向上に努めます。
- ・ 利用者・家族、居宅介護支援事業所や関係機関等との綿密な連絡調整に努め切れ目のないサービスで在宅生活が維持および向上できるようサポートします。
- ・ 安全で安心した生活（サービス）が提供できるように、環境整備やプライバシー等に配慮し、サービスの質の向上に努めます。
- ・ 利用者・家族の満足度を高めるため、相談や要望に対し迅速に対応するとともに、職員の資質及び専門性の向上を図り、質の高いサービスが提供できるように努めます。
- ・ 満足度調査等を実施し利用者一人ひとりの満足度を基本にサービスの充実が図れるよう努めます。

iii 介護予防サービス

- ・ 利用者本位のケアプランに基づき、利用者のニーズを尊重しながら、自立的な在宅生活の維持および向上に繋がるように努めます。
- ・ 利用者・家族、地域包括支援センターや関係機関等との綿密な連絡調整に努め、残存機能の維持・低下防止が図れるよう努めます。
- ・ 全で安心した生活（サービス）が提供できるように、環境整備やプライバシー等に配慮し、サービスの質の向上に努めます。
- ・ 利用者・家族の満足度を高めるため、相談や要望などに迅速に対応するとともに、職員の資質及び専門性の向上を図り、質の高いサービスが提供できるように努め

ます。

- ・ 満足度調査等を実施し、利用者一人ひとりの満足度を基本に、サービスの充実が図れるよう努めます。

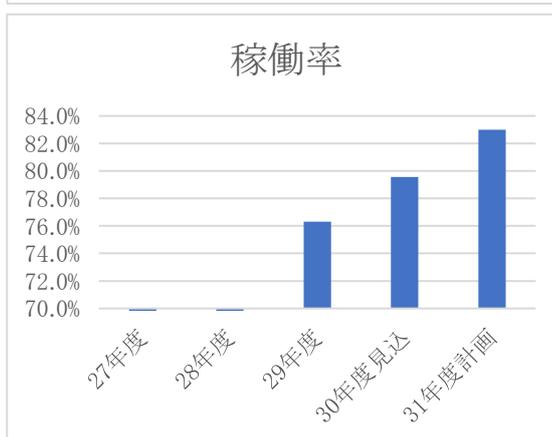
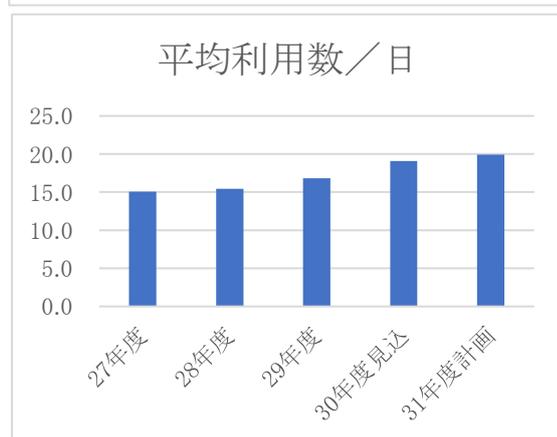
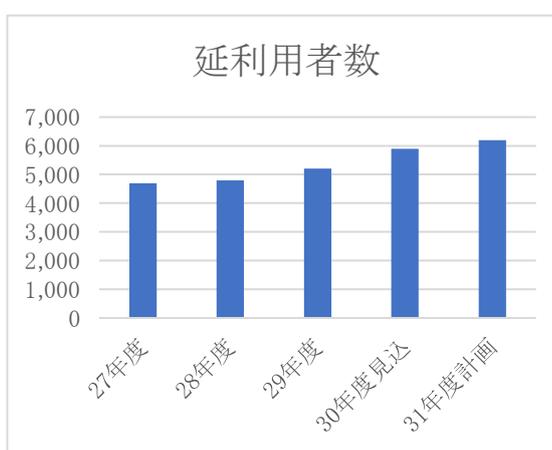
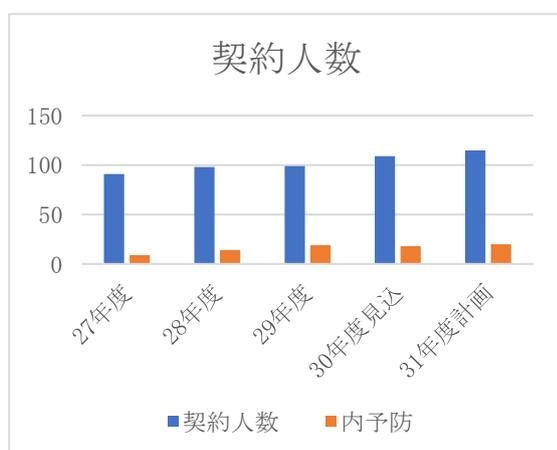
4. 通所介護事業所（介護予防・総合支援事業）

I 平成 31 年度目標

<稼働率>（定員：24 名）

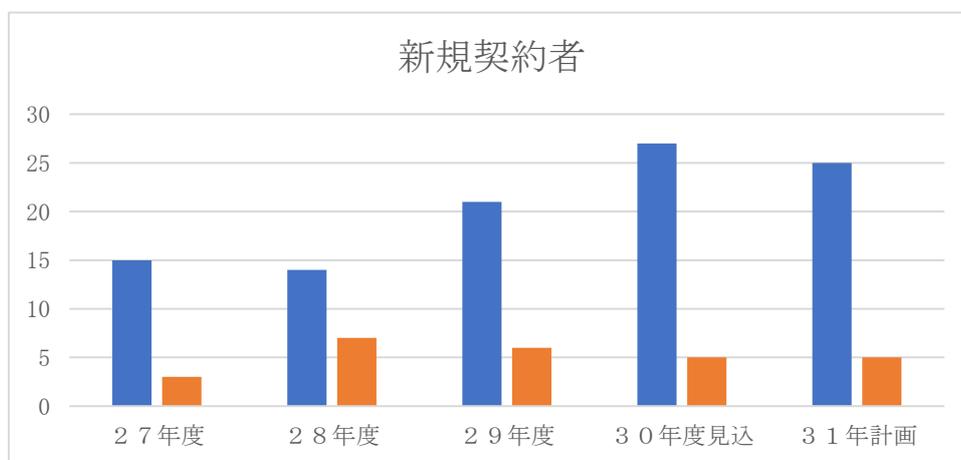
	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度見込	31 年度計画
営業日数	312 日	311 日	310 日	309 日	311 日
定員数	30 人	※1 30 人	24 人	24 人	24 人
延定員	9,360 人	8,406 人	7,440 人	7,416 人	7,464 人
契約人数	91 人	98 人	99 人	109 人	115 人
内 予防	9 人	14 人	19 人	18 人	20 人
延利用者数	4,695 人	4,798 人	5,208 人	5,900 人	6,195 人
内 予防	367	498	787 人	902 人	920 人
平均利用数／日	15.1 人	15.5 人	16.8 人	19.1 人	19.9 人
内 予防	1.2 人	1.6 人	2.5 人	2.9 人	2.9 人
稼働率	57.3%	50.2%	70%	80%	83%
平均介護度	2.62	2.1	1.8	2.0	2.0

※1 平成 28 年 10 月より定員変更（30→24 名）



<新規契約>

	27年度	28年度	29年度	30年度見込	31年度計画
新規契約	18人	21人	27人	32人	30人
内 予防	3人	7人	6人	5人	5人



II サービス内容

i 全体

- ・ 各関係機関との連携により、利用者が住み慣れた地域で自立的で意欲的に、在宅生活が継続できるよう、質の高いサービスの提供に努めます。
- ・ クラブ活動等レクリエーションの取り組みとして、認知症予防につながる脳内トレーニングや身体機能維持につながる体操や運動レクリエーションを行います。
- ・ 地域連携について、社会資源の活用として、利用者にと謝野町内の行事に参加いただけるような取り組みを計画しています。と謝の園が主催する桑飼シルクカフェに職員も参加し、地域の住民の方とのかかわりを大切にしています。
- ・ 施設内外の研修会・勉強会に参加するなど専門職としての資質向上に努めます。
- ・ 加算算定へ向けて、取り組みを開始・継続して行きます。

ii 総合事業

「介護予防・日常生活支援総合事業」の受け入れを行います。

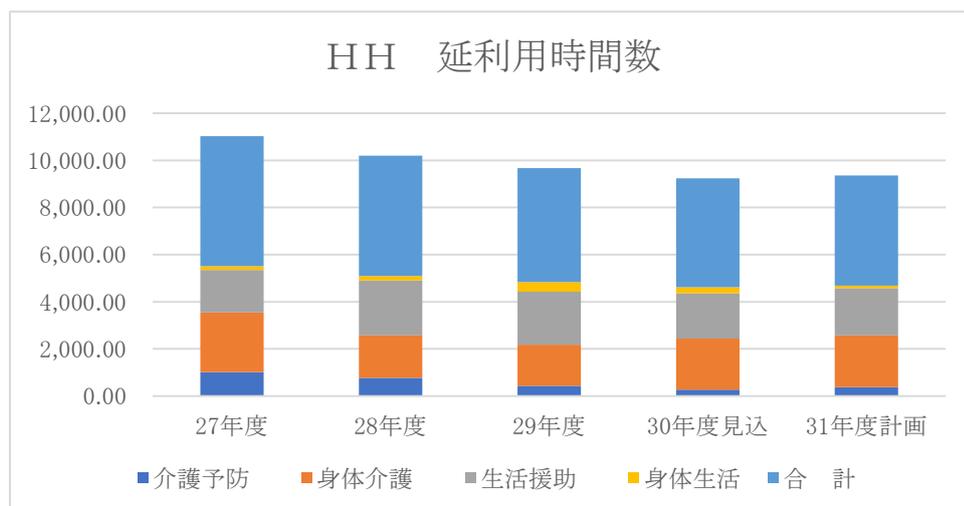
5. 訪問介護事業所（介護予防・総合支援事業）

I 平成31年度目標

<稼働率>

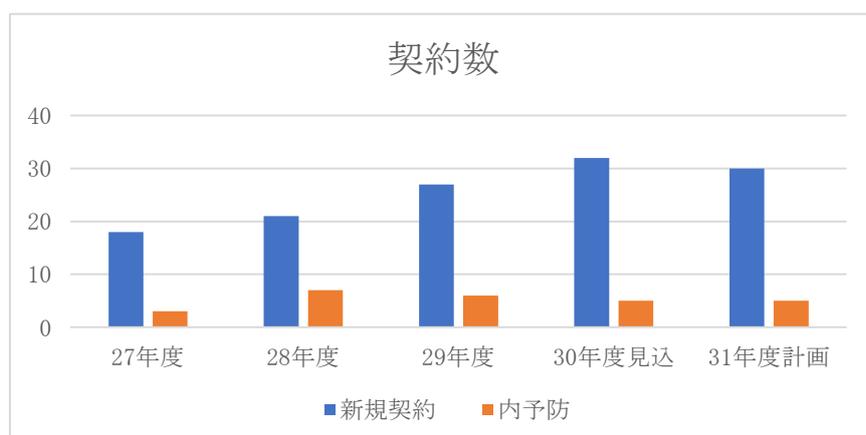
	27年度	28年度	29年度	30年度見込	31年度計画
営業日数	362日	362日	362日	362日	362日
職員数(常勤換算)	4.54人	4.22人	4.45人	人	人
契約人数	86人	71人	80人	71人	75人
内 予防	19人	14人	9人	7人	9人
介護予防	1,005時間55分	761時間30分	434時間	272時間	376時間
割合	18.2%	14.9%	9%	6%	8%

身体介護	2,539時間 35分	1,804時間 15分	1,746時間 25分	2,166時間 50分	2,200時間
割合	46%	35.4%	36%	47%	47%
生活援助	1,807時間 35分	2,335時間 10分	2,241時間 5分	1,915時間 20分	2,000時間
割合	32.8%	45.8%	46%	41%	43%
身体生活	164時間 5分	197時間 35分	414時間 10分	268時間 30分	108時間
割合	3%	3.9%	9%	6%	2%
合計	5,517時間 10分	5,098時間 30分	4,835時間 40分	4,622時間 40分	4,684時間
平均介護度	2.51	2.4	2.05	2.12	2.10



<新規契約>

	27年度	28年度	29年度	30年度見込	31年度計画
新規契約	29人	21人	13人	13人	15人
内 予防	4人	3人	0人	0人	2人



II サービス内容

i 全体

利用者の尊厳を保ち、住み慣れた地域や家庭で安心して生活が継続できるように各居宅介護支援事業所、地域包括支援センター及び関係機関と連携し、サービスを利用す

ることによって「その人らしい生活」を送って頂けるよう、自立支援に向けたサービス提供に努めます。また、地域の皆さんから選ばれるヘルパーを目指します。

(重点目標)

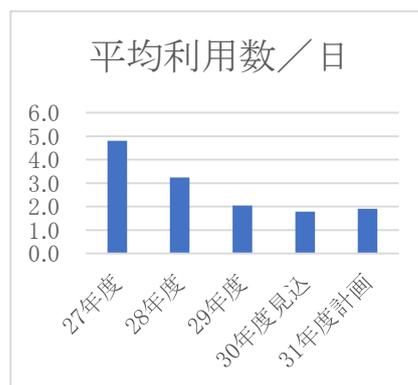
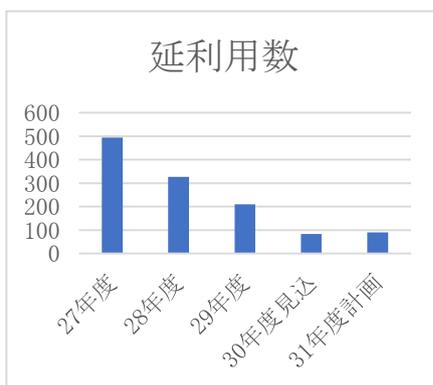
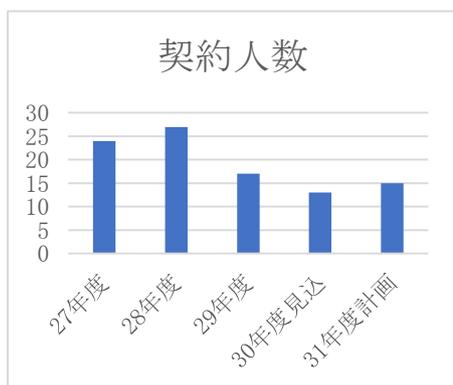
- 個々の訪問介護計画書に基づいたサービスが提供できているか、利用者や家族の意向や現状に沿ったサービスの提供ができているか等、サービス内容の評価や見直しを行い、より良いサービスが提供できるように努めます。また、利用者の情報の共有化を図り、援助内容をヘルパー間で確認・徹底し、同レベルのサービスが提供できるように努めます。
- 居宅介護支援事業所や地域包括支援センターより、新規利用者の訪問依頼があった場合は、できる限り速やかに対応（面接、訪問調整）します。
- 利用者・家族に対して満足度調査を実施し、利用者のニーズや家族の思いを汲み取り、家庭で安心して生活ができるように介護サービスの提供に努めます。
- サービスの質の向上の為、当事業所としての年間研修計画（全体・個人）を立て、計画書に基づいて月1回程度定期研修会を開催します。また、半期に一度、今年度の重点目標や個人目標の評価を行い、プロの専門職として誇りをもって、サービスを提供します。
- 月に1回程度ヘルパー会議を開催し、ヘルパー間で利用者等に関する情報を共有し、同レベルのサービスが提供できるようにします。
- 実習生等の実習依頼の依頼があれば、積極的に受け入れます。また、新人職員への指導など人材育成に努めます。

6. 訪問入浴介護事業所（介護予防）

I 平成31年度目標

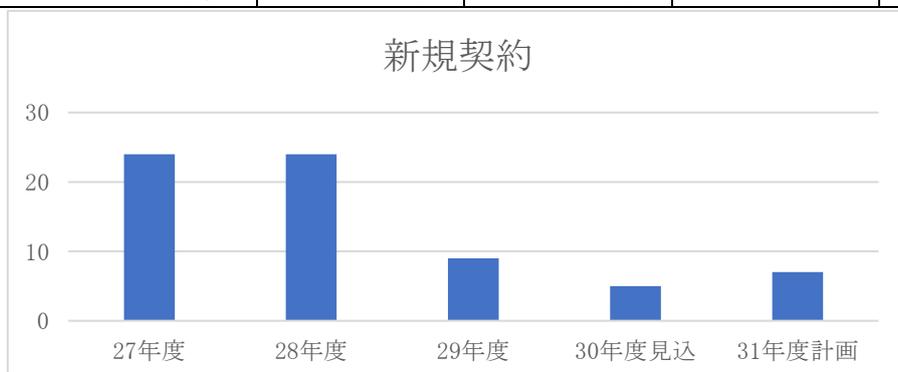
<稼働率>

	27年度	28年度	29年度	30年度見込	31年度計画
営業日数	103日	101日	103日	47日	47日
契約人数	24人	27人	17人	13人	15人
内 障害	0人	0人	0人	0人	0人
延利用数	495人	327人	210人	84人	90人
内 障害	0人	0人	0人	0人	0人
平均利用数／日	4.8人	3.2人	2.0人	1.8人	1.9人
内 障害	0人	0人	0人	0人	0人
平均介護度	4.5	4.3	4.3	3.4	3.7



<新規契約>

	27年度	28年度	29年度	30年度見込	31年度計画
新規契約 介護	24人	24人	9人	5人	7人
内 障害	0人	0人	0人	0人	0人



II サービス内容

i 全体

利用者の気持ち家族の思いを大切に、希望にそった入浴サービスが提供できるよう努め、入浴が楽しみしてもらえるように、笑顔を絶やさず「おもてなし」の気持ちでサービス提供に努めます。また、周囲の環境整備にも努め、身辺すべての清潔保持を実施します。引き続き重度利用者（人工呼吸器・IVH・癌末期など）への対応も行います。

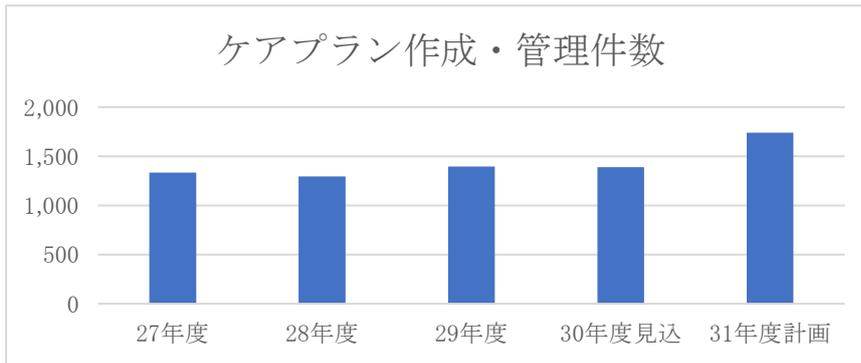
- ・各事業所の介護支援専門員や訪問看護師など内外事業所との連絡を密にし、より良いサービス提供へつなげます。
- ・担当職員の質の向上に努め、毎月研修会を実施します。
- ・訪問入浴車両については、1年に1回以上専門業者による定期メンテナンスを実施し、職員による定期点検の実施（1回/月）と稼働毎の給湯チェックを実施します

7. 居宅介護支援事業所

I 平成31年度目標

<稼働率>

	27年度	28年度	29年度	30年度見込	31年計画
職員数（常勤換算）	3人	3人	3人	3人	4人
相談件数	10,222	9,220	9,113	8,850	10,800
相談件数/月	851	768	759	738	900
ケアプラン作成・管理件数	1,334	1,296	1,397	1,390	1,740
内 予防	29	33	52	60	60
ケアプラン作成・管理件数/月	111	108	116	116	145
内 予防	2.4	2.7	4.3	5	5
平均介護度	2.47	2.29	2.21	2.25	2.25



II サービス内容

i 全体

利用者やその家族と信頼関係を築けるよう、迅速で丁寧な対応を心掛けます。適切なアセスメントにより、利用者の抱える課題や意向を把握して、利用者が望む暮らしの実現に向けて自ら選択していけるよう、サービスの提案や調整を行います。包括支援センターや医療機関、関連事業所等と連携を密にして、独居、高齢者世帯、認知症高齢者など、一人ひとりの環境や生活状況に配慮した支援を行います。

ii サービス内容

- ・利用者が住み慣れた地域や家庭で安心して生活を継続できるよう、地域の社会資源を有効に活用していきます。
- ・施設と協働での介護者教室の開催や、桑飼シルクカフェへの積極的な参加により、地域住民とつながり、なじみの関係を築いていきます。
- ・地域ケア会議やケアマネ連絡会、各種研修などへの参加で、関係機関と顔の見える連携作りを行います。
- ・実習の受け入れについて、平成 29 年度より介護支援専門員実務研修実習を受け入れており、今年度も 1 名の実習生を受け入れる予定です。実習受け入れに際しては、テキストによる事前準備を行い、他事業所とも情報交換を行いながら、よりよい実習にしていきます。

8. 給食部門

i 全体

【管理栄養士】

- ・利用者の嗜好、身体状況、咀嚼・嚥下機能、日々の摂食状況などを把握し利用者一人ひとりに適した栄養ケアプランを作成しそれを元にした食事を提供します。また、糖尿病食、減塩食、カリウム制限食、脂肪制限食などの特別食や個別対応、アレルギーによる代替食の提供に努めます。
- ・在宅介護、地域にも目を向け活動の幅を広げていけるよう努めます。

【調理】

- ・建て替えに伴い、厨房業務が大きく変化していく事が予想され、その変化に対応できるよう努めます。
- ・安全な食事提供の為、衛生管理の徹底と厨房職員の意識を高め、食中毒や感染症

の発生防止に努めます。

ii サービス内容

- ・利用者の重度化に伴い嚥下機能の低下した利用者への食事内容の改善、特にきざみ食のあり方について勉強会の実施、情報収集、また他職種と協力しながら改善に向け取り組みます。
- ・桑飼シルクカフェ、四季にちなんだ行事、料理教室など「食」と関わることを計画し実践できるよう努めます。
- ・施設見学、研修会などへ進んで参加し必要な情報を収集し、伝達できるよう努めます。
- ・常に日常の業務内容を見直し、より効率よく安全に作業が行えるよう、また無駄を省けるように業務の簡素化に努めます。

9. 事務部門

I クラブ活動

i 介護老人福祉施設

- ・書道クラブ
- ・生け花レク
- ・物づくり
- ・調理レク

ii 短期入所生活介護

- ・書道クラブ
- ・生け花レク
- ・物づくり
- ・調理レク

<個別レクリエーションの提供>

- ・脳トレ・塗り絵・カラオケ・パズルを実施。
- ・利用者の要望に対応。内容の追加や変更を行う。

<グループ活動>

- ・年間計画書に基づき小グループ活動を主体とした個別ケアを目指します。

iii 与謝の園通所介護

<グループ活動>

- ・年間計画書に基づき小グループ活動を主体とした個別ケアを目指します。

II 地域連携

i 介護老人福祉施設

ii 短期入所生活介護

- ・福祉体験学習（与謝野町立加悦中学校）
- ・看護学生実習受け入れ（京都府立看護学校）
- ・介護実習生の受け入れ
- ・インターンシップの受け入れ
- ・施設見学等

iii 与謝の園通所介護

- ・認知症カフェ（桑飼シルクカフェ）やオープンデイ（新規取り組み）の企画・運営を通して地域の方との交流を深め、又地域のニーズに合わせ、介護教室等を開

催し地域住民と共に歩むデイサービスとなるよう努めます。

III ボランティア

i 介護老人福祉施設

- ・シーツ交換ボランティア 第1 金曜日
- ・かるかも会 年4回
- ・喫茶ボランティア 第1、第3 日曜日
- ・傾聴ボランティア 月1回
- ・歌謡ほのぼの会等
- ・社協ボランティア 毎月お楽しみ会

ii 短期入所生活介護

- ・シーツ交換ボランティア 第1 金曜日
- ・喫茶ボランティア 第1、第3 日曜日
- ・歌謡ほのぼの会 年1回

iii 与謝の園通所介護

- ・歌謡ほのぼの会 年1回

IV 実習受け入れ

i 介護老人福祉施設

- ・福祉体験学習（与謝野町立加悦中学校）
- ・看護学生実習受け入れ（京都府立看護学校）
- ・介護実習生の受け入れ
- ・施設見学等

ii 短期入所生活介護

- ・福祉体験学習（与謝野町立加悦中学校）
- ・看護学生実習受け入れ（京都府立看護学校）
- ・介護実習生の受け入れ
- ・施設見学等

iii 通所介護

- ・福祉体験学習（与謝野町立加悦中学校）
- ・看護学生実習受け入れ（京都府立看護学校）
- ・介護実習生の受け入れ
- ・職場体験学習（与謝野町立江陽中学校）
- ・施設見学等

iv 訪問介護事業所

- ・介護実習生の受け入れ

v 居宅介護

- ・介護支援専門員実務研修現場研修

V 年間行事

開催月	行事			
1月	お楽しみ会	新年互礼会	新春茶話会	どんと焼き
2月	お楽しみ会	節分		
3月	お楽しみ会	ひな祭り		避難訓練（日中想定）
4月	お楽しみ会	お花見	加悦谷祭り	開園記念日
5月	お楽しみ会	節句	三河内祭り	
6月	お楽しみ会			
7月	お楽しみ会	与謝の園祭り	七夕	
8月	お楽しみ会	地藏盆	スイカ割大会	避難訓練（夜間想定）
9月	お楽しみ会	敬老を祝う会		
10月	お楽しみ会	運動会	地域文化祭	
11月	お楽しみ会	焼き芋大秋		
12月	お楽しみ会	餅つき大会	クリスマスバイキング	
1月	お楽しみ会	新年互礼会	新春茶話会	どんと焼き
2月	お楽しみ会	節分		
3月	お楽しみ会	ひな祭り		避難訓練（日中想定）

VI 会議

会議名	開催予定日・回数	出席対象者
職員会議	1回/年	全職員
主任会議	12回/年	施設長・各主任
入所検討会議	12回/年	施設長・副施設長・介護主任・看護主任・居宅介護支援専門員・与謝野町福祉課職員
ユニットリーダー会議	12回/年	介護主任・介護副主任・ユニットリーダー
ユニット会議	各ユニット12回	ユニット毎介護員
SS連絡調整会議	12回/年	生活相談員、介護員、看護師、管理栄養士
部署間連絡会議	6回/年	施設長、相談員、介護主任、看護主任、管理栄養士
デイ会議	4回/年	通所職員
医務会議	2回/年	医務職員
厨房会議	12回/年	調理職員
居宅会議	12回/年	介護支援専門員
ヘルパー会議	12回/年	サービス提供責任者、訪問介護員

VII 委員会

委員会名	委員名	開催予定・回数
感染症対策委員会	感染症予防対策委員	6回/年（臨時開催含む）
褥瘡対策委員会	褥瘡対策委員	4回/年
安全衛生委員会	安全衛生委員	12回/年
看取りケア委員会	看取りケア委員	4回/年
医療ケア委員会	医療ケア委員	4回/年
身体拘束ゼロ委員会・認知症ケア部会	身体拘束ゼロ委員会・認知症ケア部会	6回/年
サービス向上委員会	行事部員	6回/年
	排泄部員	6回/年
	記録部員	6回/年
	広報部員	4回/年
夏祭り実行委員会	夏祭り実行委員	7回
リスクマネジメント委員会	リスクマネジメント委員	6回/年
サービス自己評価委員会	サービス自己評価委員	10回/年

VIII 研修

○内部研修

研修名	開催予定日	参加対象者
褥瘡対策委員会	6月・9月・12月・3月	全職員
感染症対策委員会	5月・10月	全職員
認知症ケア委員会	7月	全職員
リスクマネジメント委員会 (事故リスク)	6月・12月	全職員
身体拘束ゼロ委員会・認知症ケア部会	9月・12月	全職員
安全衛生委員会	5月8月11月3月	全職員
看取りケア委員会	7月	全職員
実践報告会	3月	全職員

○外部研修

研修名	開催予定日	参加対象者
新人職員研修	5月	全職員
福祉職のためのマナー研修	5月	全職員
認知症介護実践者研修	6月	介護職員
認知症介護実践者リーダー研修	9月	介護職員
認知症介護基礎研修	9月	介護職員
身体拘束ゼロ推進研究委員会リーダー職員研修会	9月	介護職員
デイサービス職員研修会	10月 2月	デイサービス職員
ユニットリーダー研修	6月 12月	介護職員
入所施設感染症予防対策研修会	11月	全職員

天橋の郷 事業計画書

【施設理念】

一人ひとりの「生きる力」を支える

【基本方針 重点項目】

1. 少子高齢化が著しく進む中において、地域の社会資源の一つとして入所・在宅サービスのいずれにおいても、最後の瞬間までその人らしく生きることができ、一人ひとりの尊厳が守られるよう、施設理念を実践する。
2. 介護・医療の連携、他職種協働を推し進め、地域包括システムの具体的な取り組みやシステム作りに寄与できるように努める。
3. 介護・看護人材不足を補うために、多様な働き方や人材登用を行い、レベルの高い専門職人材の育成に努める。

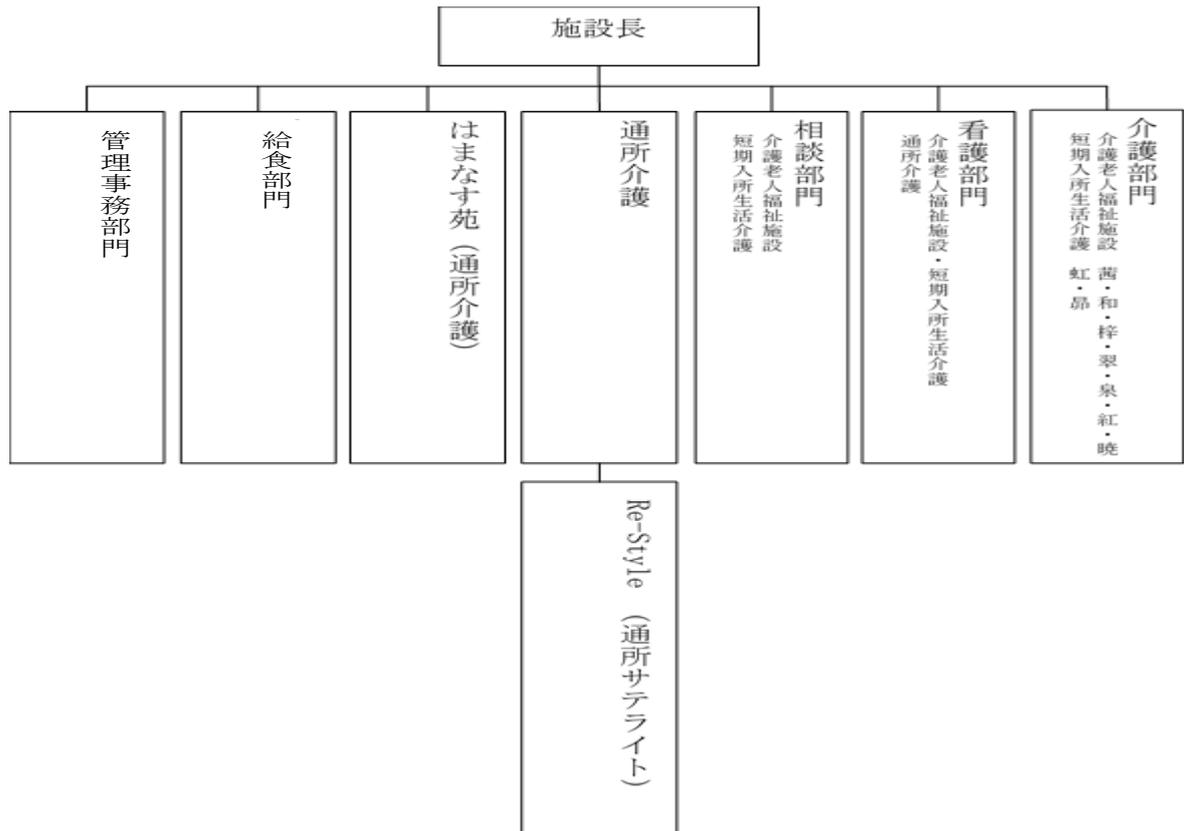
【中長期目標】

1. AI技術、介護ロボットの適切な導入を図り、安心・安全な環境を整え、介護現場の負担軽減と質の向上を図る。
2. 天橋の郷の介護マインド（聴く介護、感じる介護、考える介護）を深め、個別ケア・ユニットケアの充実を目指す。
3. 経年劣化や老朽化した設備・備品の入替え・修繕を計画的に進め、利用者の安心・安全・快適な居住環境作りに努力する。

【今年度目標】

1. 新人・中途採用を問わず、新たなる人材確保に努め、研修・教育体制を整えて高い技術力や知識を持つ職員育成に努める。
2. 医療機関や居宅事業所等と連携し、認知症ケア・看取りケアが適切に行われるよう、地域の実情把握を行い、必要なサービスや取り組みを実施する。
3. 空調設備、給水設備の修繕・入れ替え、LED照明の導入等を順次計画検討し、環境整備を行う。

【組織図】



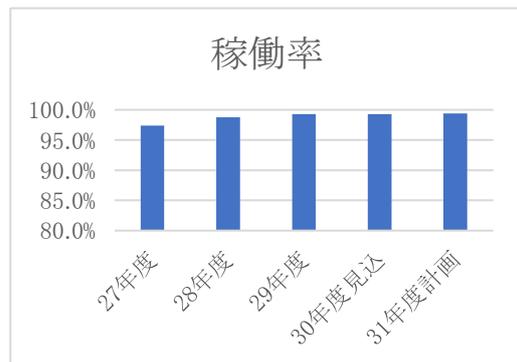
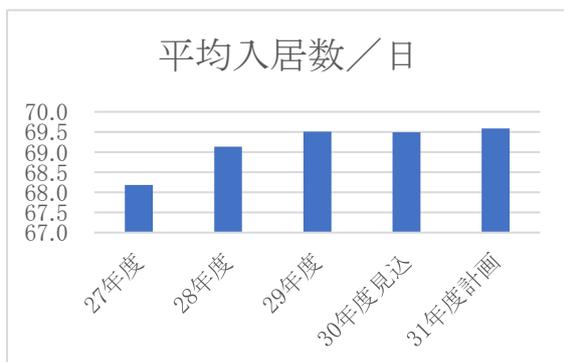
【事業計画】

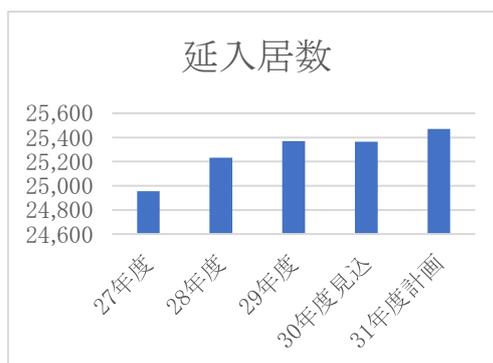
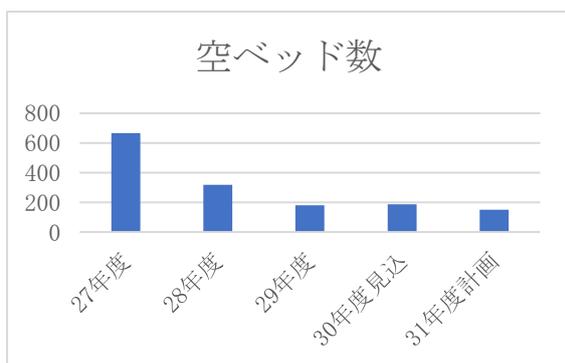
1. 介護部門

① 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

I 平成31年度目標

	27年度	28年度	29年度	30年度見込	31年度計画
営業日数	366日	365日	365日	365日	366日
延入居定員	25,620人	25,550人	25,550人	25,550人	25,620人
延入居数	24,954人	25,233人	25,369人	25,364人	25,470人
空ベッド数	666床	317床	181床	186床	150床
平均入居数／日	68.18人	69.13人	69.50人	69.49人	69.59人
稼働率	97.4%	98.8%	99.2%	99.2%	99.4%
平均介護度	3.9	4.0	4.0	3.9	3.9





II サービス内容

1. 入居者の尊厳を第一義的に考え、コミュニケーション力を培い、思いを引き出せる人間関係、安全で安心のある暮らしの中に喜びを感じられる環境作りに努める。
2. 看取り期の入居者が穏やかな最期を迎えられるよう、家族と共にその心情に寄り添った温かいケアの提供に努める。
3. 高齢化の進む地域において、長期空床利用の積極的受入れや実習生受入れ等、地域ニーズに応えられる体制を確立・維持し、地域が抱える課題解決に連携・支援する。

【茜】 入居者の生活スタイルが尊重される快適な住まいとなるユニットを目指す。

- ・価値観・多様性を理解し、個性や気持ち、その人らしさを引き出す。
- ・一人ひとりの出来る事を把握し、どこにサポートが必要なのかを明確にしたチームケアに努める。
- ・スタッフ間の情報共有を強化し、家族や他部署との「報・連・相」を密にする。

【和】 個性（本人らしさ）・多様性を尊重し、「生きる喜び」を共に感じ、笑顔で安心して暮らせるユニットを目指す。

- ・その人らしく最後の時を迎える瞬間においても、本人・家族の想いを深く受けとめ最善のケアを目指し支援する。
- ・個人アプローチするのではなく、本人目線に立ってチームアプローチ中心に行う（かくれんぼう「確認・連絡・報告」を活用する）。

【梓】 最後の瞬間まで一人ひとりの思いに寄り添い、その人らしさと尊厳を支え、関わる人誰もが悔いのないケアができるユニットを目指す。

- ・目の前の方を大切に、言葉と態度に気をつける。
- ・気づく力を養い、その人と家族の思いを汲み取り、最善と思われるケアの提供に努める。
- ・職員間の情報共有、他部署・家族への「報・連・相」に努め、課題を共有して改善、解決に結びつくよう努める。

【翠】 個々の尊厳を保持しながら、QOLの『幸福』を目指し、残された人生に生きるものの意味や価値を高め、その思いを支える。

- ・笑顔に始まり笑顔に終える日常、又その笑顔の中で安らかに心地よく過ごす日常、それらの関わりに共感し、喜びや楽しみを分かち合う。
- ・「食べること」に着目し、個々の嗜好や形態・状態に柔軟に応じ、食べることから楽しみや生きがいを見出す。
- ・最期の時までその人らしさを大切に、本人とその家族の想いに目を向け、耳を傾け、状態・状況に応じた最善のケアを見極め支援する。
- ・些細な事も見落とすことなく、常にユニット・他部署とも情報を密に共有し「あなた達なら安心」と感じて頂けるよう、チーム力の向上に努める。

【泉】 入居者一人一人の尊厳を守り、安心して穏やかに生活して頂けるユニットを目指す

- ・入居者との関わりを大切にし、寄り添いながら親切で丁寧なケアに努める。
- ・職員間で情報の共有を密に行い、一人ひとりにあったケアを考え実践する。
- ・本人や家族の想いを汲み取り、その方らしい最期を迎える事が出来るよう努める。

【紅】 一人一人の思いを尊重し、安心して生活が出来る場所、気持ちや和らぎ幸せを感じられるユニットを目指す。

- ・常日頃から入居者への気づきを増やし、それぞれの生活スタイルを把握してチーム全体で支える。
- ・一人一人に合った介護用品を使用し、入居者の機能維持を図ると共に安心、安全に生活が送れるように努める。
- ・最期の瞬間まで入居者と喜怒哀楽を共有し、満足した生活が送れるように寄り添うケアを行う。

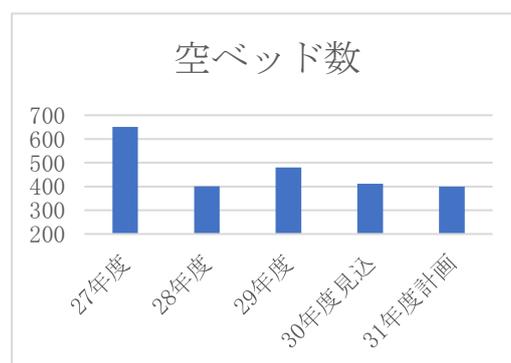
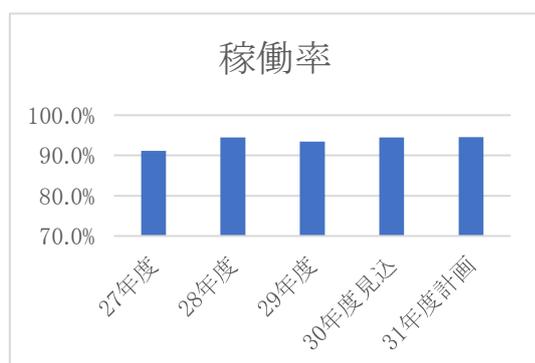
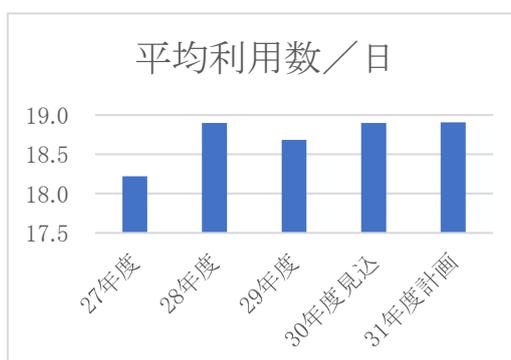
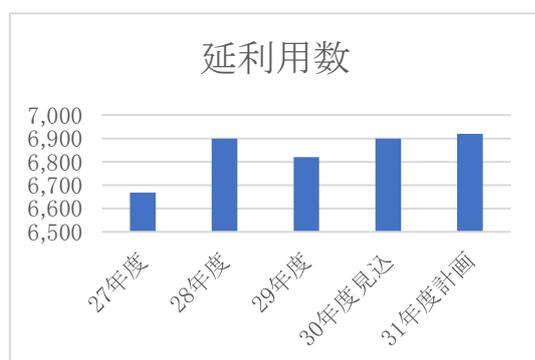
【暁】 入居者1人1人の想いを尊重し、満足して頂ける援助とは何かを考え実践して頂けるユニットを目指す

- ・普段の生活の中で発せられる何気ない言葉や小さな仕草から、何が求められているか、何が望まれているを察する力を身に付け、その人に応じた最善・最適なケアの提供に努める。
- ・常に介護技術・知識・コミュニケーション能力の修得を心掛け、やりがい・充実感・達成感のあるケアが出来るように日々の業務にあたる。
- ・他部署・家族と連携をとり、最期の瞬間までその人らしさを尊重したケアができるよう努める。

② 短期入所生活介護（ショートステイ）

I 平成 31 年度目標

	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度見込	31 年度計画
営業日数	366 日	365 日	365 日	365 日	366 日
延定員	7,320 人	7,300 人	7,300 人	7300 人	7320 人
延利用数	6,669 人	6,899 人	6,820 人	6889 人	6920 人
空ベッド数	651 床	401 床	480 床	411 床	400 床
平均利用数／日	18.2 人	18.9 人	18.6 人	18.8 人	18.9 人
稼働率	91%	94.5%	93%	94.3%	94.5%
平均介護度	2.83	2.77	2.5	2.6	2.6



II サービス内容

1. 全てのスタッフが「おもてなしの心」を意識し、利用者一人一人の在宅生活が継続できるよう、利用者や家族の要望に添ったケアの提供を行い、その人らしさや尊厳を保持し、施設理念の実践を行う。
2. コミュニケーション力・気づき力のある職員育成を図り、個別ケアの実践とレクリエーション活動の強化を進める。
3. 地域に向けて福祉専門職としての役割が担えるレベルの高い人材の育成を図り、介護教室の開催など地域へ発信する活動や連携に取り組む。

〔虹〕 「おもてなしの心」を忘れずに全員が笑顔で過ごし、“ここに来てよかった。また来たい”と書いていただけるユニットを目指す。

- ・利用者との会話や寄り添う時間を大切にし、在宅生活が安全に維持できるよう支援する。
- ・利用者の趣味や嗜好にあった楽しみ方やレクリエーションを提供し、リラックスできる空間作りを行い、話しやすい雰囲気づくりを心掛ける
- ・個人目標を設定し、定期的に振り返りを行いながら、常に職員が向上心・やりがいを持ってケアに取り組めるよう努める。

〔昂〕

利用者が自分らしさを発揮でき、「また来たい」と思い、選んでいただけるユニットを目指す。

- ・1人ひとりの要望や個性を尊重したケア
- ・思いや願いに寄り沿うサービスの提供。
- ・レクリエーションや行事など余暇を楽しんで頂ける空間作り。

2. 看護部門

I サービス内容

i 介護老人福祉施設

重度化した入居者も多く、高齢者の特性や加齢による身体的・精神的変化など様々な要因を理解した上で個々を知り、入所時から終末期において、嘱託医の協力のもと、他職種との連携強化を図り、個別ケアがチーム全体としてその人らしい生活が送れるように努める。

また、職員一人一人の知識・技術のレベルアップを図る事とし、チームリーダーとして、また指導の一員として看介護協働ケアにも繋げるように取り組む。

ii 短期入所生活介護

利用者の個々に応じた看護やケアが継続して行えるように、かかりつけ医や訪問看護などの他機関との連携を密に図り、利用者の健康管理に努める。

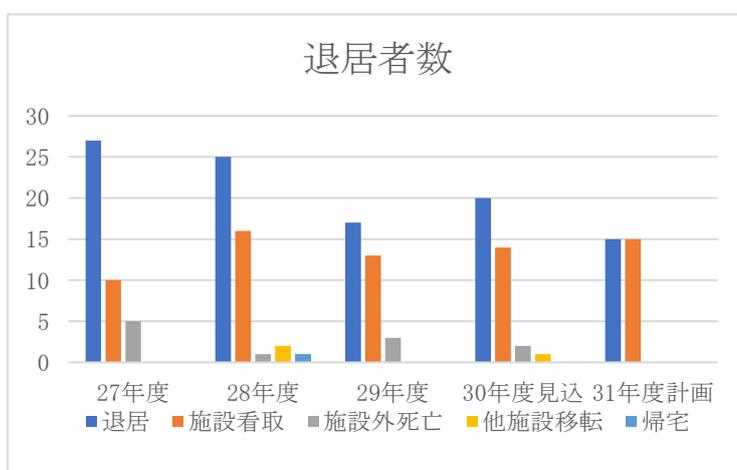
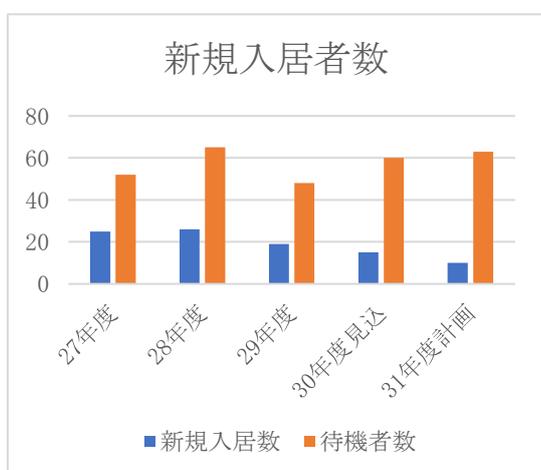
また、終末期であっても利用者の思いや家族の要望に沿ったケアができるようにチーム全体として取り組み、利用者が安心してケアを受け入れられるようにする。

3. 相談部門

I 平成 31 年度目標 契約

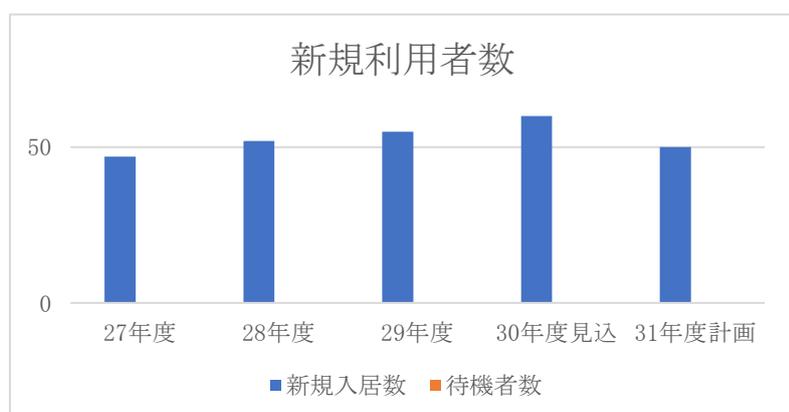
① 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度見込	31 年度計画
新規入居数	25 人	26 人	19 人	20 人	15 人
待機者数	52 人	65 人	48 人	60 人	63 人
退居者数	27 人	25 人	17 人	20 人	15 人
施設看取り	10 人	16 人	13 人	13 人	15 人
施設外死亡	5 人	1 人	3 人	1 人	0 人
他施設移転	0 人	2 人	0 人	1 人	0 人
帰宅	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人



② 短期入所生活介護（ショートステイ）

	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度見込	31 年度計画
新規利用数	47 人	52 人	55 人	60 人	50 人
待機者数	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人



II サービス内容

i 介護老人福祉施設

緊急度の高い待機者ほど他施設と並行して申請される為、新規入居者の受け入れには待機者の最新情報を細目に入手し、スムーズな入所に繋げる。また、居宅介護支援事業所や地域連携室と密に連絡を取り合い、あらゆる面において特養での暮らしを必要とする重度の要介護者を受け入れ、特養としての機能を発揮する。

また、看取り期に入られた入居者には、住み慣れたユニットや馴染みのスタッフの中で安心して最期まで過ごしていただけるよう家族や多職種と連携し、スタッフの優しい眼差しと手の温もりを感じていただけるケアに努める。

ii 短期入所生活介護

利用者・家族がいつまでも住み慣れた地域で、心身共に豊かに在宅生活が継続できるように、社会資源の一つとしての役割を担っていることを自覚・理解し、多種多様なニーズに対応できるよう他部署との連携強化、積極的な受け入れ、ケアの質の向上などに努め、地域住民に寄り添った、選ばれる事業所を目指す。

また、在宅での終末期におけるレスパイト目的の利用については、多職種協働のもと、在宅での質の高い看取りケアが行われるよう支援する。

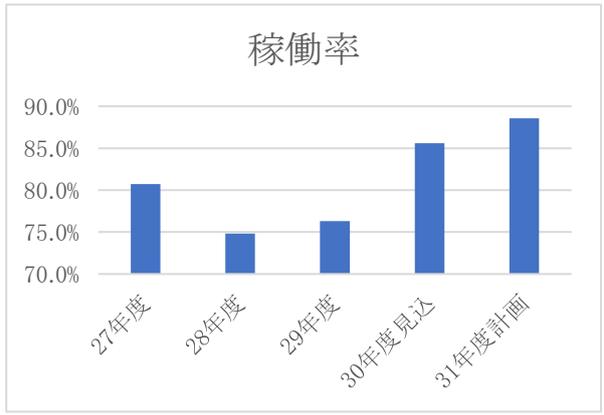
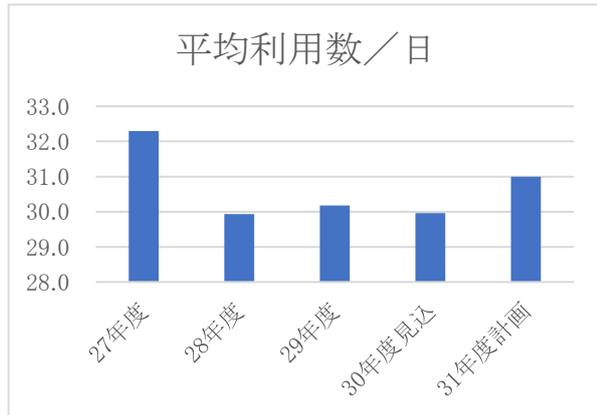
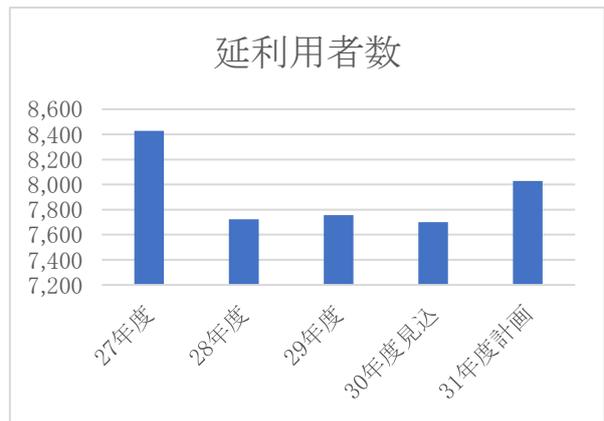
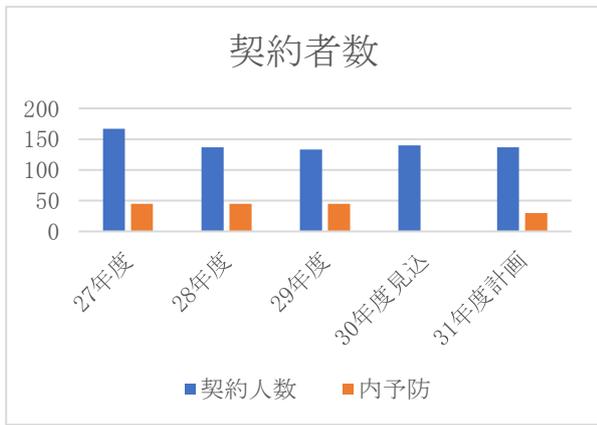
4. 通所介護

① 天橋の郷通所介護

I 平成31年度目標

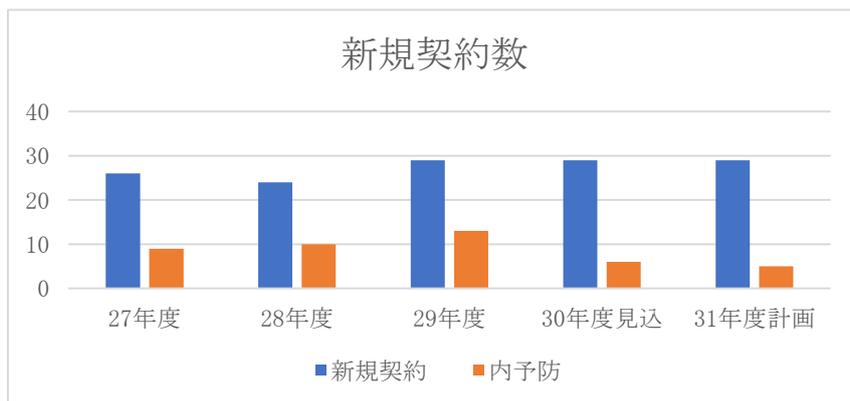
<稼働率> (定員：40名)

	27年度	28年度	29年度	30年度見込	31年度計画
営業日数	261日	258日	257日	257日	259日
延定員	10,440人	10,320人	8,995人	8,995人	9,065人
契約人数	167人	137人	133人	140人	137人
内 予防	45人	45人	45人	人	30人
延利用者数	8,428人	7,723人	7,756人	7,700人	8,029人
平均利用数/日	32.3人	29.8人	30.5人	30.0人	31人
稼働率	80.7%	74.5%	76.3%	85.0%	88.0%
平均介護度	1.5	1.3	1.3	1.3	1.3



<新規契約>

	27年度	28年度	29年度	30年度見込	31年度計画
新規契約	26人	24人	29人	29人	29人
内 予防	9人	10人	13人	6人	5人



II サービス内容

●小グループ活動の充実を図る。

利用者がグループを選択し意欲的、主体的に参加できるように、活動のプログラムを増やし、職員も余裕を持って各グループに配置・固定する事で利用者の意欲、可能性を引き出す。

◎ 物づくりグループ

- ・【手芸、創作活動】 手芸…冬に向かってのひざ掛けづくり、ハーバリウム、刺し子、紙ねんど等で季節感のある置物や小物を制作。
- ・【園芸】 季節の花や野菜栽培…・里芋（10月芋煮）、さつま芋、南瓜（茶巾しばり）、夏野菜（ピザ）他

収穫物を調理したり、制作物の展示や販売へと次に繋がっていく楽しみを持ち、充実感、達成感、満足感を実感し、活動を生活リハビリとして位置づける。

各曜日の利用者の特色に合わせ、手芸と園芸を分ける。

（園芸に関しては要支援グループが主となる）

◎ 運動グループ

- ・ペタボード、スナックゴルフ、スカイクロス他ニュースポーツを実施。
- ・テレビボーリング大会…毎月実施し、個人順位を競う事により意欲向上を図る。
- ・筋力トレーニング、転倒予防体操を行い、ADL低下を予防し体力を維持していく。

◎ 歌唱グループ

- ・音楽療法、回想療法を実施する。
リズム感ある歌体操や、季節感あふれる音楽を取り込む事により 認知機能の回復・維持を図る。
- ・四季の風景や時代背景が浮かんでくる歌を通してグループで思い出を語り合う。
- ・利用者同士の会話を重視し、憩いの場、和みの場を作る。

◎ 介護予防

- ・行きたい場所やしたいことなどの希望に応える「一日お出かけツアー」や「ポールウォーキングツアー」の企画
- ・園芸…野菜栽培、花づくり（火曜、木曜）

● 四季折々の行事企画

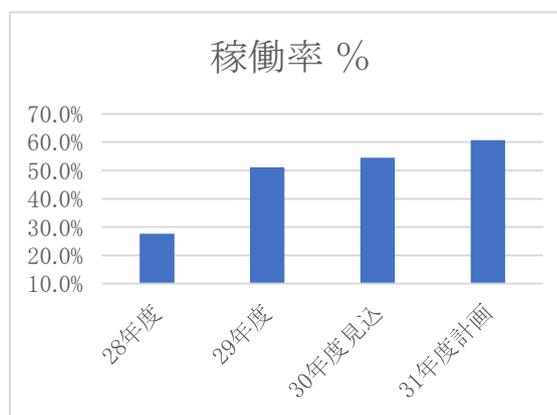
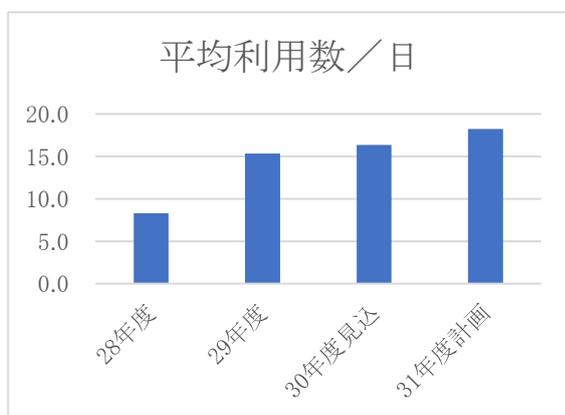
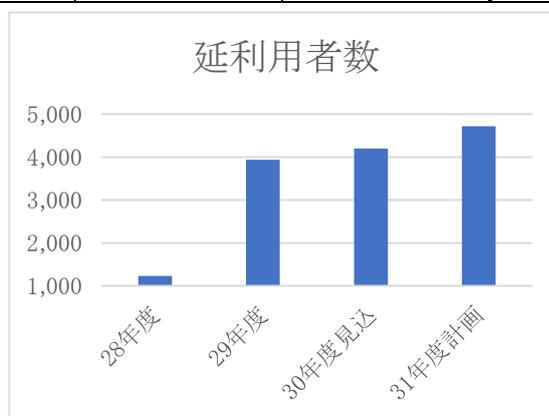
- ・お花見ドライブ、紅葉狩りドライブ、冬のみかん狩り
- ・物づくりグループの買い物ツアー
- ・四季のお菓子作り
お菓子作りを通して、季節感を味わっていただく。

② Re-Style (通所介護サテライト)

I 平成31年度目標

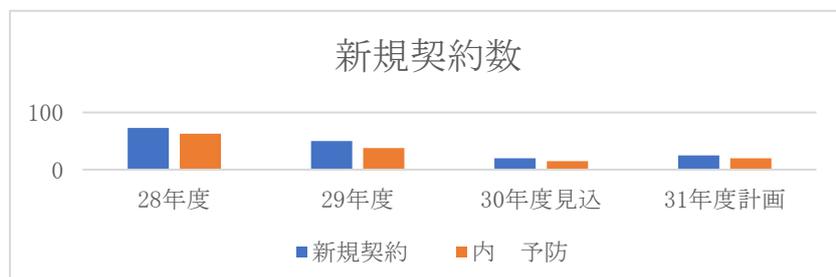
<稼働率> (定員：15名/ユニット 2ユニット/日)

	27年度	28年度	29年度	30年度見込	31年度計画
営業日数	日	148日	257日	257日	259日
延定員	人	4,440人	7,710人	7,710人	7,770人
契約人数	人	73人	104人	115人	118人
内 予防	人	63人	81人	95人	98人
延利用者数	人	1,227人	3,940人	4,200人	4,720人
平均利用数/日	人	8.2人	15.3人	16.5人	18.2人
稼働率	%	27.5%	51.1%	54.5%	60.7%
平均介護度		0.6	0.1	0.1	0.1



<新規契約>

	27年度	28年度	29年度	30年度見込	31年度計画
新規契約	人	73人	50人	20人	25人
内 予防	人	63人	38人	15人	20人



II サービス内容

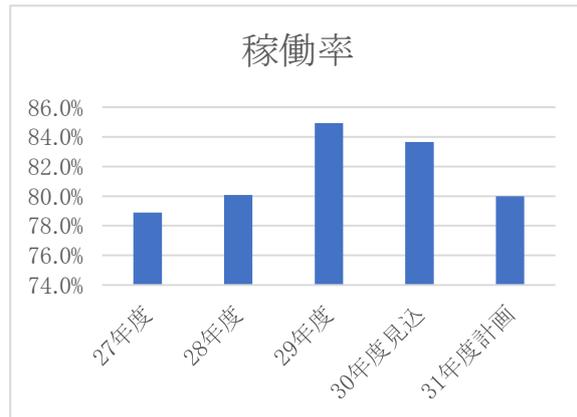
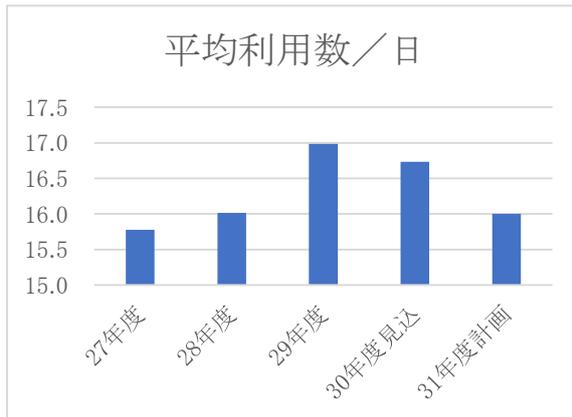
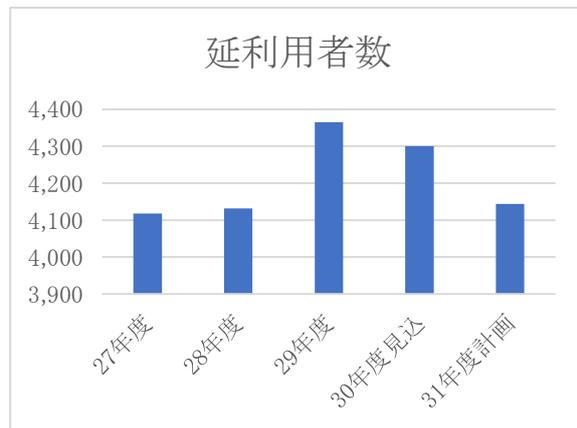
- 心身機能の活性化を図るパワーリハビリテーションを実施し、日々健康で自立した生活を送る事が出来るよう支援する
- 積極的にポールウォーキングを実施する事で、日常生活の基本である「歩く事」「立つ事」への強化を図る
- 行政（教育委員会）との連携を図り、地域の運動場でのグランドゴルフを実施する
 - ・ グランドゴルフツアー 春場所（5月） 島崎公園、滝上公園
 - 秋場所（10月） 島崎公園、滝上公園
- 定期的に外出ウォーキングを実施する事で、屋外で歩くことができる喜びや心身機能のリフレッシュを図る
 - ・ お散歩ウォーク （随時） 漁連駐車場
 - ・ お花見ウォーク （4月） SL 広場、板列神社ほか
 - ・ 紅葉ウォーク （10月） 海と星の見える公園
- 新しいスポーツに触れる事で、身体を動かす楽しさや、利用者同士の交流を促進する
 - ・ 夏期スポーツ大会（8月） ユニカール、ペタボード、ディスコンなどの
 - ・ 冬期スポーツ大会（2月） ニュースポーツを実施

5. はまなす苑（通所介護事業）

I 平成 31 年度目標

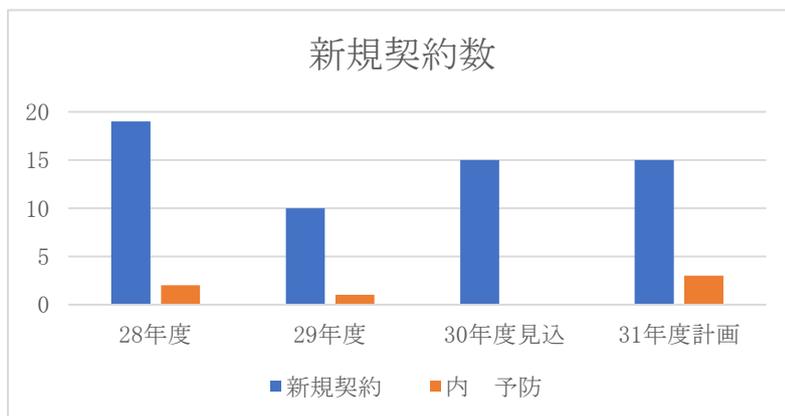
<稼働率>（定員：20名 ※26年度のみ定員 23名）

	27年度	28年度	29年度	30年度見込	31年度計画
営業日数	261日	258日	257日	257日	259日
延定員	5,220人	5,160人	5,140人	5,140人	5,180人
契約人数	60人	51人	50人	55人	55人
内 予防	10人	7人	6人	0人	5人
延利用者数	4,118人	4,132人	4,365人	4,300人	4,144人
平均利用数/日	15.9人	16人	17人	16人	16人
稼働率	79.3%	80%	85%	83%	83%
平均介護度	1.7	1.8	1.9	2.0	2.0



<新規契約>

	27年度	28年度	29年度	30年度見込	31年度計画
新規契約	人	19人	10人	15人	15人
内 予防	人	2人	1人	0人	3人



II サービス内容

孤立しつつある地域で日常生活を送るにあたり、在宅サービスの一つである事業所として、その地域で暮らす利用者・家族の様々なニーズに対応したサービスの提供を目指す。また他サービスと連携を取り、社会的孤立感の解消・心身機能維持並びに家族の身体的・精神的負担の軽減を図る事も視野に入れ、職員一丸となって取り組む。

●個別活動の充実

個々の身体能力や認知機能に合った脳トレクイズ・塗り絵・歌唱・手芸など幅広いツールを準備し、『聴く・感じる・考える』を意識して、利用者の持つ力や意欲を引き出せるよう取り組む。

●レクリエーションの充実

- ・身体機能維持・認知症予防を目的として体を動かす・指先を使う・頭を使う・音楽を使う等を取り入れたレクリエーションを充実させる。
- ・身体機能に関係なく誰でも参加できるよう工夫し、「参加意欲につなげる。一週間を通して同じ内容を行う事で個人目標も立てられ、モチベーションを保つことが出来る。
- ・適度に身体を動かすことにより食欲増進・快眠・排泄コントロールなど生活リズムを整える効果をねらいとする。

●四季の行事

- ・季節感を感じるドライブ・故郷めぐりドライブ
季節の風景や草花に接して心身のリフレッシュを目的とする。故郷の風景や街並みをめぐり、同郷の方と昔を懐かしみ活気ある日常を取り戻す。
- ・お買い物ツアー・外食ツアー
老老介護・独居の世帯が多くなり、公共交通機関の不便な孤立地域では閉鎖的になりがちのため外出をすることで食事をする楽しみ、洋服を選ぶ楽しみ等特別な日を設けてメリハリのある日常生活の喜びを提供する。
- ・園芸
かつてはされていた野菜作りや草花の手入れを、みんなで協力して取り組むことによって「まだ、出来る!!」を感じていただき、身体機能回復・意欲向上につなげる。
 - ※車椅子の方でも庭に出られるように整備する。
 - ※松の木の根が張り作物に影響がある為、撤去する。
 - ※実のなる樹木などを植え、調理レクに活用する。
- ・行事食
二十四節気や季節の行事を準備し、特別な日の食事を大勢で会話をしながら食べる楽しみを味わってもらおう。食欲増進・認知症予防もねらいとする。
お正月・お雛様・お花見・七夕・敬老・クリスマス、その他利用者からも要望を聞き実現させる。
- ・ボランティアの受入れ
定期的に琴演奏・オカリナ演奏・フラダンスなどの生の公演を鑑賞し、地域の方との交流や非日常を体感し心身の活性化に繋げる。

6. 給食部門

i 栄養

- ・利用者一人ひとりが、毎日の食事に楽しみや喜びを感じ、食べる意欲を引き出せるような食事、また、健康が維持できる食事を提供できるように、その人らしい栄養プランの作成に努める。
- ・終末期においても、本人の意思を尊重しながら、無理なく、できる限り口から食事が摂取でき、最後の瞬間までその人らしく過ごして頂けるようにサポートする。

ii 調理

- ・できる限り地元の新鮮な身体に優しい食材を使用し、季節感のある美味しい料理、楽しみとなる料理を作ることに努める。又、個別の利用者のニーズに対応し、介護食や代替え料理にも、美味しさを追求する。
- ・職員の教育体制として、日々の業務の中でコミュニケーションを大切にし、調理知識や調理技術を教えあえるチーム作りに取り組む。
- ・配食弁当は、一人暮らしの利用者のことを想い、丁寧に気持ちを込めて作り、盛り付ける。又安否確認は地域における重要な任務であると心得る。

7. 管理事務部門

I 平成31年度目標

天橋の郷、はまなす苑の現状を各事業所主任、相談員との「報・連・相」を確実に
行い経営の中枢を把握し健全な運営が行えるよう総合的に管理を行い、より良いサー
ビス提供に繋がるよう環境、備品、物品など管理・発注・検討等を行う。

天橋の郷、はまなす苑共に老朽化に伴う修繕を計画的に行う必要があり、また各
事業所の在り方についても検討する必要がある事から以下の事を課題として取り組
む。

天橋の郷

【環境面】

- ・空調入れ替えについて検討、計画、実施を行う
- ・給水設備について、入れ替え、修繕の検討を行う
- ・LED化について検討、計画を行う

【経営面】

- ・人材確保について活動を行う
- ・通所介護事業所（サテライト）の独立運営を検討

はまなす苑

【環境面】

- ・指定管理事業所であり物品処分や建物修繕（ボイラー室ボイラー架台の補強修繕）等宮津市と検討協議を行う
- ・リースアップ車がある為、福祉車両軽自動車1台の購入を検討

【経営面】

- ・地域のニーズに応え得るサービス展開を考える。

II サービス内容

i 地域貢献

(1) 実習・研修の受け入れ

- ・次世代担い手育成事業（栗田中学校）
- ・看護学生実習受け入れ（京都府立看護学校）
- ・介護実習生の受け入れ
- ・民生委員等研修受け入れ
- ・施設見学等

(2) 地域住民に向けての活動（居宅調整委員会が中心となり各事業所が連携して実施）

- ・介護の日（オープンデイを11/11付近で開催）
- ・認知症カフェ（栗田地区・毎月第二金曜日開催）
- ・家庭介護教室・出前講座等（地域の公民館などで開催・不定期）

(3) 配食サービス

地域でのニーズに基づいて実施

	介護配食	持ち帰り弁当
29年度	418食	1,469食
30年度見込み	1,144食	2,963食
31年度計画	1,150食	2,980食

(4) ボランティア受け入れ

- ・朗読：あめんぼ様 第3水曜日
- ・民謡：玉穂会様 第3金曜日
- ・傾聴ボランティア：社会福祉協議会様 月1回
- ・体操教室：榊本様 不定期
- ・歌とギター：オールデイズ様 年3回
- ・歌とギター：カレンド様 不定期
- ・ブラスバンド：宮津高等学校吹奏楽部様 12月20日頃

(5) 年間行事計画の策定

計画内容	開催予定日・回数	対象者	担当者
お花見ドライブ	4月	長期・SS利用者	ユニットスタッフ
郷食堂	5月・11月	長期・SS利用者	支援室・ユニットスタッフ
流しそうめん	7月・8月	SS利用者	ユニットスタッフ
餅つき	12月	SS利用者	ユニットスタッフ

利用者の願いを叶える企画	不定期	長期・SS利用者	ユニットスタッフ
敬老会	9月	長期	ユニットスタッフ
クリスマス企画	12月	長期・SS利用者	ユニットスタッフ
お正月企画	1月	長期・SS利用者	ユニットスタッフ
節分祭	2月	長期・SS利用者	ユニットスタッフ
バレンタイン企画	2月	長期・SS利用者	ユニットスタッフ
ひな祭り	3月	長期・SS利用者	ユニットスタッフ
フェスタ	10月頃	地域・利用者	全職員

(6) 会議

会議名	開催予定日・回数	出席対象者
業務運営会議	12回/年	施設長・各主任・管理栄養士 生活相談員・生活支援専門員
長期会議	12回/年	施設長・介護主任・長期ユニットリーダー・ 長期生活相談員・生活支援専門員
SSリーダー会議	12回/年	SS主任・SSリーダー・SS相談員
デイ会議	12回/年	デイ職員
はまなす会議	12回/年	はまなす職員
Re-Style 会議	12回/年	Re-Style 職員
職員会議	1回/年	全職員
入所判定会議	12回/年	施設長・介護主任・介護副主任・看護主任・ 生活相談員・生活支援専門員
給食会議	6回/年	管理栄養士・調理主任・長期、SS、DS各主任・ 長期、SS生活相談員・生活支援専門員
医務会議	12回/年	医務職員
調理会議	12回/年	調理職員

(7) 委員会

委員会名	委員名	開催予定・回数
感染症予防対策委員会	感染症予防対策委員	12回/年
排泄ケア委員会	排泄ケア委員	6回/年
褥瘡予防委員会	褥瘡予防委員	6回/年
安全衛生委員会	安全衛生委員	12回/年
看取りケア委員会	看取りケア委員	12回/年
認知症ケア委員会	認知症ケア委員	12回/年
身体拘束廃止・事故発生防止委員会	身体拘束廃止・事故発生防止委員	12回/年
フェスタ委員会	フェスタ委員	6回
居宅部門調整委員会	居宅部門調整委員	12回/年

(8) 研修

●内部研修

開催主体	開催予定日	参加対象者
排泄・褥瘡委員会	4月	全職員
感染症予防委員会	5月・10月	全職員
認知症ケア委員会	8月	全職員
事故防止委員会	6月・12月	全職員
拘束廃止委員会	6月・12月	全職員
安全衛生委員会	11月	全職員
看取り委員会	7月	全職員
実践報告会	3月	全職員

●外部研修

研修名	開催予定日	参加対象者
新人職員研修	5月	全職員
福祉職のためのマナー研修	5月	全職員
認知症介護実践者研修	6月	介護職員
認知症介護実践者リーダー研修	9月	介護職員
認知症介護基礎研修	9月	介護職員
身体拘束ゼロ推進研究委員会リーダー職員研修会	9月	介護職員
デイサービス職員研修会	10月	デイサービス職員
ユニットリーダー研修	6月 12月	介護職員
入所施設感染症予防対策研修会	11月	全職員

介護老人保健施設リハ・ヴィラなぎさ苑 事業計画書

なぎさ苑 3つのケア方針

1. なぎさ苑は、その方らしい生活を支援します
2. なぎさ苑は、その方の持っている能力を引き出します
3. なぎさ苑は、笑顔を大切にします

【基本方針】

平成 30 年度に公布された介護保険法改正により、介護老人保健施設の事業を展開する対象者について、「要介護者であって、主としてその心身の機能の維持回復を図り、居宅における生活を営むための支援を必要とする者に対し…」との記載が加えられたことにより、地域における在宅生活維持のために老健が担うべき役割が明確になりました。さらに省令においても「在宅支援・在宅復帰のための地域拠点となる施設」、「リハビリテーションを提供する機能維持・回復の役割を担う施設」であることが明記されました。このことを踏まえ、なぎさ苑は丹後地域における高齢者の在宅生活支援と在宅復帰を推進すべく事業を展開していきます。

また、なぎさ苑は宮津市の高齢者保健福祉計画や介護保険事業計画を踏まえ、宮津市を含む丹後地域の医療・保健・介護などの福祉計画に寄与するよう、地域住民や行政、近隣の医療機関等と協力し事業を推進します。

平成 30 年度公布の介護保険法改正により、介護老人保健施設事業の対象者について、「要介護者であって、主としてその心身の機能の維持回復を図り、居宅における生活を営むための支援を必要とする者に対し…」と、在宅復帰と在宅生活維持の支援が明確に記載された。省令においても「在宅支援・在宅復帰のための地域拠点となる施設」「リハビリテーションを提供する機能維持・回復の役割を担う施設」であることが明記された。これらの改正により、「地域において高齢者の在宅生活維持における老健の役割がさらに重要性を持つ事になった。」

【今年度の重点項目】

平成 31 年度、なぎさ苑では以下の 5 項目を重点的に取り組みます。

1. 在宅復帰・超強化型の算定、その他の加算獲得と維持

なぎさ苑では、平成 30 年度に新設された「在宅復帰・超強化型」や排泄支援加算等を算定し維持することにより、介護保険収入の大幅な増額が実現しました。平成 31 年度も必要な各専門職員の確保と人材育成、研修活動に取り組み、専門的サービスを提供できる体制を維持・拡充し、在宅復帰と在宅生活支援機能を提供できるよう、引き続き超強化型算定を維持・継続できるよう取り組みます。

2. ナースコールシステムの更新と運用

平成 30 年度補正予算で承認されたナースコールシステム更新が完成し稼働する見込みであることから、ナースコールやビデオモニターによる利用者の急変や転倒予防等のリスク管理、虐待防止・防犯対策などの安全性向上、固定電話と PHS の連携や大型モニターの新設による職員間の情報共有やコミュニケーションの円滑・迅速化、LAN ケーブル更新による業務の効率化などの効果が期待されます。

3. 居宅介護支援センターの整備、各専門職の確保と人材育成、研修活動

「入院から在宅への流れ」に対応し、リハビリテーションや介護・医療、栄養管理、口腔ケア、感染症や認知症対応、看取りなど、施設での介護に限ることなく、居宅介護支援や訪問リハなどの在宅支援や地域貢献など、巾広く地域のニーズに応えられるよう環境を整備し、各専門職の採用や人材育成に取り組み、経営基盤の強化に資することを目指します。

4. 法人本部と連携した事務業務分掌の見直しと職員の補充・再配置

法人本部機能の強化に伴い、各事業所においても事務業務の見直しが求められていることから、事務業務分掌の見直しを本部と連携して行います。欠員となっているなぎさ苑事務長の補充人事と合わせ、職員の配置と事務分掌の見直しを進めます。

5. 空調システム更新を見据えた再生可能エネルギー活用に関わる研修活動

懸案となっていた空調システムの更新についても、急速に変化するエネルギー供給と再生可能エネルギーに関する情報収集と効率的で環境に配慮した空調システムに関する研修をすすめ、翌年度（2020 年度）の業務計画に盛り込めるよう準備をすすめます。

【中長期目標】

1. 在宅復帰・在宅生活維持支援施設としての機能強化と質の向上

- ・ 支援相談員・施設ケアマネと居宅ケアマネの有機的な連携
- ・ 訪問サービス強化の環境整備、リハビリ専門職と介護支援専門員の整備・協力体制
- ・ 多様なサービス（訪問リハ、通所、短期入所、居宅）の連携した提供による在宅支援
- ・ 多職種間の連携、チームケアの推進

2. 人材育成

- ・ なぎさ苑の3つのケア方針の推進
- ・ 介護支援専門員（ケアマネ）の養成・増員、居宅ケアマネと施設ケアマネの配置
- ・ 専門職（看護職、介護職、リハビリセラピスト、管理栄養士・調理員ほか）
- ・ 他部門研修・他職種との連携（リハビリ、口腔ケア、栄養管理指導）
- ・ 資格取得、キャリア段位取得
- ・ 法人内他施設との人事交流
- ・ 施設内研修（OJT）と施設外研修（Off-JT）、研究会等への参加支援

3. 施設設備、備品の改修

- ・ ナースコールシステムの更新
 - ◇ ナースコール：介護カルテシステム（ちょうじゅ）、PHS との連携
 - ◇ 固定電話機：外線電話の PHS との連携
 - ◇ ビデオモニターシステム：デジタル録画、保存機能
 - ◇ LAN ケーブル更新：施設内 IT ネットワーク環境整備、業務効率化・迅速化、
 - ◇ 大型モニターの新設・導入（表示機能、カレンダー機能、情報共有）
- ・ パソコン、携帯型端末などの増設、整備
- ・ 空調設備の改修へ向けた情報収集、再生エネルギー活用の研究

4. 地域貢献

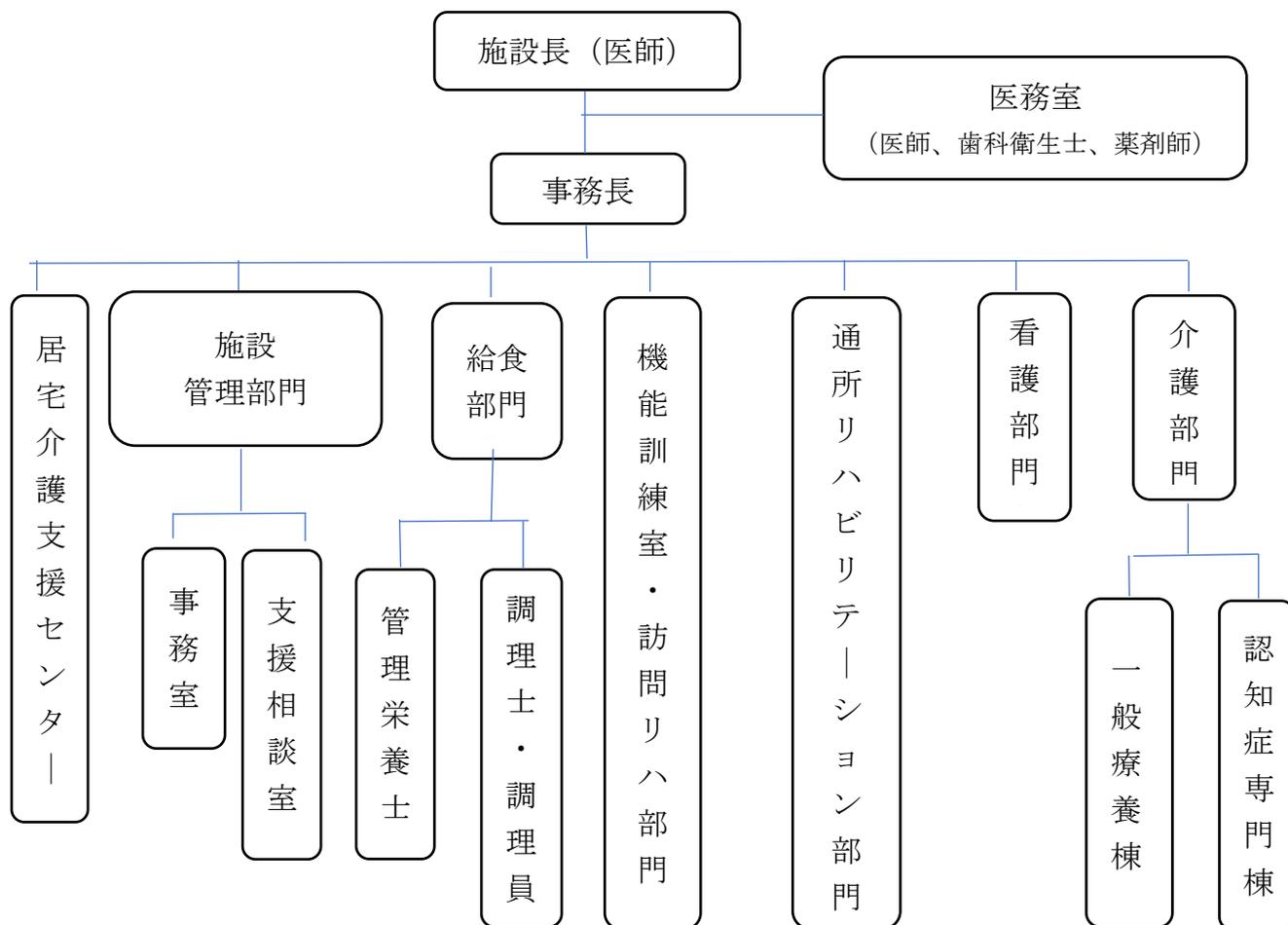
- ・ 法人本部と連携・協力し、なぎさ苑で宮津市総合支援事業を実施
- ・ 多職種専門職の宮津市総合支援事業への参加・協力
- ・ 京都府立医科大学北部医療センターなどの地域医療機関との連携
- ・ 地域サロン、勉強会、行政が行なう研修会等への職員の講師派遣
- ・ 学生の実習や体験学習の受入
- ・ 認知症カフェ、サポーター養成講座、健康講座などの実施・継続

5. 経営基盤の確立

- ・ 安定した利用者の確保（在宅復帰強化型・稼働率の維持、通所、訪問リハ、居宅）
- ・ 職員全員がコスト意識を持ち主体的に運営に参画し、業務効率化を図る
- ・ 職員の健康管理意識を高める（健診の徹底、年休、特休、リフレッシュ休暇の活用）
- ・ 法人本部への業務の集約化と効率化、業務分掌の見直しをすすめる。

【組織図】

介護老人保健施設リハ・ヴィラなぎさ苑



部署別事業計画

(1) 支援相談室

老健の在宅復帰・在宅生活維持支援の役割が明確化されたことに伴い、平成 30 年度介護報酬改正により、以下のような指標が点数化されました。これにより在宅支援への取り組みが評価・格付けされ介護報酬に反映されるようになり、**在宅復帰・在宅生活支援の貢献度と評価により老健は5つの段階（超強化型、強化型、加算型、基本型、その他型）に類型化されました。**当施設では4-5月は強化型を算定、6月以後もっとも評価の高い超強化型の算定を継続して行うことにより、高い介護報酬をえて経営基盤の強化に資することができ、多様な専門職（看護、介護、リハビリ、調理員など）にわたって新規に人材を採用することができました。

平成 31 年度も年間を通して継続して超強化型を取得できるよう、在宅復帰・在宅生活維持支援等の指標を支援相談室が中心となって小まめに把握し、施設内の業務運営委員会などを通じて情報を各部署の主任と共有、職員の意識改革をすすめながら、在宅復帰・在宅生活維持支援に係る超強化型の算定維持に努めていきます。また各種研修会等にも参加し情報収集、資質の向上、各関係機関との連携に努めます。

【在宅復帰・在宅療養支援等指標】	平成 30 年見込	獲得点数	平成 31 年度目標
1. 在宅復帰率	平均 70.7%	20 点	毎月 50%以上
2. ベッド回転率	平均 16.8%	20 点	毎月 10%以上
3. 入所前後訪問指導	平均 45.2%	10 点	毎月 30%以上
4. 退所前後訪問	平均 62.2%	10 点	毎月 30%以上
5. 居宅サービス実施数	3 サービス	5 点	3 サービス継続
通所リハ、訪問リハ、短期入所			
6. リハ専門職の配置人数	10 人	5 点	10 人以上
7. 支援相談員の配置人数	4 人	5 点	4 人以上
8. 重度者割合（要介護 4+5）	42.5%	3 点	----
9. 喀痰吸引の実施割合	0 %	0 点	----
10. 経管栄養の実施割合	0 %	0 点	----
指標点数/合計		78 点	75 点以上
入所稼働率	97.8%		97.5%以上

【算定要件】（基本型以上を算定するための要件）

- 退所時指導等（a. 退所時指導の実施、b. 退所後の状況確認<1か月以内>）
- リハビリテーションマネジメント（リハビリ計画策定と評価の実施）
- 地域貢献活動：**加算型以上は必須**
- 充実したリハ（少なくとも週3回程度以上のリハビリ実施）：**強化型以上は必須**

【平成 30 年度新設項目】	（実績見込）	平成 31 年度目標
入所前後訪問指導	70 回	80 回
褥瘡マネジメント加算	140 回	200 回
排泄支援加算	300 回	360 回

【過去4年間の実績】

●入所（長期入所、短期入所）（定員：100名）、（短期入所は空床利用型）

	27年度	28年度	29年度	30年見込	31年計画
営業日数	366日	365日	365日	365日	366日
入所定員	100人	100人	100人	100人	100人
延べ定員	36,600人	36,500人	36,500人	36,500人	36,600人
長期入所延べ 人数(1日平均)	34,423人 (94.0人)	34,506人 (94.5人)	34,434人 (94.3人)	34,488人 (94.5人)	34,587人 (94.5人)
短期入所延べ 人数(1日平均)	1,231人 (3.3人)	1,309人 (3.5人)	1,141人 (3.1人)	1,184人 (3.2人)	1,098人 (3.0人)
延べ人数合計	35,654人	35,815人	35,575人	35,672人	35,685人
稼働率	97.4%	98.1%	97.6%	97.7%	97.5%
長期平均介護度	2.9	3.0	3.1	3.1	3.1
短期平均介護度	2.5	2.6	2.6	2.6	2.5

	27年度	28年度	29年度	30年見込	31年計画
新規入所人数	102人	85人	78人	85人	90人
退所人数	205人	170人	170人	170人	170人
在宅復帰 (在宅系サービス含)	102人	99人	94人	115人	110人
特養・老健	52人	39人	44人	25人	30人
入院	39人	24人	19人	18人	20人
死亡	6人	8人	14人	8人	10人
在宅復帰率	52.0%	60.7%	59.9%	70.7%	毎月 50%以上
(短期入所) 新規利用数	16人	19人	8人	22人	20人

【施設ケアマネ業務】

- (ア) 電子カルテシステムとR4ケアマネジメント方式を積極的に活用し、在宅介護と施設介護の途切れない施設ケアマネジメントを行います。
- (イ) サービス担当者会議を定期的開催し、他職種と協同してケアプランの作成と情報の共有に努めます。新しく設置される大型モニターを活用しケアプランカンファレンスの効率的な運用を図り、ペーパーレス化をすすめます。
- (ウ) 全ての利用者に対し家族と各職種をつなぐ役割を担い、本人や家族の意向をケアプランに反映させます。とりわけ、看取り対象者に対しては緊密な橋渡し役を果たすよう努めます。

【支援相談員業務】

- (ア) 入所前インテークの段階から利用目的、利用期間を明確にし、効率的なベッドコントロールを行っていきます。
- (イ) 入所稼働率年間平均 97.5%を目標に、空床の効率的な活用を図ります。
- (ウ) 平成30年度の介護報酬改定で新設された超強化型の算定維持を目標に支援相談業務をすすめます。入所前後・退所前後訪問指導については他職種と連携し実施します。
- (エ) 他部門（居宅や通所、訪問リハ等）や地域の医療機関・介護施設や事業所などの各関係機関と積極的に連携し、新規利用者獲得に努めます。
 - ・ 北部医療センター等の医療機関と連携し、退院される方の入所を調整します。
 - ・ 自治体の包括支援センター、医療機関の地域連携室やMSWとの定期的な協議の場を作るなどして地域内の医療機関や介護施設との連携を強化し、円滑な連携業務の推進を図ります。
 - ・ 情報ネットワーク委員会と協力し、ホームページ等を使い空床情報の発信を行います。
 - ・ 随時、各居宅介護支援事業所や介護施設宛てに空床情報を送るなどして効率的な運用に努めます。
 - ・ 新規利用者獲得のため、定期的に各居宅介護支援事業所等を訪問し連携を強化します。
- (オ) 利用者・地域と一体となった取り組みを行い、地域貢献活動を行なっていきます。
 - ・ なぎさ苑利用者家族懇談会の開催を年2回行います。
 - ・ 認知症カフェ（なぎさカフェ）を毎月1回、開催します。
 - ・ 地域、小学校への認知症サポーター養成講座の派遣等を行います。

(2) 介護部門

(一般療養棟)

暮らしを支える専門職として日常の暮らしの中での細やかな気付きを見つける力を養い、その時々で最善のケアを選択・実践することを目指します。

- (ア) 在宅復帰支援に向けて、各専門職との連携を密にし個々の能力に応じた生活リハビリに取り組むことで機能維持をはかり、復帰後の在宅生活がより良いものになるよう支援します。
- (イ) 一般棟においても重要な課題である認知症ケアでは、その時々が必要とされる接遇について一人一人の職員が利用者を知る努力をし、穏やかに施設での生活を過ごしていただけるような関わりを持つよう努めます。また、昨年度に引き続き地域に向けた認知症ケアについても関わりを継続し、職員のスキルアップに繋げていきます。
- (ウ) 看取りケアについては昨年と同様「衣・食・住」において病状の変化に合わせたケアが提供出来るよう専門職ならではの気付きを大切に他職種と連携を深め、人生の最終段階を穏やかに迎えらるよう支援します。
- (エ) ナースコールシステム更新とPHS増設により、働く環境整備を行い、入所者への機敏な対応を図ります。また、携帯型端末の更新で入力業務の正確性を高めていきま

す。これらのツールを用い、事故防止対策や職員のリスク意識の向上に取り組みます。人材育成に関しては、職員の「働きやすさ」も追求しながら年間を通しての内部研修等への参加の促し、OJT の評価基準のマニュアルに基づきチェックシートを用いて介護のスキルアップとフィードバックを行い、介護士として根拠に基づいたケアの実践・振り返りを大切に、職員同士が指摘し合える関係を築くことでフロア全体のケアの質向上を目指します。

(認知症専門棟)

認知症利用者の「安心」「安全」「安楽」な生活を守り、多職種協働のもと「機能回復・維持」「生きがい」に繋がるケアの提供ができるよう以下の取り組みを行います。

- (ア) OJT の評価基準を基に各職員の知識、技術の把握をし、指導、研修を通して統一したケア、質の高いケアを行っていけるよう努めます。また、職員の現在置かれている立場や、職務、責任の明確化を行います。そして、ユニットリーダーを中心にフロア、ユニットの課題、目標の具体化を行いフロア全体で取り組んでいけるよう努めます。
- (イ) 認知症の基礎知識、周辺症状の観察力を高め、利用者一人一人のニーズに沿ったケアを行い不安なく落ち着いた生活が送れるよう支援していきます。また、認知症カフェや地域研修にも積極的に参加し地域に根差したケアに努めます。
- (ウ) 各利用者担当職員、ユニットで利用者一人一人に多方面から状態観察を行い、その集めた情報から課題の分析、統合をし、個別のニーズに沿ったプランの立案、ケアの提供が行っていけるよう努めます。
- (エ) ナースコールシステムの更新と稼動により、これまで以上に多職種共同のもと利用者の状態の把握、徹底した記録の入力、管理をすること、ひやりハットの検証を行うことで重大な事故を防ぐと共に、増設により一人一台の PHS をもつことができ、「報告、連絡、相談」を円滑に行なえるよう努めます。また、感染症についても、手指消毒、環境の整備、清潔の保持を徹底し、職員の体調管理に力を入れ拡大防止に努めます。
- (オ) 積極的な実習生の受け入れ、外部への講師派遣、HP への記事の提供、地域参加を行い、人材確保に努めます。

(3) 看護部門

利用者と向き合い、家族の意向を尊重したケアと看護を実践するとともに、利用者が安全・安楽な療養生活を提供できるよう、多職種協働を担う看護師として看護スタッフや他職種とのコミュニケーションに努めます。認知症ケアの一翼を担うにあたり、利用者の意思決定など倫理的課題を意識する姿勢を大切にします。

- (ア) 既往歴、病状の把握に努め、慢性疾患の増悪時には速やかに対応し、安定した入所生活が継続できるよう努めます。
- (イ) 看護職員 OJT プログラムを整備、研修会への参加支援を行い看護職員のフィジカルアセスメント能力の向上を目指します。
- (ウ) 感染症流行時期・発症時の対応策の周知に努め施設内での感染拡大を防ぎます。

最新の対策を講じるため看護職員を感染症リーダー研修・専門研修に派遣します。多職種に対しても感染防御用具の取り扱い、標準予防策に関するトレーニングプログラムを実施します。

- (エ) 転倒による骨折、頭部外傷等の事故を防ぐため、リスクアセスメントの実施による客観的な評価、転倒時の衝撃緩和対策の強化を行います。
- (オ) 対象となる入所者に対して排せつ支援計画書の作成を行い、多職種協同のもと排泄動作の自立支援に努めます。
- (カ) 対象となる入所者に対して褥瘡マネジメント計画書の作成を行い、多職種協同のもの褥瘡の予防、褥瘡の治療に努めます。
- (キ) 利用者確認のシステムを検討し、認知症の利用者に対する誤薬、ご配食防止の方策を検討します。
- (ク) 利用者やその家族の意思決定の支援と共に、信頼の構築へと繋がるような丁寧な情報提供に努めます。
- (ケ) ナースコールの更新、大型ディスプレイの導入に伴い、医療情報の提供を開始し、多職種との情報共有の充実を目指します。
- (コ) 府立看護学校の実習施設として、老年看護を総合的に指導できるよう実習指導計画書の作成に取り組みます。

(4) 通所リハビリテーション部門

利用者が住み慣れた地域や自宅で安全・安楽に在宅生活が可能な限り継続できるよう、以下の項目に取り組みます。

【過去4年間の実績と平成31年度目標】 定員27名（平成29年6月までは24名）

	27年度	28年度	29年度	30年見込	31年計画
営業日数	263日	257日	257日	257日	259日
延定員（人）	6,312	6,168	6,717	6,939人	6,993人
契約人数（新規）	139（7）	157（21）	143（15）	160（26）	160（20）
内 予防	28（6）	28（5）	21（0）	25（3）	25（5）
延利用者数	5,514人	5,580人	5,801人	6,057人	5,900人
平均利用数／日	21.0人	21.7人	22.5人	23人	25人
稼働率	87.4%	90.4%	83.5%	87%	90%
平均介護度	2.0	2.1	1.96	2.0	2.0
リハマネ加算Ⅰ	901	930	909	889	900
リハマネ加算Ⅲ	--	--	--	12	50
通所リハ 提供体制加算	--	--	--	3760	3800
短期集中リハ	0	0	0	123	150
認短リハ	0	0	0	68	100

通所/介護予防事業

	27年度	28年度	29年度	30年見込	31年計画
リハマネ加算 (予防)	--	--	--	174	180
運動器機能向上 加算 (予防)	205	192	175	124	150
口腔機能向上 加算 (予防)	--	--	--	50	50

- (ア) 利用開始前に自宅を訪問し、実際に生活されている生活環境や日常生活動作能力、家庭内での役割や趣味等を確認し、デイケア利用に対する具体的な生活課題を明確にし、多職種協働で作成した通所リハビリ計画をもとにリハビリやケアを提供します。
- (イ) 医師又はリハビリ専門職 (PT・OT・ST) の評価のもと、病院や施設から退院、退所後に継続したリハビリが必要な方がスムーズに利用できるような努めます。引き続き通所リハマネ加算が継続して算定出来るように努め、必要な研修に参加し、整備をすすめていきます。とくに施設医との連携、リハビリセラピストの有機的な連携を図り、利用者の一人一人のニーズにマッチしたケアプランを作成し実践していきます。
- (ウ) 新規利用希望者が速やかに利用開始していただけるよう、居宅介護支援事業所や各関係機関との連携を図り、利用者数月平均25人以上を目標とし、稼働率の維持・向上を目指します。
- (エ) パワーリハビリマシンや個々の状態に応じた体操など自主トレーニングメニューを充実させ、既存の「受身的なリハビリ」から利用者が自分の人生や生活に対して自らが切り開いていく「主体的なリハビリ」へと行動変容に繋げていきます。又、1日の利用を通して、本人の能力が引き出せるよう「生活リハビリ」の視点を持ち、利用者自身が自分でできる喜びや達成感を感じられるように日々のケアを行っていきます。
- (オ) 利用者の些細な体調や精神面の変化に気づき、早期治療に繋がるよう家族やケアマネージャー、かかりつけ医などの医療機関、その他各介護保険サービス事業所、施設医との連携をさらに密にしていきます。
- (カ) 歯科衛生士の指導・協力をえて、適切な口腔衛生管理・口腔ケアを行い、誤嚥性肺炎の予防、減少に努めます。

(5) 機能訓練室 (リハビリセラピスト<OT・PT・ST>)

利用者様の身体面・精神面・ADL面の改善だけではなく、家屋評価や家族への介護指導などを行い、利用者やその家族が住み慣れた地域で安心・安全に生活して頂

けるようリハビリサービスを提供します。

また昨年と同様に、宮津市総合事業や事業所への訪問指導などの地域に密着したサービスの質の充実を図り、入所リハビリ、通所リハビリ、訪問リハビリ、なぎさクラブを軸に、利用者が入苑生活から在宅まで、または医療入院から在宅復帰まで専門的なりハビリサービスを途切れることなく安心して利用できるよう努めます。

その他、リハビリテーションの専門職としてより質の高いサービスが提供できるよう個人資質を向上するよう努めるとともに、セラピストが算定可能な加算には積極的に介入できるよう柔軟に対応していきます。

【実績と平成31年度目標】（実施回数で示す。一回につき240単位加算）

	27年度	28年度	29年度	30年見込	31年計画
短期集中リハ加算	2042	3444	5308	6540	7200
認短集中リハ加算	0	11	3283	4040	4300
入所・個別リハ (加算なし)	8701	7805	7828	9900	9600
短期入所・個別リハ	192	289	337	400	430
短期入所・個別リハ (加算なし)	203	165	180	130	100
経口維持加算Ⅰ	63	141	197	307	310
経口維持加算Ⅱ	63	141	197	307	310
通所リハでの実績	※通所リハビリテーション部門参照				

【入所リハビリ業務】

(ア) 個別リハビリ

在宅復帰・在宅生活維持支援施設として、また超強化型算定維持のため入所者全員に個別リハビリの週3回提供を維持していきます

(イ) 集中リハビリ

入所者全員を対象にリハビリを実施します。とくに、短期集中リハビリ、認知症短期集中リハビリについては、可能な限り加算を算定し、質の高いリハビリを多くの利用者様に提供し、生活動作能力の改善・在宅復帰を目指します

(ウ) 食事観察・指導

安全においしく食べて頂けるよう食事形態や介助方法の指導を行い、食事観察会議を定期的で開催し、必要な方には経口維持加算を算定します。

(エ) 入所前後、退所前後訪問指導

退所先となる自宅を退所前後ばかりでなく、入所前後にも訪問して家屋や周辺環境・必要な生活動作を把握し、入所中のリハビリ計画に反映させることを通して、退所後の生活に入所中のリハビリに活かします。入退所を繰り返して継続的に利用される方のリハビリ計画や在宅生活へのアドバイスに反映させます。

(オ) 職員指導

前年度に引き続き、職員の腰痛予防・利用者様の力を生かした安全な介護サービス

の提供を目的に職員指導を行います

(カ) 備品管理

車椅子・クッション・歩行車・リフト等安全に使用できるようメンテナンスや利用者に合わせて調整を行います。必要に応じて自助具や福祉機器の導入を提案します。

【短期入所リハビリ業務】

- (ア) 在宅生活が長く継続できるよう、心身機能の状態の変化を追い、必要に応じ福祉用具や介助方法の変更・自主トレメニュー等の提案も行います。
- (イ) 次回の入所や短期入所につながるよう、訪問リハビリを活用するよう法人内外の関係機関との連携を図ります。

【通所リハビリ業務】

- (ア) リハビリ専門職（PT 又は OT）を通所リハに配置してリハビリを実施することにより、ADL を維持して在宅での生活を長く続けられるようサポートします。
- (イ) 通所のケアマネや介護職員と有機的に連携し利用者のニーズにマッチした実践していきます。
- (ウ) 集団リハビリを実施しながら、利用者からのニーズがあり加算要件に合致する利用者に対しては個別に短期集中リハビリ、認知症短期集中リハビリを行います。

【なぎさクラブ（宮津市総合支援事業）】

前年度の経験を踏まえ、より一人一人のニーズに対応した個別計画を作成し、地域高齢者の心身機能向上を図ります。また在宅生活が継続できるよう、随時相談やアドバイスをを行います。嚥下機能維持、口腔ケア、栄養管理など利用者のニーズに対応し、多職種と連携して事業に取り組みます。希望者の増加に伴い、午前に加えて午後にも実施できるよう準備をすすめます。

【訪問リハビリ業務】（平成 29 年 5 月事業開始、29 年度は 10 か月分）

	29 年度	30 年度見込	31 年計画
営業日数	257 日	258 日	259 日
職員数（常勤換算）	1.5 人	2.0 人	2.0 人
契約人数	32 人	32 人	35 人
内 予防	5 人	2 人	5 人
延提供回数	2,100 回	4,476 回	4,500 回
平均提供数／日	8.17 回	20 回	21 回
平均介護度	2.0	2.5	2.0

（1 回＝1 単位 20 分）

	29 年度	30 年度見込	31 年計画
新規契約 介護	32	9	10
予防	5	3	5

- (ア) 個々のケアプランを基に、生活課題や利用目的・リハビリ目標を明確にし、ご自身の人生や生活に対して自らが切り開いていく「主体的なリハビリ」へと行動変容を促していきけるよう介入していきます。
- (イ) 医療機関（主治医）や地域包括支援センター、居宅介護支援事業等の関係機関の信頼を得て、安心して依頼しやすい事業所となるよう努めます。
- (ウ) 利用者の在宅生活の期間を通じ、そのADLを維持できるよう努め、居宅介護部門や他事業所との連携を図ることにより、次の入所利用につながるよう援助を行います。在宅強化型の維持、超強化型の獲得できるよう基盤整備に努めます。

(6) 給食部門

昨年に引き続き 2019 年度も個々のニーズにあった栄養管理や衛生面に注意した安心安全な食事の提供に努め、管理栄養士と調理員の積極的で緊密な連携により、利用者のなごさ苑での生活が豊かになるよう努めます。

	27 年度	28 年度	29 年度	30 年見込	31 年計画
栄養マネジメント 加算（入所）	34,015	33,921	34,067	34,680	35,000
療養食加算（入所）	7,954	7,712	7,532	27,170 (9,057x3)	27,300 (9,100x3)
療養食加算（短期）	359	466	410	1,187	1,200

- (ア) 利用者個々のニーズを把握し、必要な療養食と適切な形態の食事を提供する。嚥下食ピラミッドに関する情報を収集し、誤嚥リスクの高い利用者に安全な食事メニューと食形態を提供できるよう体制を整える。また、施設内の他職種への情報提供に努める。
- (イ) 食事観察会議を定期的で開催し、介護・看護職員、言語聴覚士、歯科衛生士との円滑なコミュニケーションに努め、利用者の誤嚥予防に資する食事の提供に努め、やわらか食や前年度より提供しているソフト食の充実にも取り組みます。
- (ウ) 検食の記録を集約して施設全体に情報提供を行い、栄養マネジメント委員会などを活用して改善策などを検討する。
- (エ) 全ての食事依頼伝票を管理栄養士が把握できるよう、ちょうじゅのシステムとそれ以外の伝票が一括管理できるように方策を検討する。
- (オ) 天橋園通所、ハウゼ、市北部地域への配食等、全ての業務がより円滑に行えるよう職員全員で考え業務見直しに取り組み、施設外での研修にも参加しながら嚥下食のあり方・調理法の研究に取り組みます。
- (カ) 給食部門の職員全員が参加する部署別会議を定期的で開催し、管理栄養士、栄養士、調理員などの連携とコミュニケーションを図り、OJT マニュアルを作成、管理栄養士をはじめとした専門職の人材育成、研修への積極参加、スキルアップ等、働きやすい環境整備を図りチーム力向上を図ります。
- (キ) 保健所等の指導に対応し、業務改善に取り組みます。調理室の清潔保持、整理整頓に努め、感染症等が発生しないよう防止対策に努めます。

(7) 医務室（医師、歯科衛生士、薬剤師）

医師の指導の下、看護部門の協力をえて薬局および医務室の管理を担当します。

薬局（医師、薬剤師）は医薬品の管理を担当し、ジェネリック医薬品の導入をすすめるコストの低減を図ります。定期処方（2週間）の度に見直しを行い、利用者の病状の変化に機敏に対応した臨時処方にも対応できるよう採用医薬品の無駄のない管理に努める。インフルエンザワクチンや甲状腺ヨード剤の管理も担当する

診察室（医師、看護師、歯科衛生士）は、必要な医療器材の整備と管理を担当し、利用者の病状の変化に機敏に対応できるよう情報共有、整理整頓に努める。

歯科衛生士は、歯科医の協力をえて、利用者の口腔ケアについて積極的に指導的役割を担い、口腔衛生管理（体制）加算を維持できるよう努める。訪問歯科診療のための連携を行い、スタッフへの情報伝達や指導に努める。

	27年度	28年度	29年度	30年見込	31年計画
所定疾患施設療養費	244	189	238	180	200
緊急時治療加算	9	0	5	0	5
ターミナルケア 加算（人数）	1人	6人	8人	5人	8人
口腔衛生管理体制 加算（入所）	318	1,263	1,269	1,290	1,300
口腔衛生管理 加算（入所）	0	405	1,027	1,110	1,200
口腔機能向上 加算（通所）	0	62	200	841	850
口腔機能向上 加算（通所予防）	---	---	---	50	50

(8) 事務室

法人本部機能の強化に伴い、本部と連携して業務の効率化と集約を進めるとともに、事務業務の分掌の見直しを積極的にすすめます。欠員となっているなぎさ苑事務長の補充人事と合わせ、事務職員の配置についても法人本部と協議を進めます。

施設については、ナースコールシステムの更新を行い、その運用にあたって種々の調整を行う。その後は、老朽化した施設について、逐一对応、修理などの対応を行う。とくに懸案である空調システムの更新については、エネルギー確保に関わる情勢を含めて研修をすすめる、翌年度（2020年度）の業務計画に盛り込めるよう準備をすすめる。

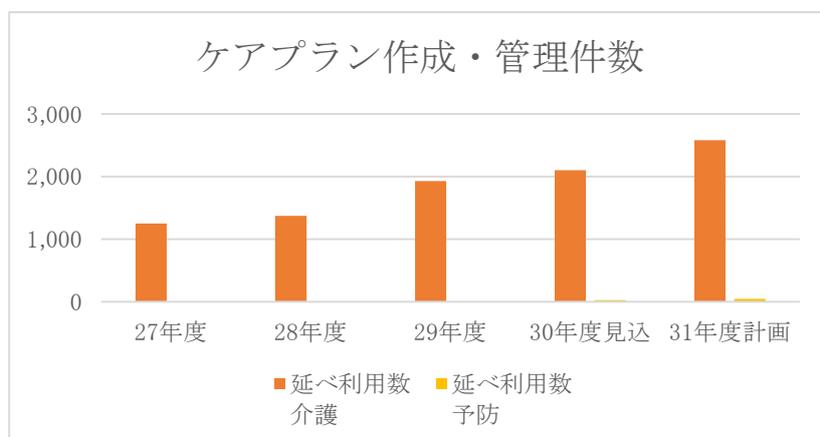
法人本部を含め、全国の関係団体、自治体や消防署、地域の医療機関などとの連携業務を担当し利用者の安全、安心に努め、危機管理体制の見直しをすすめる。

(9) 居宅介護支援事業所

高齢者が要介護状態となっても、住み慣れた地域で個人の有する能力に応じ可能な限り長く自立した日常生活を営むことができるよう、自立支援を目指し必要な相談・援助を行います。

	27年度	28年度	29年度	30年度見込	31年計画
職員数（常勤）	3人	3人	5人	5人	6人
相談件数	9,335	13,130	17,897	20,400	24,200
相談件数／月	778	1,094	1,491	1,700	2,016
ケアプラン作成・管理件数	1,249	1,372	1,928	2,100	2,580
予防	0	0	0	24	48
ケアプラン作成・管理件数／月	151	164	160	175	220
予防	0	0	0	5	5
平均介護度	2.1	2.0	2.1	2.0	2.0

（平成29年4月は4名体制、平成29年5月以降5名体制、平成31年CM6名）



- (ア) 宮津市及びその近隣地域（与謝野町）の住民を対象とし、広く信頼される事業所を目指します。
- (イ) サービスの必要性や優先性など、自立支援の観点から見直しを行い、利用者本位の効率的で適切なケアプランの作成に努めます。利用者への十分な説明を行い、選択の自由の権利保護に努めます。
- (ウ) 在宅生活を支えるかかりつけ医や地域医療機関と連携し、医療介護を切れ目なく提供できるよう「在宅で看取りまでできる支援」を目指し相談援助を行います。
- (エ) 各種外部研修や介護支援専門員研究会などに参加し、外部関係機関との交流の機会を通して、社会資源の開発などを目的とした提案を積極的に行うなど、事業所加算算定事業所としての役割を果たします。
- (オ) 地域のケアマネの資質向上のため事例検討会や研修会を開催します。
- (カ) ケアマネを6名に増員し給付管理件数の増加に努めるとともに対応困難事例を含む新規受け入れに積極的に取り組みます。

【会議 開催計画】

会議名	開催予定日・回数	出席対象者
業務運営会議	毎月 20 日、前後・12 回	施設長、事務長、各主任
入所検討会議	毎週火曜日・52 回	施設長、支援相談員、各部署
看介護主任会議	毎月 20 日前後・12 回	看護、介護主任
デイリハ会議	毎月 25 日前後・12 回	デイリハ職員
フロア会議	毎月フロア毎・12 回	フロア所属介護、看護職員
ユニット会議	毎月各ユニット・12 回	各ユニット職員
居宅会議	毎週・52 回	居宅介護支援専門員
部署別会議	毎月・12 回	部署別職員

【委員会活動】

委員会名	委員名	開催予定・回数
衛生委員会	施設長、各任命職員	毎月第 1 週金曜日・12 回
サービス向上委員会	事務長、各任命職員	毎月第 2 週木曜日・12 回
栄養マネジメント委員会	施設長、各任命職員	毎月第 3 木曜日・12 回
認知症ケア委員会	各任命職員	毎月第 1 か第 2 月曜日・12 回
リスクマネジメント 委員会	施設長、各主任	業務運営会議後・12 回
感染症対策委員会	施設長、各主任	業務運営会議後・12 回
身体拘束廃止・虐待防止委員会	施設長、各主任	業務運営会議後・12 回
褥瘡対策委員会	施設長、各主任	業務運営会議後・12 回
職員研修委員会	施設長、各主任	業務運営会議後・12 回
情報ネットワーク委員会	施設長、各任命職員	毎月第 1 か第 2 月曜日・12 回
合同排せつ委員会	各任命職員	毎月第 3 木曜日・12 回
苦情対応委員会	事務長、各主任	年 2 回定期開催、適宜臨時開催

【事業所内研修・外部研修参加計画】

○内部研修

研修名	開催予定日	参加対象者
職員全体会議	5月開催・年1回	全職員
身体拘束廃止虐待防止委員会	年2回以上	全職員
リスク委員会	年2回以上	全職員
感染症委員会	毎月・年1回	全職員
衛生委員会	1月	全職員
各種研修会	月1回以上	職員研修委員会が中心となって協議を行って研修会や実習を企画、上記各委員会と協力して計画的に開催する
新採用者研修	採用時・随時	施設オリエンテーション 運営方針についての説明 部署主任が他部署研修を依頼、実施

○外部研修

研修名	開催予定日	参加対象者
京老健・管理者部会	定期、臨時随時	施設長、事務長、各主任
京老健・看護介護部会	定期、臨時随時	看護職員、介護職員
京老健・リハビリ部会	定期、臨時随時	機能訓練室
京老健・ケアマネ部会	定期、臨時随時	施設ケアマネ・居宅ケアマネ
京老健・相談員部会	定期、臨時随時	相談室
京老健・栄養部会	定期、臨時随時	管理栄養士
全老健・各職種研修会	定期、臨時随時	当該職種